

構造設計特記仕様書

1. 建築物の構造内容

(1) 建築場所

三重県津市豊が丘2丁目 地内

(2) 工事種別

■ 新築 ■ 増築 □ 改築

(3) 構造設計一般建築士の関与

■ 必要 □ 必要としない

■ 法第20条第一号（高さ60m超）

■ 法第20条第二号（RC造高さ20m超 □ S造4階建以上 □ 木造高さ13m超 ■ その他）

注（3）構造設計一般建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書を参照して確認する。

(4) 構造種別

□ 木造（W）

□ 補強コンクリートブロック造（CB）

■ 鉄骨造（S）

□ 鉄筋コンクリート造（RC）

□ 壁式鉄筋コンクリート造（WRC）

□ 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC）

□ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造（WPRC）

□ プレキャスト鉄筋コンクリート造（PRC）

(5) 階数

地下 階 地上 3階 塔屋 階

(6) 主要用途

小学校（エレベータ棟）

(7) 屋上付属物

□ 広告塔

□ 高架水槽

□ 太陽光発電パネル

□ 煙突

□ キュービクル

(8) 特別な荷重

■ エレベーター 11人乗（機械室レス）

□ リフト kN

□ ホイスト kN

□ 倉庫積載用 kN/m<sup>2</sup>

□ 受水槽 kn

(9) 付帯工事

□ 門扉

□ 壁面

□ 柱補修

□ 機械式駐車場

□

(10) 増築計画

□ 有り（）

■ 無し

(11) 構造計算ルート

X方向ルート ― (3) Y方向ルート ― (3)

2. 使用構造材料

（1）コンクリート				
適用場所	種類	水セメント比	■ 65%以下	□ 55%以下
		設計基準強度 Fc=N/mm <sup>2</sup>	品質基準強度 Fg=N/mm <sup>2</sup>	スランプ cm
地コンクリート	■普通	18	18	15
土間コンクリート	■普通	21	21	15
基礎・基礎梁	■普通	24	24	18
柱・梁・床・壁	■普通、□軽量	24	24	18
屋上付コンクリート	□普通、□軽量			
押えコンクリート	□普通、□軽量	18	18	15
給排水の種別		■ 砂	□ 山砂	□ 人工
短骨材の種類		■ 砂利	■ 砕石	□ 人工
水の区分		■ 水道水	□ 地下水	□ 工業用水
産地材料の種類（JIS）		■ AE減水剤	□ 高性能AE減水剤	□
呼び強度を保证する材料、養生		■ 材齢（■ 28日	□ 56日	□ □ □
		■ 養生（□ 現場封かん	□ 現場水中	■ 標準

■ 単位水量は185kg/g・m<sup>3</sup>で、単位セメント量は270kg/g・m<sup>3</sup>以上とする。

（2）コンクリートブロック（CB）  
□ A種 □ B種 □ C種 厚 100 □ 120 □ 150 □ 190 使用箇所（□ □ □）

種別	種類	度	使用箇所	継手工法
貫通部 (JIS G 3112)	■ SD295A	D10~ D16	躯体全数	■ 重ね継手
				■ カズ圧継手
	■ SD345	D19~ D25	躯体全数	■ 溶接継手
	■ SD390	D29~	躯体全数	□ 機械式継手
( )				
高強度せん断補強筋	□ 材種			各継手の使用手続については
	□ 大臣認定番号 MFR-			本仕様S（2）鉄筋の後の鉄筋
丸鋼(JIS G 3112)	□ SR235			継手等の■に表示すること。
溶接金棒(JIS G 3511)				

（4）鉄骨				
種類	使用箇所		取組環境	JIS規格・認定番号等
■ SS400 □ SM400 ■ SM400 A B C	梁		□ 有 ■ 無	JIS G 3101
□ STPR400 □ STPR490 □	柱		□ 有 ■ 無	JIS G
■ BCP235 □ BCP235 □ BCP325	柱		■ 有 □ 無	大臣認定品 認定番号 M S T L -
□ SM490 A ■ SM490 B ■ SM490 C	ダイヤフラム		□ 有 ■ 無	JIS G
■ SSC400 □			□ 有 □ 無	JIS G
溶接材料 □ JIS Z				

（5）ボルト  
■ 高力ボルト  
□ F10T(JIS B1186) ■ S10T 認定番号( ) □ F8T 認定番号( ) □ M2 □ M6 □ M20 □ M22 □ M24  
□ ボルト(JIS B1180) M M □ 4.8(4T) □  
■ アンカーボルト  
■ SS400 M L= mm フット（ロシングル、ロダブル）  
□ M L= mm フット（ロシングル、ロダブル）  
□ 溶付スタッドボルト  
φ= L= mm 使用箇所（□柱 □大梁 □小梁）  
φ= L= mm 使用箇所（□柱 □大梁 □小梁）

材種	形式 厚 その他	使用箇所	仕様・補注
ALC (JIS A 5416)	厚125	■ 壁 ■ 床版	ロスライド ロボルト止め ■ ロッキング □
折板	H= 厚	□ 屋根 □	□
特殊デッキプレート (JIS G 3352)	型式	□ 床版 □	□
デッキプレート (JIS G 3352)	型式 Q355厚12	■ 床版 □	□
ギーストプレート (JIS G 3352)	型式 厚	□ 床版 □	□

3. 地盤

（1）地盤調査資料

■ 有 ■ 敷地内 □ 近隣 □ 無（調査計画 有 □ 無）

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	○		静圧貫入試験			標準貫入試験	○	
水平地盤反力係数の測定			土質試験			物理探査		
試験坑（支持層の確認）			平板載荷試験			液状化判定		
スウェーデンサウンディング			現場透水試験			PS試験		

注）上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。

（2）ボーリング標準貫入値、土質構成、（基礎、杭）の位置を明記すること）

深度

土質

N値

10 20 30 40 50 60

○調査地盤

○位置図

※柱状図はN:1を示す。

○支持地盤、地層及び深さについてのコメント

○孔内水位

○近隣データの調査地盤と設計地盤とは約 m の距離がある

○備考

別紙参照

注）地盤調査及び試験坑の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

4. 地業工事

（1）直接基礎

□ ベタ基礎 □ 布基礎 □ 独立基礎 試験地 □ 有 □ 無

深さ GL - m、支持層 - 長期許容耐力 kN/m<sup>2</sup> 載荷試験 □ 有 □ 無

（2）地盤改良

□ 液壓混合処理工法 □ 深層混合処理工法 □

深さ GL - m、長期許容支持力 kN/m<sup>2</sup> 載荷試験 □ 有 □ 無

注）「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針・日本建築センター2018」を参考とする

（3）杭基礎

支持層 - シルト混り砂

杭種	材料	施工法	備考
□ RRC □ PRC	PRC（□ I 種 □ II 種 □ III 種）	□ 打ち込み	
□ PHC □ H鋼	PHC（□ A 種 □ B 種 □ C 種）	□ 埋込み（セメントミルク工法）	
■ 鋼管 □ 摩擦杭	鋼材 □ SS400 ■ STK490	□ レボローリング拡大根固め工法	認定第 号
□ SC 杭 □	□ JIS	■ EX工法 同等以上	年 月 日
□ 場所打ち	コンクリート Fc= N/mm <sup>2</sup>	□ オールケーシング	□ 杭透杭
コンクリート杭	スランプ Fg= N/mm <sup>2</sup>	□ リバースキュレーション	□ ミニアース
	セメント量 kg/m <sup>3</sup>	□ BH □ 深壁	□ 手掘
	単位水量 kg/m <sup>3</sup>		□ 機械掘
	鉄筋 主筋 SD		
	HCP SD		

杭仕様	■ 施工計画書承認	■ 杭施工結果報告書		
試験杭（■ 有 □ 無）	（□ 打ち込み ・ □ 載荷 □ 孔壁測定）	1本		
杭径（mm）	設計支持力（kN）	杭の先端の深さ（m）	本数	特記事項

別紙参照

5. 鉄筋コンクリート（施工方法等計画書）

本構造設計特記仕様書はコンクリートの設計基準強度（Fc）が 36N/mm<sup>2</sup>以下に適用し、鉄筋の材種はSD390以下に適用する。

（1）コンクリート

■ コンクリートは、JIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するJIS認定工場の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS 5 による。

□ 耐久設計基準強度 Fd □ 短期 □ 標準 □ 長期 □ 超長期

■ セメントは、JIS R 5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。

■ 調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

■ 事中、着中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

■ フレッシュコンクリートの固化地測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を同一測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。

測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

■ 構造用コンクリートについて現場での圧縮強度試験方法はJASS 5 T-603によることとし、其試体は現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。

また、打ち込み量が、150m<sup>3</sup>を超える場合は、150m<sup>3</sup>ごとまたは、その半数ごとに一回を標準とする。

一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。

尚、供試体の数量、回数については建築工事監理指針参照し、工事監理者と協議すること。

■ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが、分離しない範囲とする。ポンプ圧送に関しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。

尚、打ち込み継続中における打替ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は120分、25℃以上の場合は90分以内とする。

■ コンクリート打ち込み中及び打ち込み後5日間は、コンクリートの温度が2度を下らないようにする。

■ 乾燥、振動等によってコンクリートの収縮及び硬化が妨げられないように養生を行う。

（2）鉄筋

■ 鉄筋はJIS G 3112の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、コンクリート同様、JASS 5 による。

□ 高強度せん断補強筋は、JIS G 3137に規定されるD種1号選定品とする。

■ 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造標準配筋図（1）（2）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋基準図（1）（2）」による。

■ 鉄筋継手等

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径
	（1）引張り耐力の部位				
	（2）（1）以外の部位（注）				
	A 級	B 級	SA 級		
■ 重ね継手	■ 40d □ 35d □（）d				■ D(16)以下
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	□			■ D(19)以上
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□ □			□ D( )以上
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□ □ □ □			□ D( )以上

注）（1）以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書 2007）」によって検討した部材の条件・仕様によること。

■ D19未満は、すべて重ね継手とする。

■ 継手部分の施工要領は）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」（ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事）による。

継手部の検査方法 ・ 外観検査 ■ 有 □ 無 ・ 引張試験 □ 有 ■ 無 ・ 超音波探傷試験 ■ 有 □ 無

■ 柱の帯（HOPP）の加工方法は、■ H型（タカ型） □ W型（溶接型） □ S型（スライラ型）とする。

□ コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取組 要綱」第4条の試験機関で行うこと。

代行業者名

試験機関名

代行業者とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

（3）型枠

■ 材料		■ 施工		JASS 5 による。	
■ 型枠最小貯留期間		■ 型枠		■ 型枠	
コンクリートの圧縮強度	セメントの種類	建築部材	せき板	支柱	はり下
		基礎、はり、柱、壁	スラブ		
コンクリート (B)	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント
	高強度ポルトランドセメント A 種	高強度ポルトランドセメント A 種	高強度ポルトランドセメント A 種	高強度ポルトランドセメント A 種	高強度ポルトランドセメント A 種
	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種	シリカセメント A 種
	15℃以上	2	3	8	17
コンクリート (B)	5℃~15℃	3	5	12	25
	5℃未満	5	8	15	28
コンクリートの圧縮強度		設計基準強度の		設計基準強度の	
		85%		100%	

注）1）片持ちり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、監理者の指示による。

注）2）大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。

注）3）支柱の盛りかえは、必ず直上隣のコンクリート打ち後とする。

注）4）盛りかえ後の支柱頂部には、薄い厚板、角材または、これに代わるものを用いる。

注）5）支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえしてはならない。

注）6）直上隣に著しく大きい横断荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛りかえを行わないこと。

注）7）支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動又は衝撃を含まないように行うこと。

6. 鉄骨工事

（1）鉄骨工事は指示のない限り下記による

■ 日本建築学会「JASS 6」「鉄骨検査基準」

■ 社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」

■ 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の良い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

（2）工事監理者の承認を必要とするもの

■ 制作工場 ■ 製作要領書 ■ 工作図 ■ 施工計画書

■ 認定または登録工場（大臣認定 S H M R プレート）

■ 材料規格証明書※、または試験成績書

■ 鋼材 ■ 高力ボルト □ 特殊ボルト □ スタッポルト

※社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明書、またはミルシート。

■ 社内検査表 □

（3）工事監理者が行う検査項目

（□印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること）

□ 現寸検査 □ 組立、開立検査 ■ 製品検査

■ 溶接検査 □

（4）接合部の溶接は下記によること

■ 平成12年建設省告示1464号第二号イ、ロ

■ 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取組要綱

■ 日本建築学会「溶接工作基準、問解図Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅷ」

■ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

（5）接合部の検査

■ 溶接部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数				備考
		工機自主検査	第三者受入検査	工事監理者		
■ 完全溶込み溶接部（突合せ溶接）	外観検査（※）	100 %	100 %	%	%	※平成12年建設省告示第1464号第（目録及び附則）による（注）受入検査の適用に基づき必要となる検査物の割合に実施する
	超音波探傷試験	100 %	AOQL 4 第6水準	%	%	
	内観検査（注）	%	%	%	%	
	マクロ試験、その他	%	%	%	%	
□	外観検査（※）	%	%	%	%	

第三者検査機関名

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注1）現場溶接部については原則として第三者による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと

注2）知事が定める重大な不具合が発生した場合は、是正前に対象所を建築主主に報告すること

■ 高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

給力導入試験 □ 要 ■ 否 高力ボルトすべり係数試験 □ 要 ■ 否

■ 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の実量が無いことを確認する。

■ トルシア形高力ボルトは二次締め後、ピンチゲルが破断していることを確認する。

（6）防錆塗装

■ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。

錆止めペイントは、■ JIS K 5674、□、□、□ を使用して、4つ重2回塗り標準とするが、実状に応じて決定すること。

■ 現場における高力ボルト接合部の薬品調査は入浴に行い、塗装は、工塵塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

（7）耐火被覆の材料

■ 吹付の耐火被覆時間

7. 設備関係

建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

■ 建築設備（昇降機を除く）、建築設備の支持構造部及び繋結金物は、鋼索又は鋼材のものがよいものとする。

■ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの（以下「屋上水槽等」という。）は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、建築物の構造耐力上主要な部分に、繋結すること。

■ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支持を設けたものを除き、90cm以下とする。

■ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さは5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

■ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備（給気設備を除く）は、

□ 廊下、土庄及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全に支障のない構造とすること。

□ 建築物の部分を通過して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

□ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

□ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

■ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等にあつては、平成12年建設省告示第1389号により、廊下並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

■ 給湯設備とは、廊下、土庄及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全に支障のない構造とすること。

■ 給湯設備が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全に支障のない構造として、平成12年建設省告示第1389号第5に規定する構造方法によること。

\* 「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

8. その他

■ 諸官への提出書類は遅滞なく提出すること。

■ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。

■ 必要に応じて記録写真を保管すること。

一級建築士 第332033号  
構造設計一級建築士 第8984号 井上 貴智

（原図A2）

■：NOTE		Job Title 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		DATE	
		Drawing Title 構造設計特記仕様書		SCALE	
		設計担当		A2:N・S A3:N・S	
		多湖 弘樹			
		一級建築士 第382361号			
		S-01			

鉄筋コンクリート構造配筋標準図01

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図面に優先して適用する。  
(2) 記号

d・・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径  
φ・・・間隔 r・・・半径 〇・・・中心線  
hφ・・・部材間の内法高さ ST・・・あばら筋  
S、HOOP・・・補強帯筋 φ・・・直径又は丸鋼

D・・・部材の成  
Lφ・・・部材間の内法距離  
HOOP・・・帯筋

2. 鉄筋加工、かぶり

- (1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

図	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部又はスラブと同時に打ち込むT型及びL型梁のキャップタイにのみ用いる。
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	
折曲げ内法寸法Rは、SR235～SD345の径1.6およびD16以下は3d以上、SD295～SD345のD19～D38は4d以上、D41およびSD390は5d以上、スラブ筋、壁筋に丸鋼は使用しない。				

- (2) 鉄筋中間部の折曲げの形状、鉄筋の折り曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SR295 SD295A・B SD345	16φ以下 D16以下 19φ以上 D19以上	3d以上 4d以上
	上記以外の鉄筋	SD295A・B SD345 SD390	D16以下 D19～D25	4d以上 6d以上
			D29～D41	8d以上

- (3) 鉄筋の定着及び重ね接手の長さ

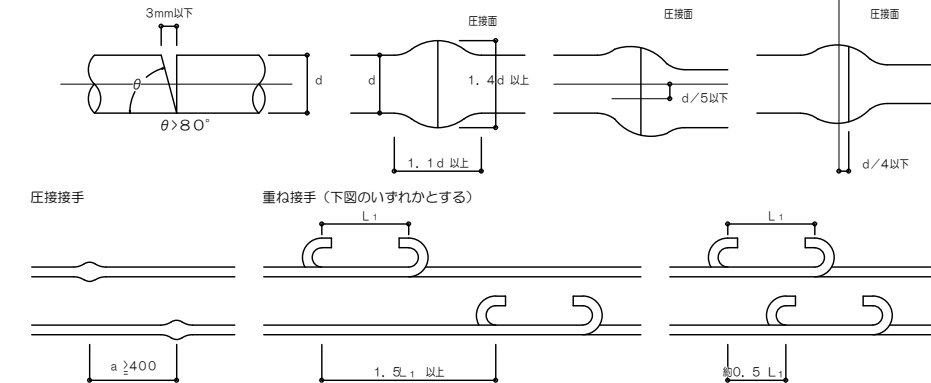
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm <sup>2</sup> )	定着の長さ		特別の定着及び重ね接手の長さ(L1)
		一般(L2)	下ば筋(L3)	
SD295A SD295B	18	40dまたは30dフック付	小梁	45dまたは35dフック付
	21	35dまたは25dフック付	スラブ	40dまたは30dフック付
	24～36	30dまたは20dフック付		35dまたは25dフック付
SD345	18	40dまたは30dフック付	20dまたは10dかつ150mm以上	50dまたは35dフック付
	21	35dまたは25dフック付		45dまたは30dフック付
	24、27	35dまたは25dフック付		40dまたは30dフック付
	30、33、36	30dまたは20dフック付		35dまたは25dフック付

【注】許容応力度計算、許容応力度等計算、その他構造計算を要さない小規模建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は40dとする。

継手

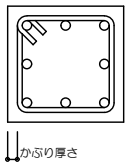
- 1 末端のフックは、定着及び重ね接手の長さに含まない  
2 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする  
3 直径の異なる鉄筋の重ね接手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする  
4 D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない  
5 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



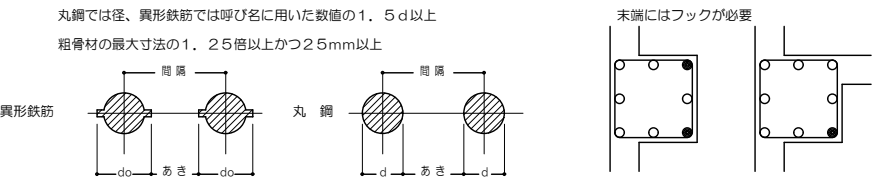
- (1) かぶり厚さ(単位:mm)

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。

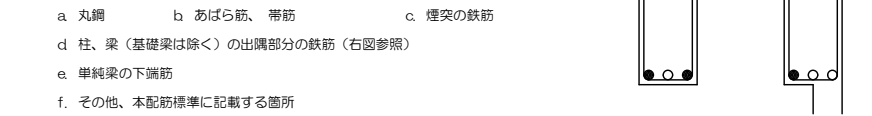


- 【注】 1 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。  
2 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。  
3 コンクリートの品質及び施工方法に拘り、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。  
4 軽量コンクリートの場合は、10mm減しの値とする。  
5 ( ) 内は仕上げがある場合。  
6 土に接する部分のかぶりは増加する厚さを打ち増しとする。

- (5) 鉄筋のあき



- (6) 鉄筋のフック

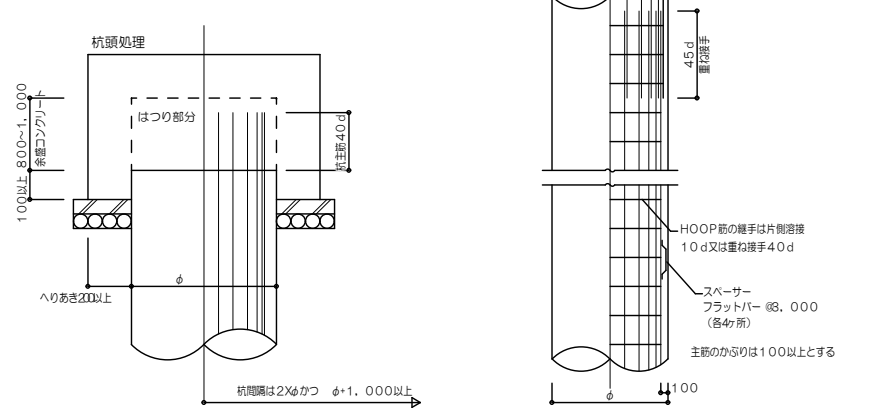


3. 杭(地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

- (1) P C杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

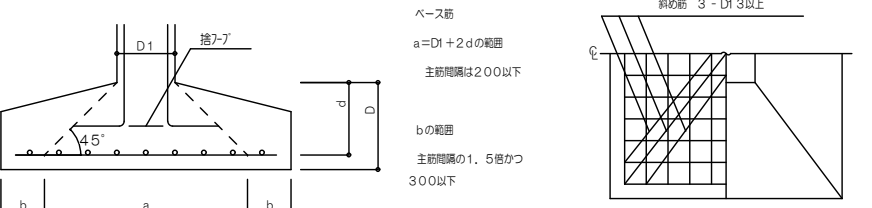
所定位置に止まった場合	所定より短く止まった場合
杭 径 300φ、350φ、400φ、450φ、500φ、600φ	
補 強 筋 6-D13、8-D13、10-D13、8-D16、10-D16	
HOOP D10 - 間 50	

- (2) 現場打ちコンクリート杭

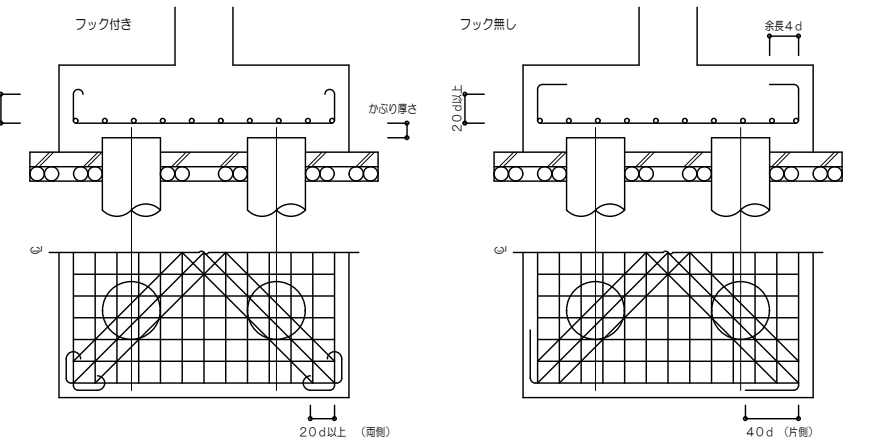


4. 基礎

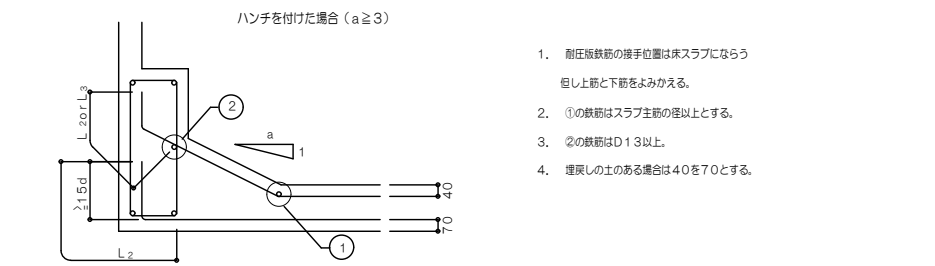
- (1) 直接基礎



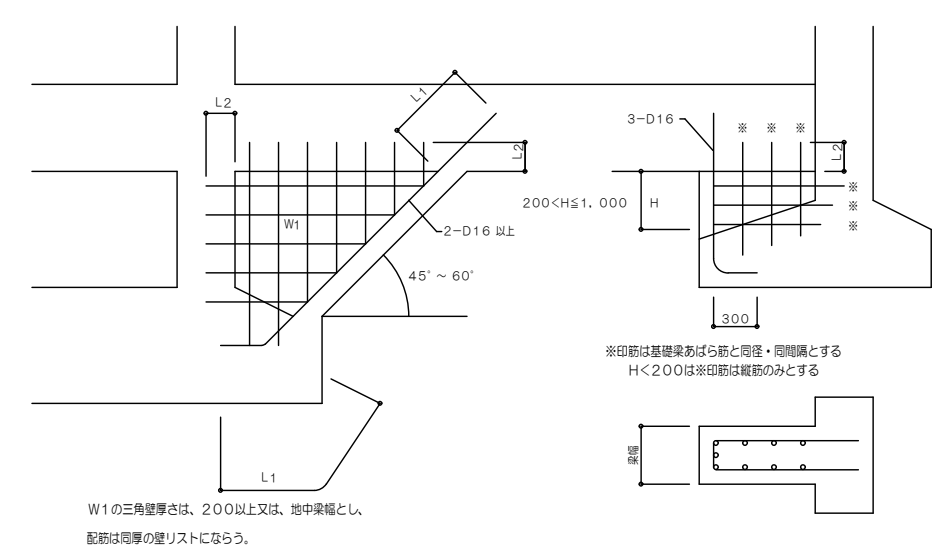
- (2) 杭基礎



- (3) ベタ基礎

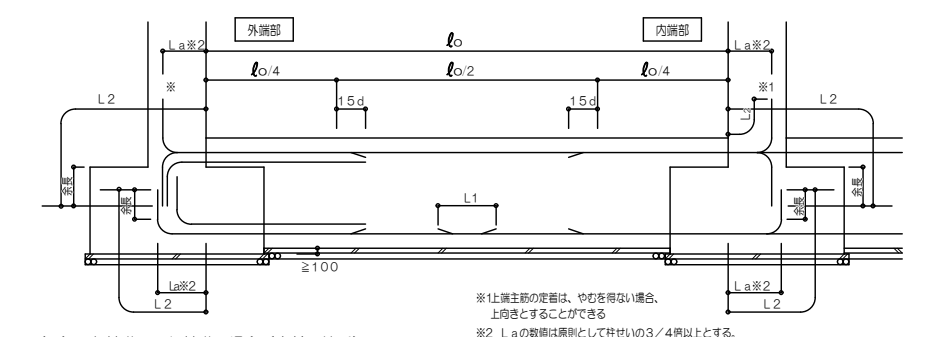


- (4) 基礎接合部の補強

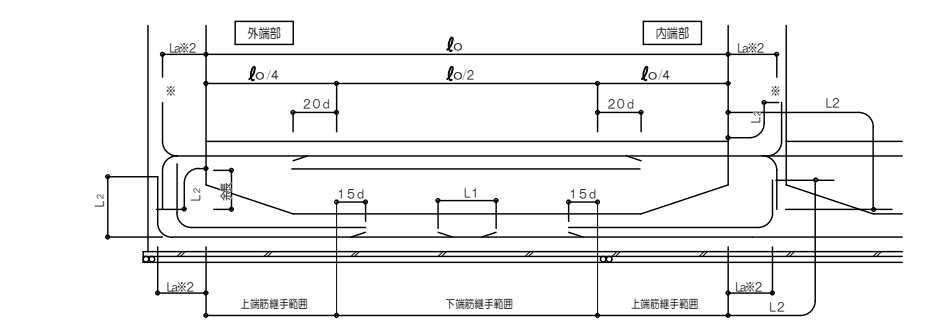


5. 地中梁

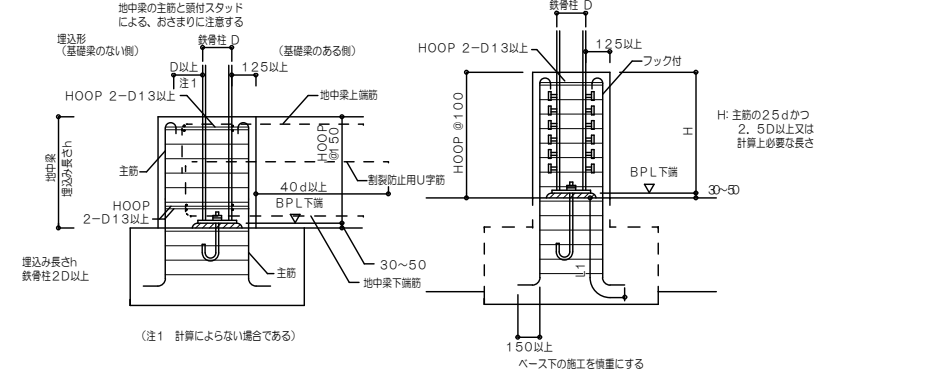
- (1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、接手)



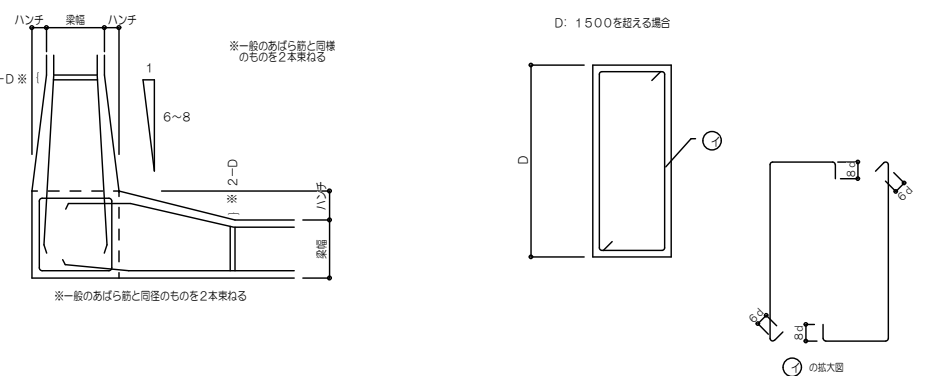
- (2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、接手)



- (3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋

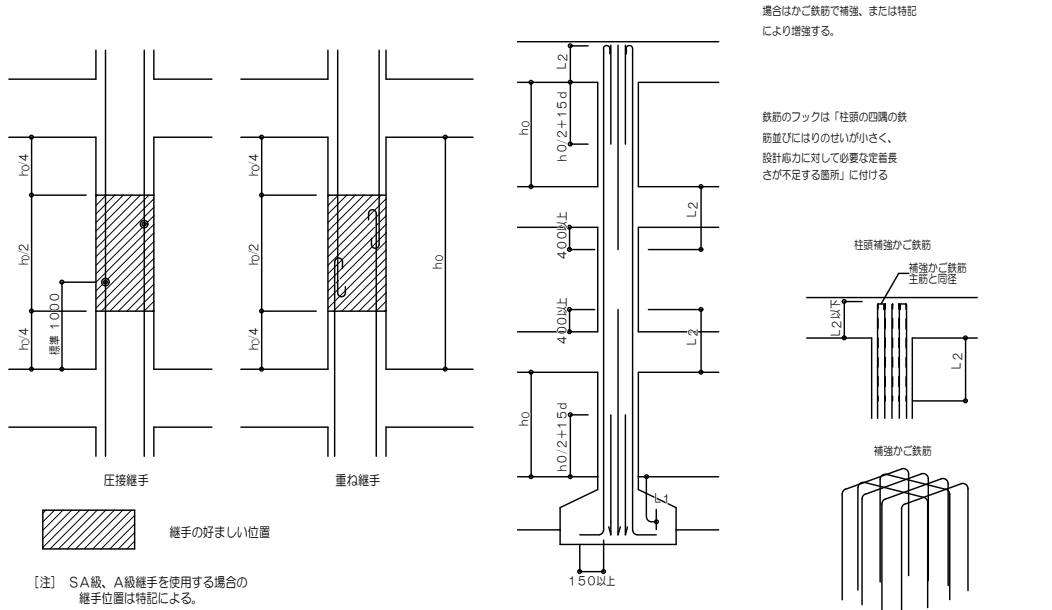


- (4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

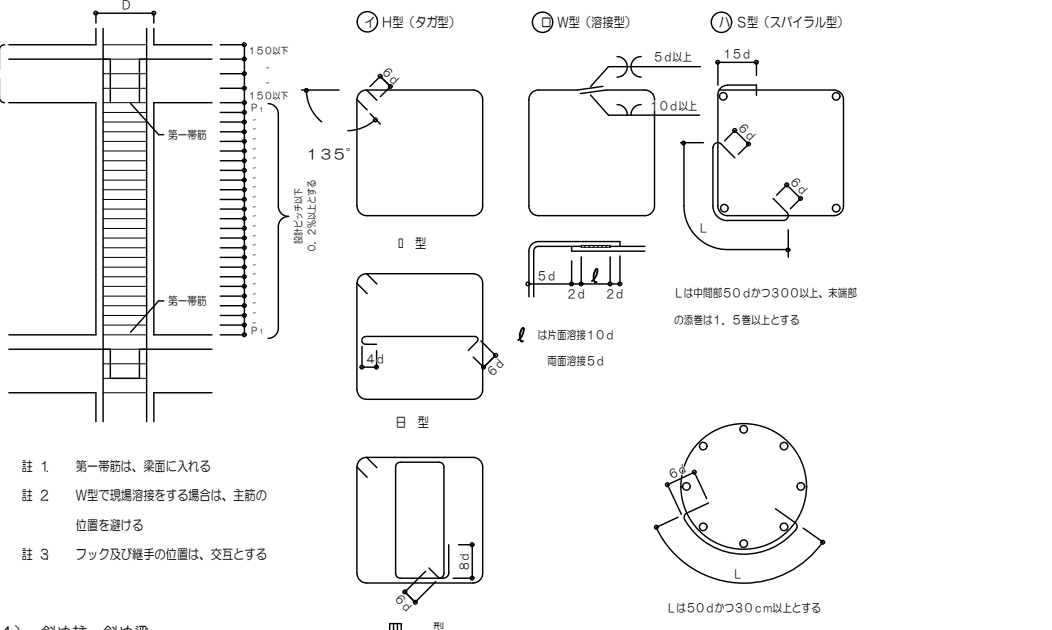


6. 柱

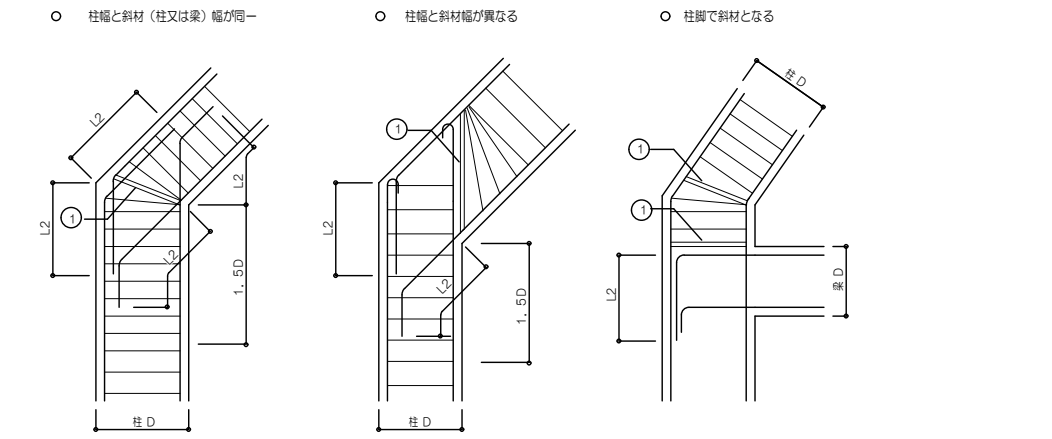
- (1) 柱主筋の継手



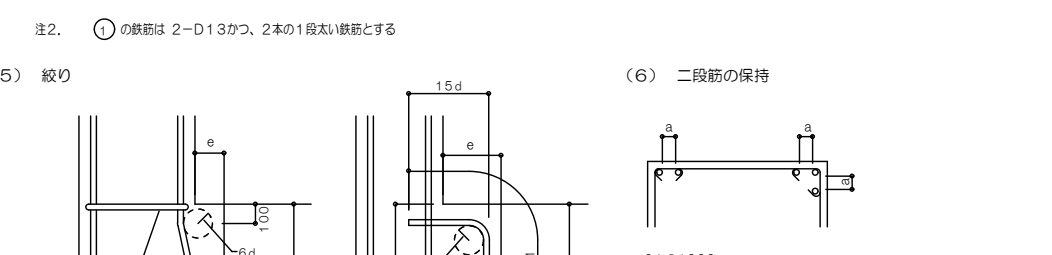
- (2) 柱主筋の定着



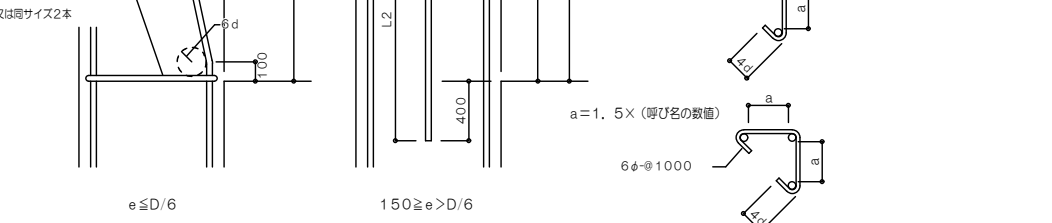
- (3) 帯筋



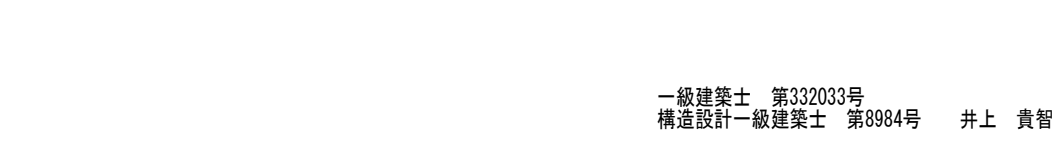
- (4) 斜め柱、斜め梁



- (5) 絞り



- (6) 二段筋の保持



一級建築士 第332033号  
構造設計一級建築士 第8984号 井上 貴智  
【原図A2】

■: NOTE

NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社  
三重県知事登録第1-518号

Job Title 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事

Drawing Title 鉄筋コンクリート構造配筋標準図01

多湖 弘樹

一級建築士 第382361号

DATE

SCALE

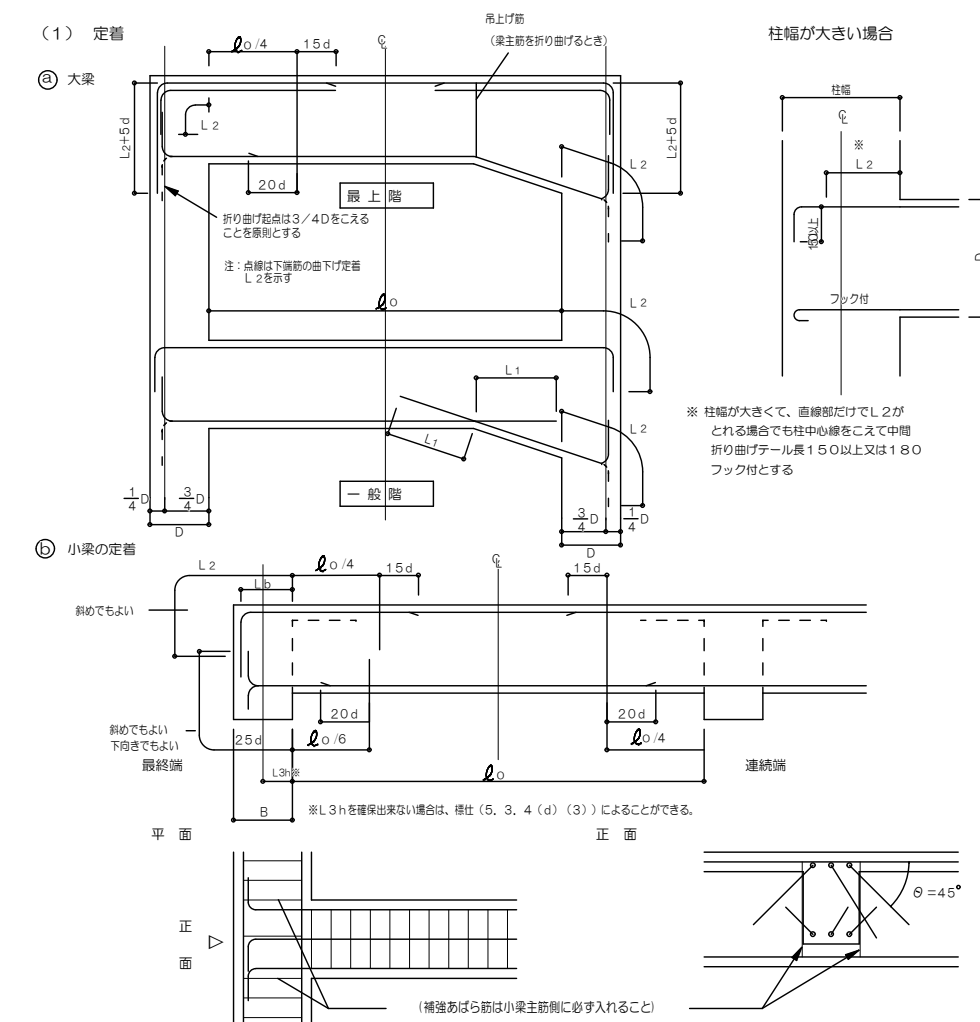
A2:N・S A3:N・S

S-02

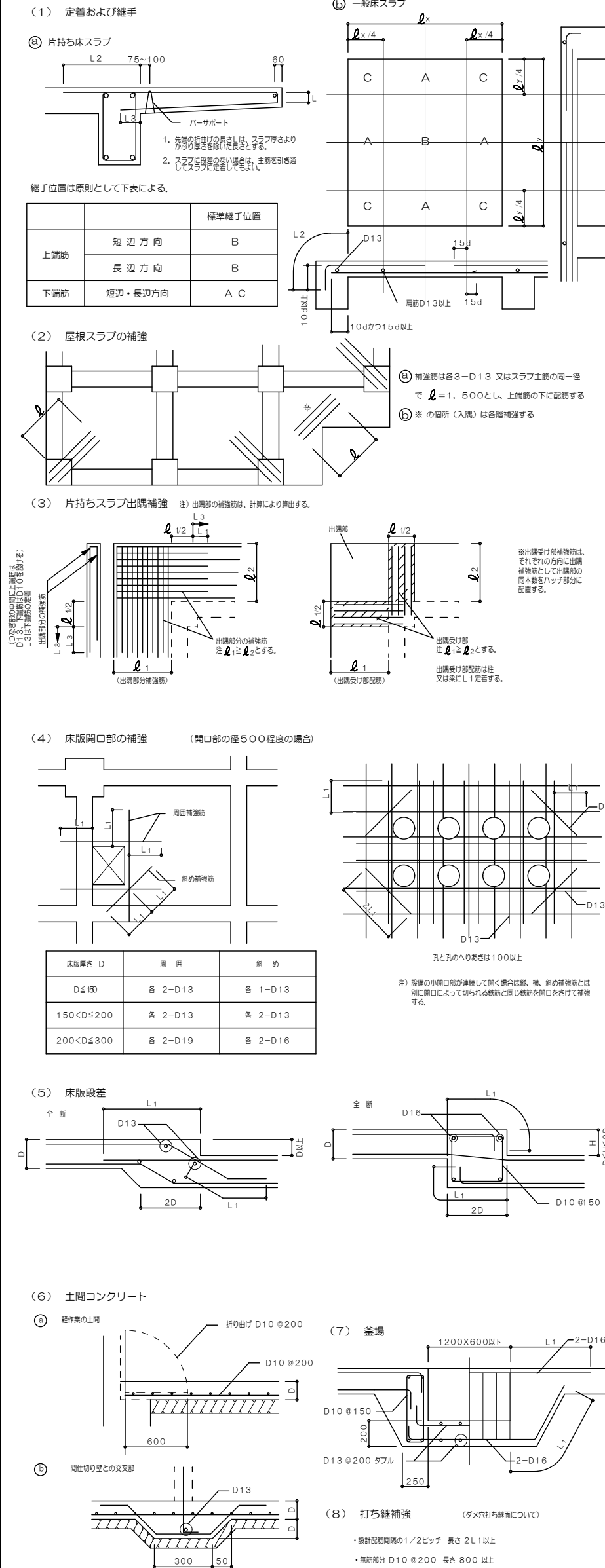
## 鉄筋コンクリート構造配筋標準図02

L=鉄筋コンクリート構造配筋 標準図 (1) の2- (3) による。

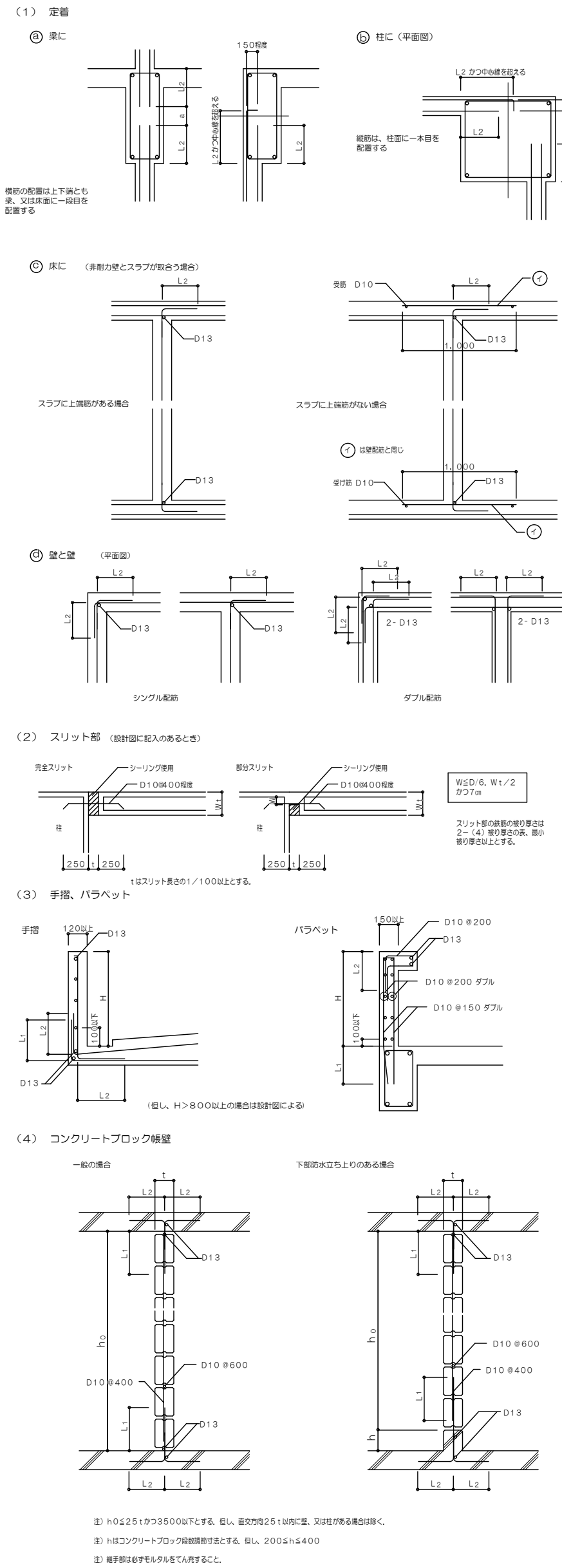
## 7. 大梁、小梁、片持梁



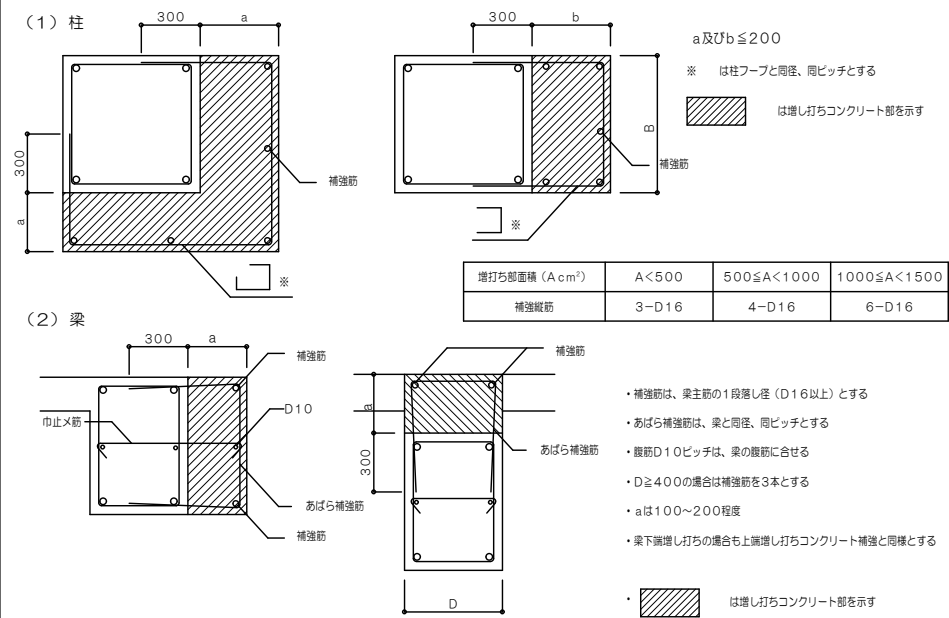
## 8. 床版



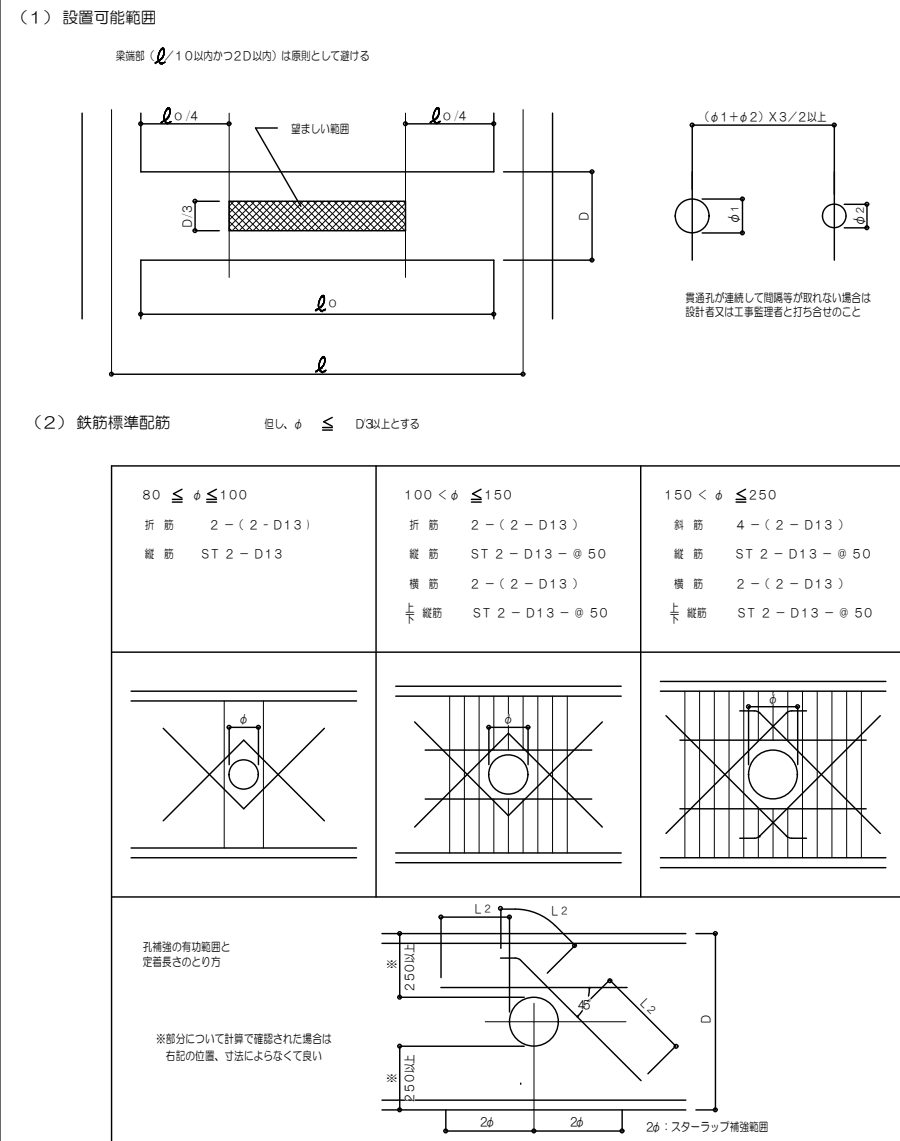
## 9. 壁



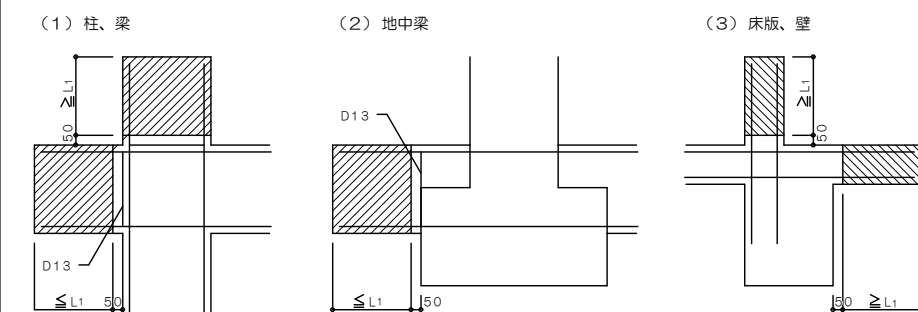
## 10. 柱、梁増し打ちコンクリート補強



## 11. 梁貫通孔補強



## 12. 増築予定

一級建築士 第332033号  
構造設計一級建築士 第8984号 井上 貴智  
[原図A2]

■: NOTE

NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社  
三重県知事登録第1-518号

Job Title 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事

Drawing Title 鉄筋コンクリート構造配筋標準図02

多湖 弘樹  
一級建築士 第382361号

設計担当

DATE  
SCALE  
A2:N・S A3:N・S

S-03

鉄骨構造標準図01

1. 一般事項

(1) 材料及び検査

- (a) 構造設計仕様による  
(b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする  
(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する

(2) 工作一般

- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監督者の承認を得る  
(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による  
(c) 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする

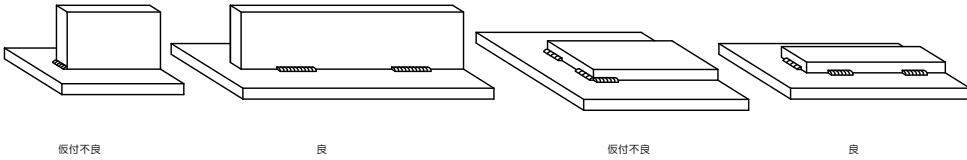
(3) 高力ボルト接合

- (a) 本総めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない

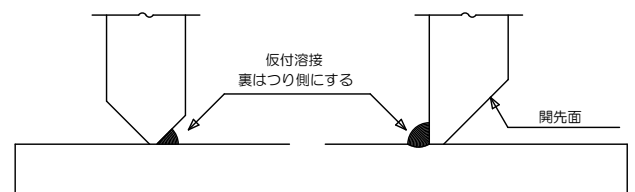
(4) 溶接接合

- (a) 溶接技能者  
溶接技能者は施工する溶接に適用する JIS Z 3801 (手溶接) 又は JIS Z 3841 (半自動溶接) の溶接技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする  
(b) 溶接機器  
(イ) 交流アーク溶接機 300A ~ 500A  
(ロ) アークエアークラウジング機 (巻流)  
(ハ) サブマージアーク溶接機 1式  
(c) 溶接方法  
アーク手溶接 (MC)  
セルフ (ノンガス) シールドアーク半自動溶接 (NGC)  
ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)  
アークエアークラウジング (AAG)  
(d) 溶接姿勢  
下向 F  
辺向 V  
横向 H  
上向 O

- (e) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う  
(イ) 仮付位置  
組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、隠蔽となり難い箇所は建ける

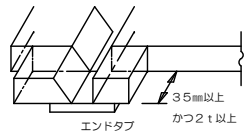


- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



- (イ) エンドタブ

- I 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける  
II エンドタブの材質は、母材と同質とする  
III エンドタブの長さは、MC : 35mm以上  
NGC、GC : 40mm以上とし格配のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度短し切断して、グラインダー仕上げとする  
IV プレス鋼板タブ、図形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監督者の承認を得る



- (ロ) 裏あて金

- 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする  
(ハ) スカーラップ半径は30~35mmと、10mmのダブルアールとする  
(ニ) 裏はつり  
標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監督者の確認を履行し、部材に確認マークをつける  
(ホ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先面をいためない様に、養生を行なう

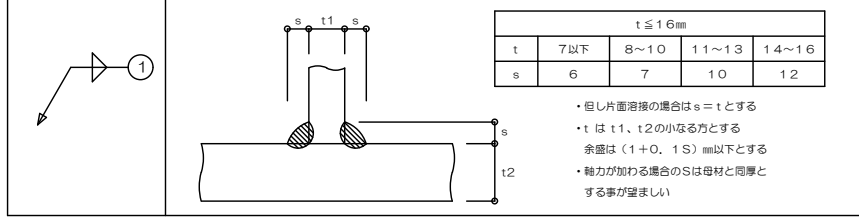
(5) 塗装

- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

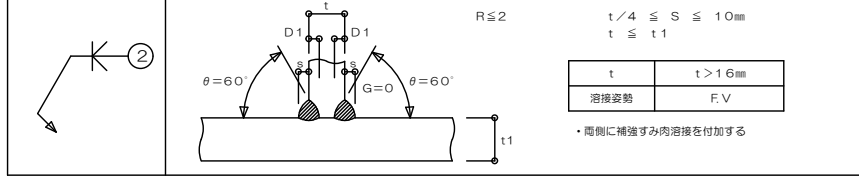
2. 溶接標準図

(注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長 (単位: mm)

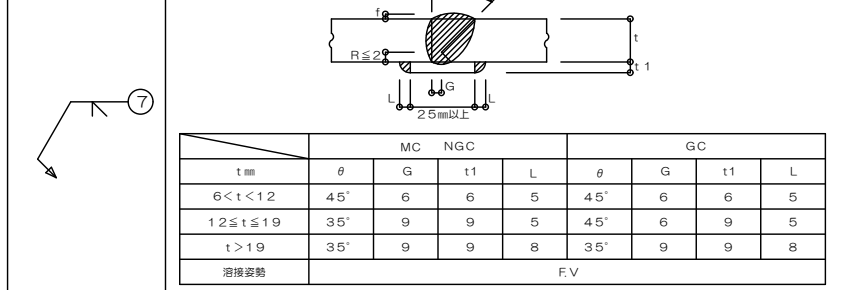
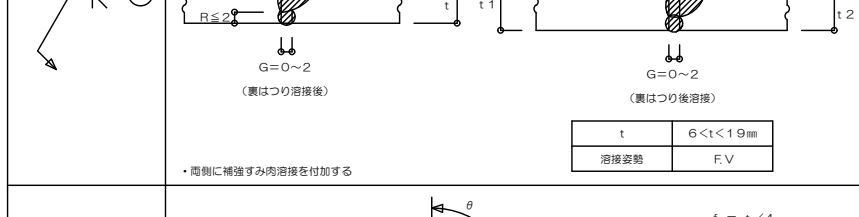
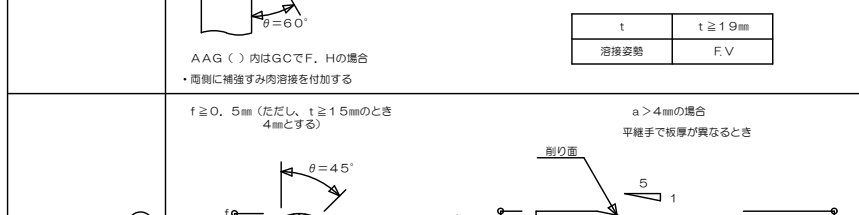
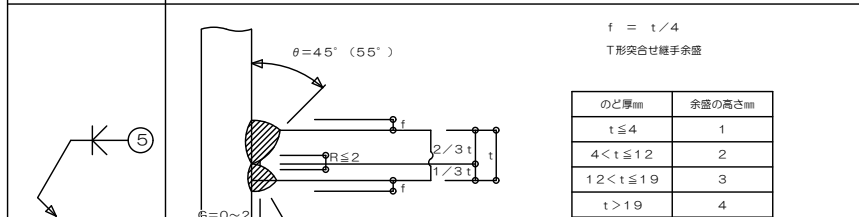
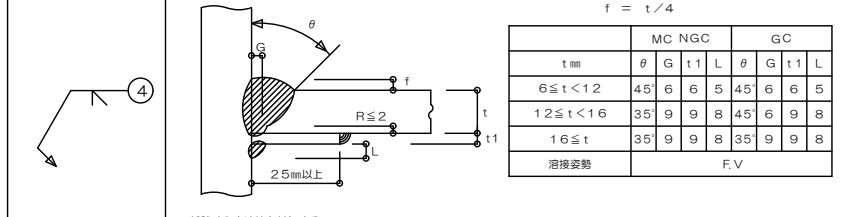
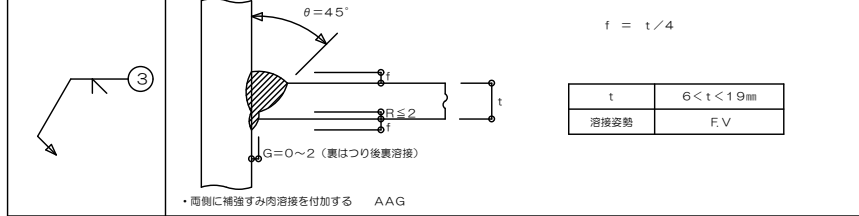
(1) スミ肉溶接



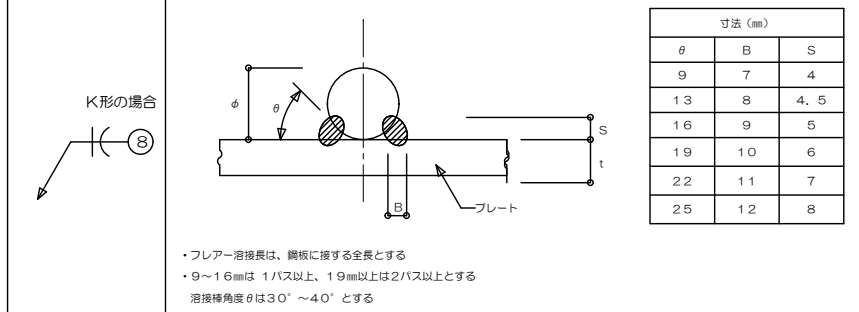
(2) 部分溶け込み溶接



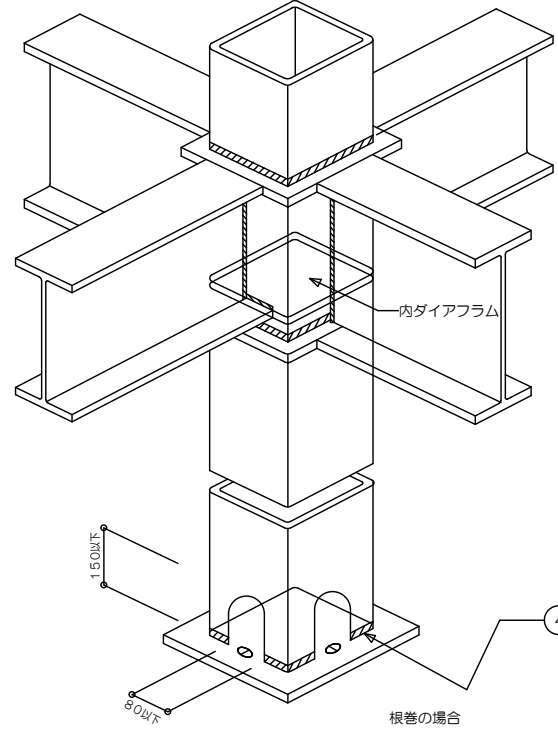
(3) 突合せ溶接



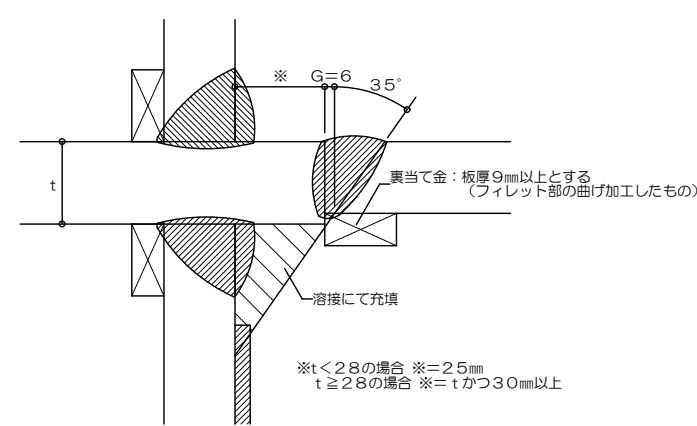
(4) フレアー溶接



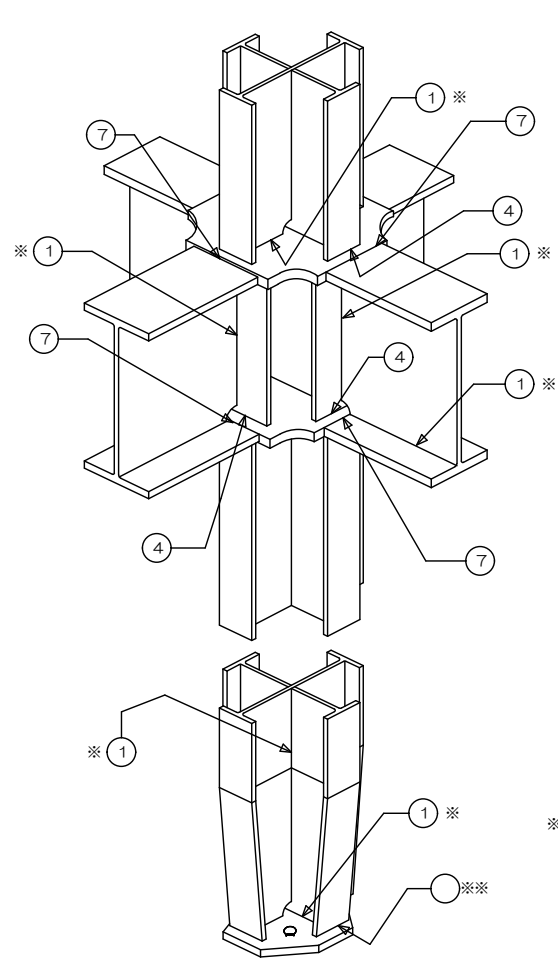
● BOX型 (通しダイヤフラムの場合)



● ノンスカーラップ工法

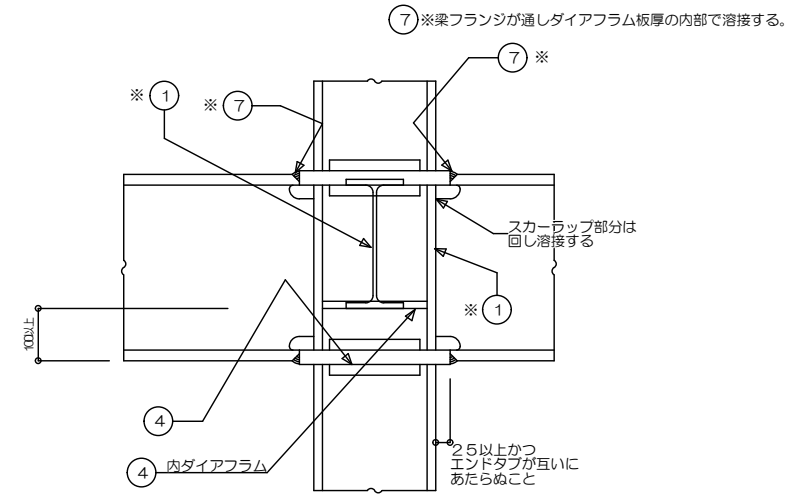


● 十字、I、H型



- ① ※ t > 16mm 場合の溶接は②又は③~⑤とする  
② ※ ※ 印は設計者が記入すること

● A: A断面図

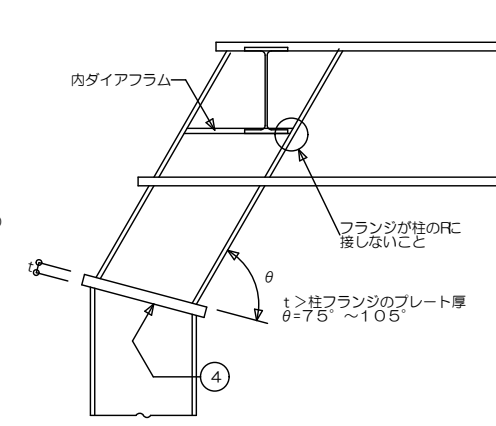


● 鋼材種別による溶接条件

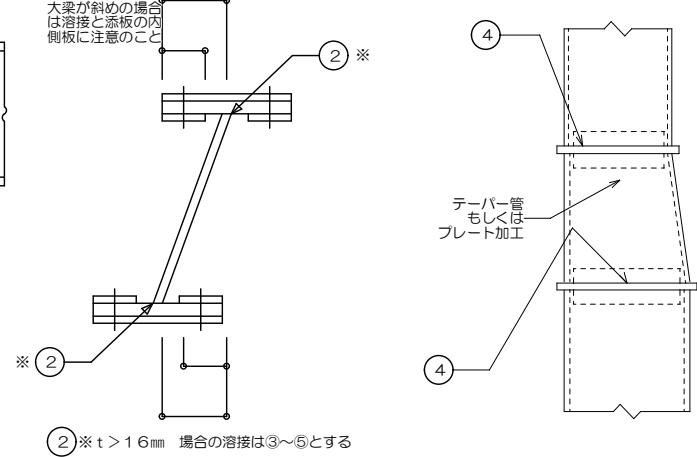
鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	バス温度 (℃)
400N級鋼	JIS Z 3211, 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	YGA-50W, 50P		
490N級鋼	JIS Z 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	YGA-50W, 50P		

< 柱材料: BCR295, BCP325を使用する場合 >  
通しダイヤフラムは、SN490B・C、SM490同等以上の鋼材を使用すること  
通しダイヤフラム厚は、接合する柱、梁の最大厚の2サイズアップ以上とする

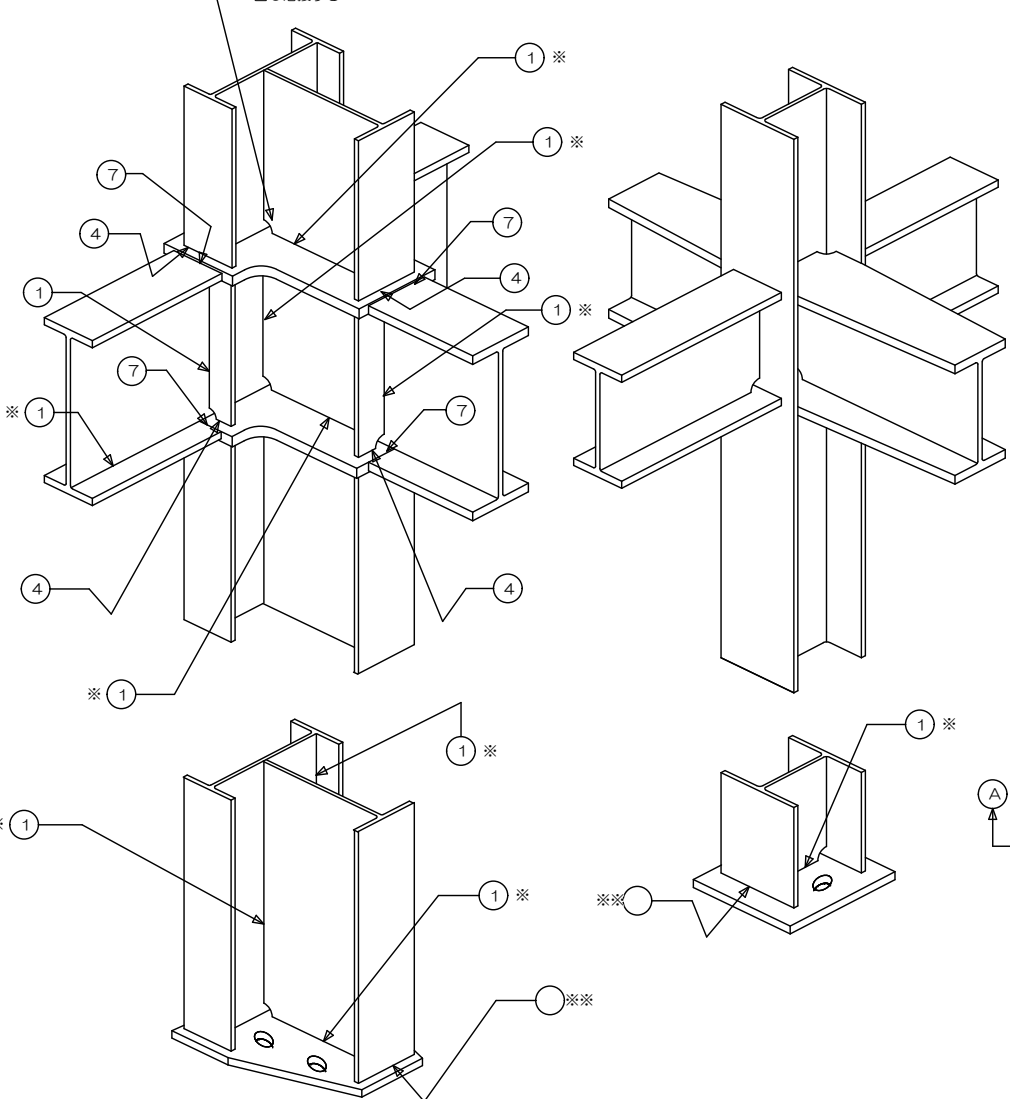
● 柱が途中で折れる場合及び変成が異なる場合



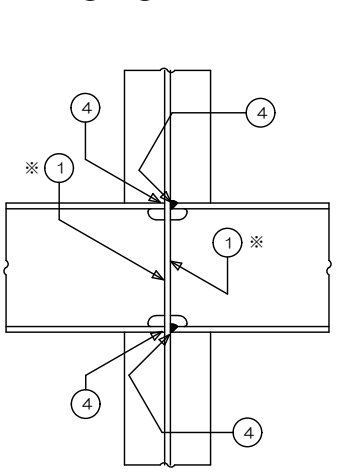
● 柱を途中で絞る場合



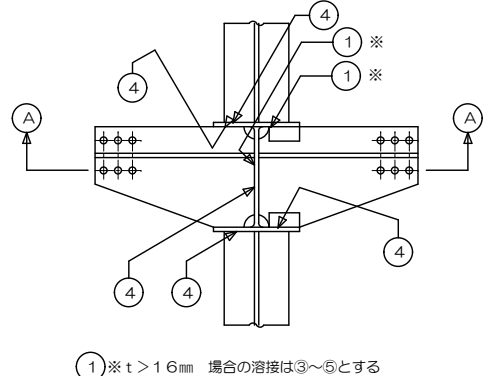
● B: H方式



● A: A断面図



● 平面詳細



① ※ t > 16mm 場合の溶接は③~⑤とする  
一級建築士 第332033号  
構造設計一級建築士 第8984号 井上 貴智 [原図A2]

■ : NOTE

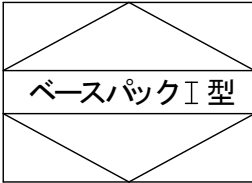
NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社  
三重県知事登録第1-518号

Job Title 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事  
Drawing Title 鉄骨構造標準図01  
設計担当 多湖 弘樹  
一級建築士 第382361号

DATE  
SCALE  
A2:N・S A3:N・S  
S-04







## 角形鋼管

F値295N/mm以下<sup>2</sup>  
□-150×150～□-300×300 用

(一財)日本建築センターによる一般認定「BC認定-ST0093-19」(令和6年6月21日付)

# ベースパック柱脚工法設計・施工標準図

●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社

TEL03(3624) 5336

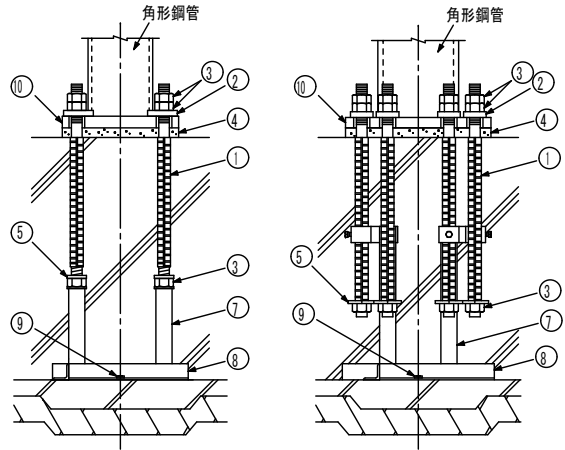
旭化成建材株式会社

TEL03(3296) 3515

2024年10月作成

## 1. 工法概要

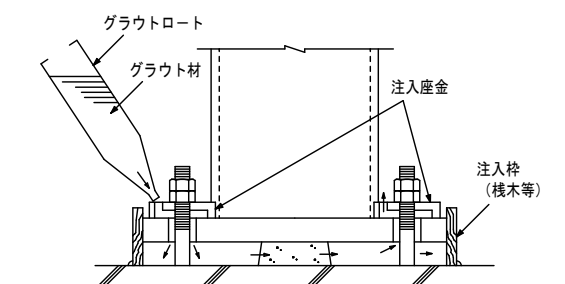
### 1. 1 構成部材



- ① アンカーボルト
- ② 注入座金
- ③ Mナット
- ④ ベースパックグラウト(グラウト材)
- ⑤ 定着座金
- ⑥ テンプレート
- ⑦ フレームポスト
- ⑧ フレームベース
- ⑨ ステコンアンカー(コンクリートアンカー)
- ⑩ ベースプレート

(注)上記 ①②③構成部材はベースパック構成部品として供給される。  
(注)上記 ④⑤⑥現場状況により仕様異なる場合がある。

### 1. 2 柱脚の定着方法概要



## 2. 柱

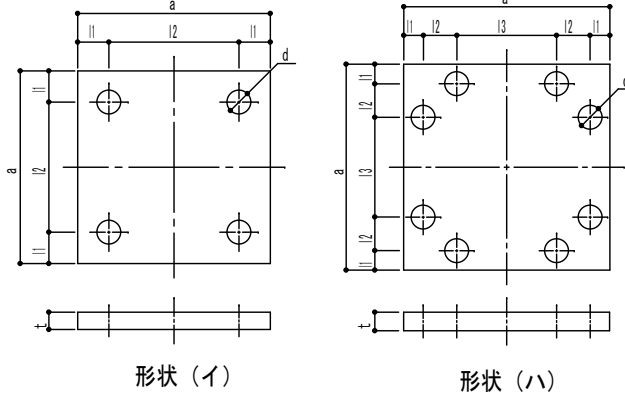
F値(N/mm)	2	鋼種	採用
235		BP235	
		STK400	
295		BP295	○
		TS295	

## 3. 構成部材・寸法

### 3. 1 ベースプレート

#### ●材質

SM490B 【JIS G 3136】



### 3. 3 Mナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

呼び	A	B	(d)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

### 3. 4 定着座金

#### i) アンカーフレーム Aタイプの場合

適用アンカーボルト	g1	t	材質
M27	55	9	28
M30	55	9	31
M33	60	9	34
M36	65	12	37
M39	80	12	40

#### ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

適用アンカーボルト	g1	g2	t	材質
M30	55	188	9	32
M33	60	173	9	35
M36	65	178	9	38

### 3. 5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	38
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

### 3. 2 アンカーボルト (Mアンカーボルト)

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

#### i) アンカーフレーム Aタイプの場合

呼び	異形部呼び名	L (注1)	X	b (注1)	基準強度(N/mm <sup>2</sup> )
M27	D29	650	45	128	490
M30	D32	695	45	133	490
M33	D35	690, 735	45	95, 140	490
M36	D38	770	60	130	490
M39	D41	770, 810	60	98, 135	490

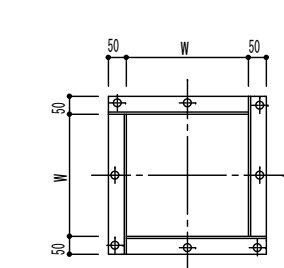
注1) 据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

#### ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

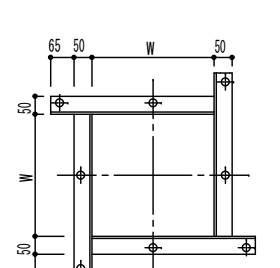
呼び	異形部呼び名	L	X	基準強度(N/mm <sup>2</sup> )
M30	D32	695	45	490
M33	D35	720	45	490
M36	D38	770	60	490

### 3. 6 フレームベース

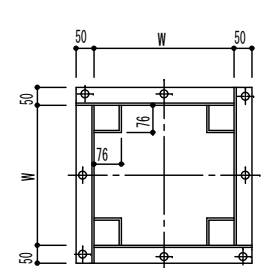
#### i) Aタイプ



#### ii) Cタイプ



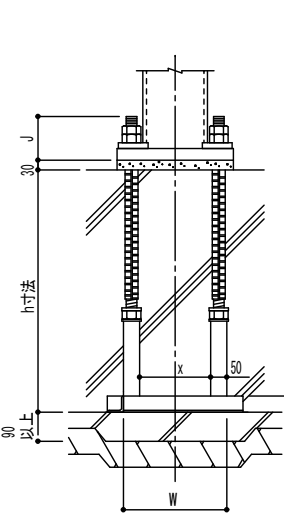
#### iii) 特タイプ



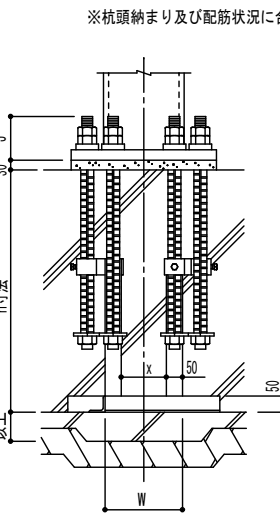
### 3. 7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ(h寸法)はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ(最低寸法)は下表に記載の値とする。

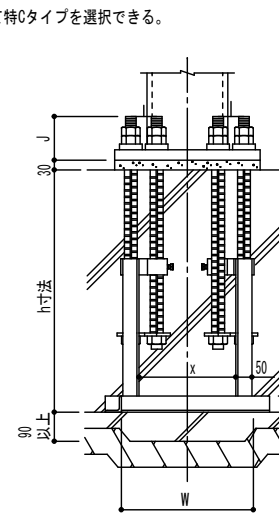
#### < Aタイプ >



#### < Cタイプ >※



#### < 特タイプ >



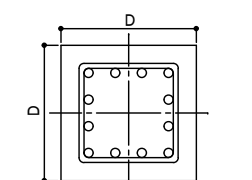
※杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。

## 4. コンクリート 柱型

### 4. 1 形状・材質

#### ●形状

形状は正方形とし、寸法は下表に記載の値とする。



#### ●コンクリート

普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm<sup>2</sup>以上とする。

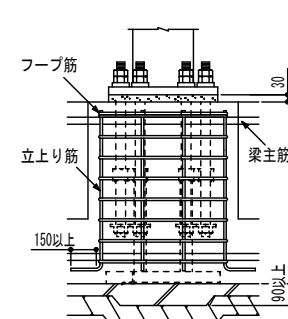
#### ●鉄筋

SD295 (D13, D16)

SD345 (D19, D22)

### 4. 2 配筋

配筋仕様は下表による。

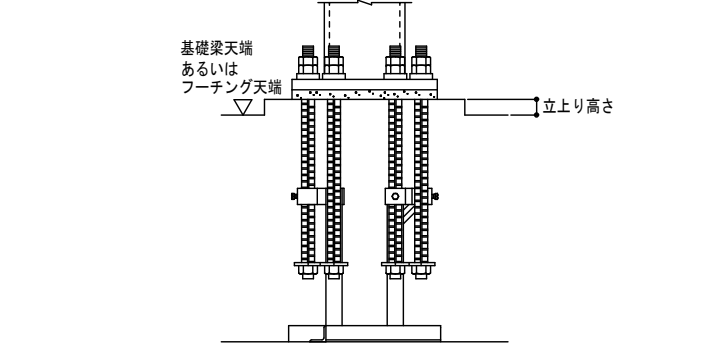


※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。  
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

### 4. 3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。

※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。



### 4. 4 特記事項 上記内容によらない場合は下記による。

#### 採用

- ☐ 下表標準柱型寸法からの変更あり (「柱型寸法最大・最小値一覧」による)
- ☐ 下表標準配筋仕様からの変更あり
- ☐ 立上り筋に頂部フックが必要

## 5. 工場製作(溶接)

#### ■組立

●ベースプレートの中心線(ガ線)に柱材軸心を合わせる。

#### ■溶接方法(完全溶込み溶接)

●完全溶込み溶接とする。(JASS 6 鉄骨工事にによる)

完全溶込み溶接の開先標準 (JASS 6 鉄骨工事 2018年版より)

図	溶接方法	適用板厚 T(mm)	ルート間隔 G(mm)	標準値	許容差	標準値	許容差	標準値	許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6~	7	-2,+0 (-3,+0)		2	-2,+1 (-2,+2)	α1: 45	-2.5,+0 (-5,+0)	下向き
				-2,+0 (-3,+0)		2	-2,+1 (-2,+2)	α1: 35	-2.5,+0 (-5,+0)	下向き
	ガスシールドアーク溶接	6~	6	-2,+0 (-3,+0)		2	-2,+1 (-2,+2)	α1: 45	-2.5,+0 (-5,+0)	下向き
				-2,+0 (-3,+0)		2	-2,+1 (-2,+2)	α1: 35	-2.5,+0 (-5,+0)	下向き

許容差・記号+0は制限無しを示す。

・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差(上段:管理許容差、下段:振型内:限界許容差)を示す。

#### ■ベースプレートの予熱

●気温(鋼材表面温度)が0℃以上のベースプレートの予熱は次の通り

す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	t<32	32≤t≤50
低水素系被覆アーク溶接	SM490B	予熱なし	50℃
ガスシールドアーク溶接	SM490B	予熱なし	予熱なし

※フラックス入りワイヤによるG0 ガスシールドアーク溶接の予熱温度は、低水素被覆アーク溶接に準じる。

●検査方法: 溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。

■施工管理: 7. 本工法の施工及び施工管理参照。

## 6. 工事場施工

### 6. 1 基礎工事

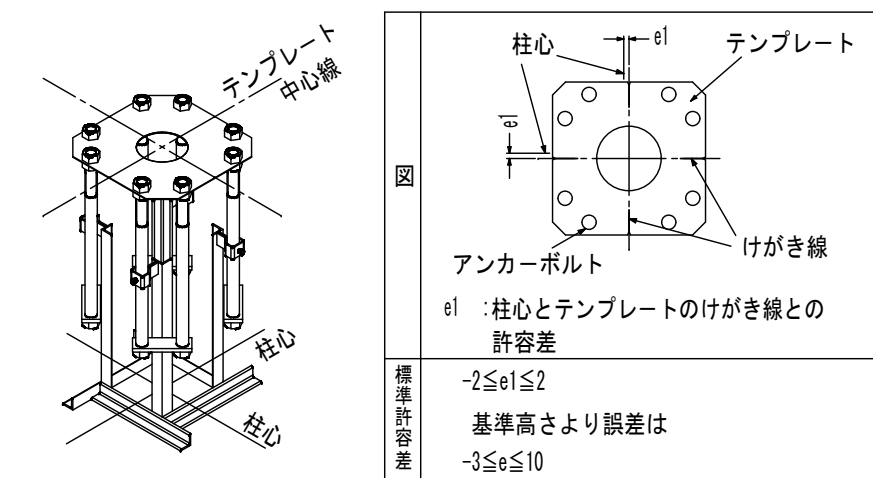
●柱脚部の格コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

### 6. 2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト(フレーム)の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。



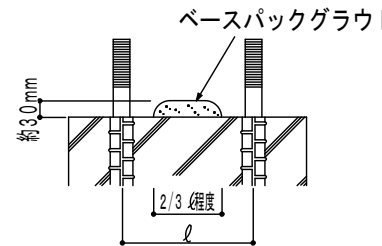
### 6. 3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト(フレーム)との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

### 6. 4 建方

●レベLMタルはベースパックグラウト(グラウト材)を使用し、大きさは右図による。



### 6. 5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に、ダブルナットを標準とする。

### 6. 6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(6kg)に対して、計量カップで1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

## 7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者(元請)の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6. 2 アンカーボルト据付け及び6. 6 ベースパックグラウトの注入は、ベースパック・セレクト 株式会社 施工技術委員会によって認定された有資格者(ベースパック施工管理技術者・施工技能者)が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

一級建築士 第332033号  
構造設計一級建築士 第8984号 井上 貴智

(原図A2)

■: NOTE

NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社

三重県知事登録第1-518号

Job Title	津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事
Drawing Title	ベースパック柱脚工法標準図
設計担当	多湖 弘樹
一級建築士 第382361号	
DATE	
SCALE	A2:N・S A3:N・S
S-06	

# Q L デッキ合成スラブ設計・施工標準

## 合成スラブ工業会仕様

Q L デッキ合成スラブの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及び JASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構協会「デッキプレート床構造設計・施工標準 2018」、合成スラブ工業会「合成スラブの設計・施工マニュアル」、Q L デッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

### 設 計

材料／デッキプレート [ISO 9001 認証取得]

デッキプレート種類	板厚(mm)	表 面 処 理
■ Q L 9 9 - 5 0 □ Q L 9 9 - 7 5	端部加工 ■インガ有り □無し	□表面防錆処理(一次塗装) Q L プライマー(P) □亜鉛めっき [ ■Z12 □Z27 ] □JFEエポキ(高耐食溶融めっき鋼板) [ □Y18 □Y27 ] □その他( ) □無し
材 質	J I S G 3 3 5 2 に定める S D P 1 T、S D P 2、S D P 2 G	

材料／コンクリート

種 類	■普通コンクリート	□軽量コンクリート [ □1種 □2種 ]
設計基準強度	□18 □21	■24 ( ) N/mm <sup>2</sup>
厚さ(Q L デッキ山)	□60 □70 ■80 □85 □90 □95 □100 □ ( ) mm	

材料／溶接金網・異形鉄筋

■ 溶 接 金 網	J I S G 3 5 5 1	□φ6-75×75 ■φ6-150×150 □φ6-100×100 □ ( )	※2
□ 異 形 鉄 筋	J I S G 3 1 1 2、3 1 1 7	□D10-150×150 □D10-200×200 □ ( )	
耐火補強筋	J I S G 3 1 1 2、3 1 1 7	D13-@300	

接 合

梁 と の 接 合	□頭付きスタッド	JIS B 1198 □φ13 □φ16 □φ19 □φ22 (各長さ・ピッチは特記による※3)
	■焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
	□打込み鉄	接合箇所は特記による
	□その他	

※3 最小長さはデッキ高さ+30mm以上とする

耐 火

デッキプレート	耐火区分	支持条件	コングリ種別	耐火補強筋	認定番号
Q L 9 9 - 5 0 Q L 9 9 - 7 5	床 1 時間 床 2 時間	単純 連続	普通/軽量	要 不要	■ F P 0 6 0 F L - 9 1 0 1 ■ F P 0 6 0 F L - 9 0 9 5 □ F P 1 2 0 F L - 9 1 1 3 □ F P 1 2 0 F L - 9 1 0 7

注) 床 2 時間は床 1 時間耐火を含む

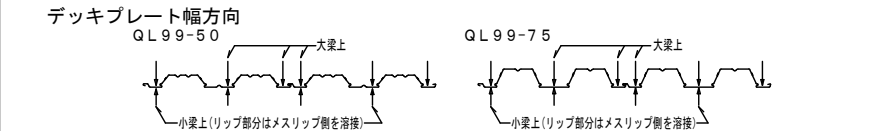
その他 □指定なし □ ( ) □ ( )

特 記

支 保 工 有 無	その他:
■ 無 □ 有	

上欄内の採用項目に□を記して下さい。

焼抜き栓溶接



デッキプレートスパン方向

「Q L デッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

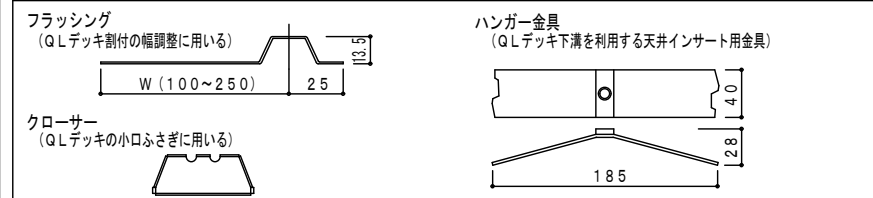
$$A_w = \frac{1.5 Q_d}{Q_t} \times 1000 \text{ mm (かつ } 600 \text{ mm 以下)}$$

Q<sub>d</sub>: 焼抜き栓溶接 1 個当たりの長期許容せん断力 (N)  
Q<sub>t</sub>: 設計最大せん断力 (N/mm)  
A<sub>w</sub>: 焼抜き栓溶接ピッチ

$$A_w = ( \quad 600 \quad ) \text{ mm}$$

(注) 接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要

アクセサリ



施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)

コンクリート厚 (mm)	(単位: mm)											
	60	70	80	90	100	110	120	130	140	150	160	170
単純 (内法)	2,522	2,752	2,472	2,692	2,422	2,642	2,372	2,592	2,322	2,542	2,272	2,492
2 連続	3,382	3,612	3,332	3,552	3,282	3,502	3,232	3,452	3,182	3,402	3,132	3,352
3 連続	3,123	3,353	3,073	3,293	3,023	3,243	2,973	3,193	2,923	3,143	2,873	3,093

注 1: 普通コンクリート (単位体積重量 24 kN/m<sup>3</sup>)、表面処理が亜鉛めっきの場合

注 2: ( ) 数値は表面処理がめっきなしまたは塗装品の許容スパンを示す。

注 3: 表を超える場合は、別途支保工が必要。

耐火仕様①

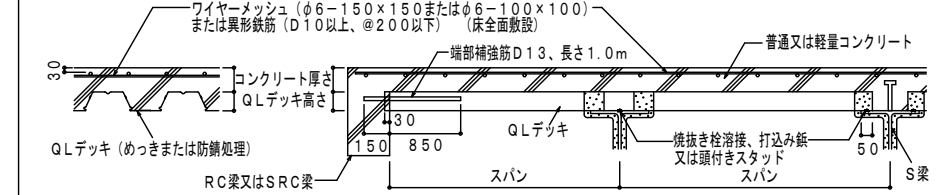
## JFE 建材 株式会社

[耐火認定FP60FL-9095, 9101, FP120FL-9107, 9113用]

耐火仕様

【連続支持合成スラブ】

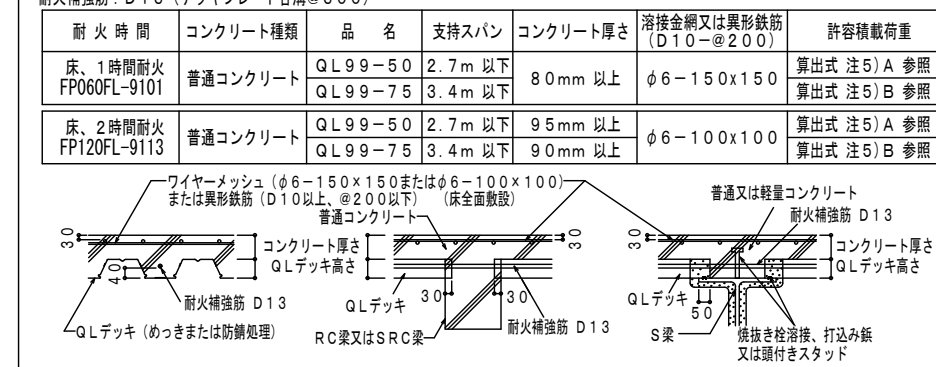
耐火時間	コンクリート種類	品 名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋 (D10-@200)	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	QL99-50	3.0m 以下	80mm 以上	φ6-150x150	算出式 注5) A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	φ6-100x100	算出式 注5) B 参照
		QL99-50	3.0m 以下	80mm 以上	φ6-150x150	算出式 注5) A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	φ6-150x150	算出式 注5) B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上	φ6-100x100	算出式 注5) A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	D10-@200	算出式 注5) B 参照
		QL99-50	2.7m 以下	85mm 以上	φ6-100x100	算出式 注5) A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	D10-@200	算出式 注5) B 参照



【単純支持合成スラブ】

耐火時間	コンクリート種類	品 名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋 (D10-@200)	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	80mm 以上	φ6-150x150	算出式 注5) A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	φ6-150x150	算出式 注5) B 参照
		QL99-50	2.7m 以下	80mm 以上	φ6-150x150	算出式 注5) A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	φ6-150x150	算出式 注5) B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上	φ6-100x100	算出式 注5) A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	φ6-100x100	算出式 注5) B 参照
		QL99-50	2.7m 以下	85mm 以上	φ6-100x100	算出式 注5) A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	φ6-100x100	算出式 注5) B 参照

支持梁: 鉄骨(S)梁 コンクリート: 設計基準強度 18 N/mm<sup>2</sup> 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート (1種・2種) 耐火補強筋: D13 (デッキプレート各端部 300)



注 1) スパンとは鉄骨梁の場合デッキプレートを支える梁の中心間距離、鉄筋コンクリート梁の場合梁内法寸法をいう。  
注 2) スパンが 3.4m を超える場合は、合成スラブと梁とは頭付きスタッド (軸径 16mm 以上、ピッチ 300mm 以下) で結合する。  
注 3) 軽量梁の場合、2 種の梁の焼抜き栓溶接、打込み鉄、または頭付きスタッドを用いる。  
注 4) 梁の耐火保護: 梁に 1、2 または 3 時間の耐火性能が要求される場合は、それらに応じた耐火保護を施す。  
注 5) 許容積載荷重 W 算出式

[A] QL99-50	[B] QL99-75
$W = 5.400 \times \left( \frac{2.7}{L} \right)^2$ かつ $9.800 \text{ N/m}^2$ 以下	$W = 5.400 \times \left( \frac{3.4}{L} \right)^2$ かつ $9.800 \text{ N/m}^2$ 以下

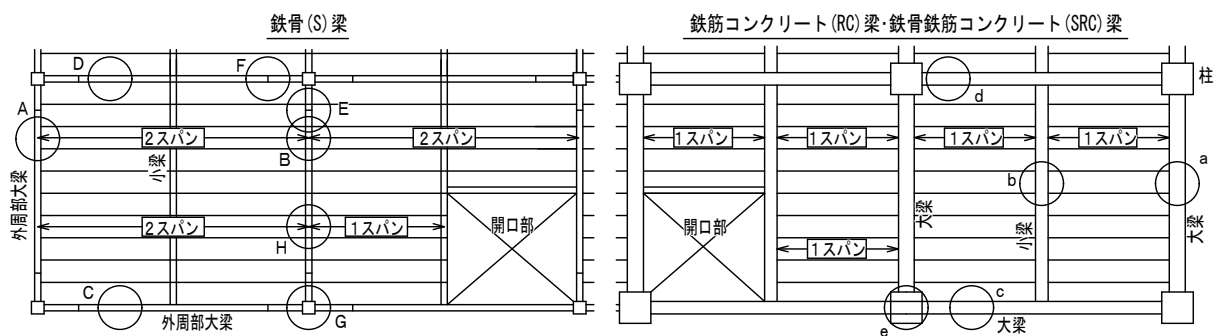
※許容積載荷重は、床にかかる全荷重 (仕上り荷重も含む) から床荷重 (デッキプレートとコンクリートの自重) を差し引いた値を示す。

付帯条件: 連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは 2 スパン以上にわたって連続的に小はり等によって、ほぼ等間隔 (スパン比 3:2 を超えない程度※) に支持されるものとする。 ※合成スラブ工業会発行「合成スラブの設計・施工マニュアル」参照

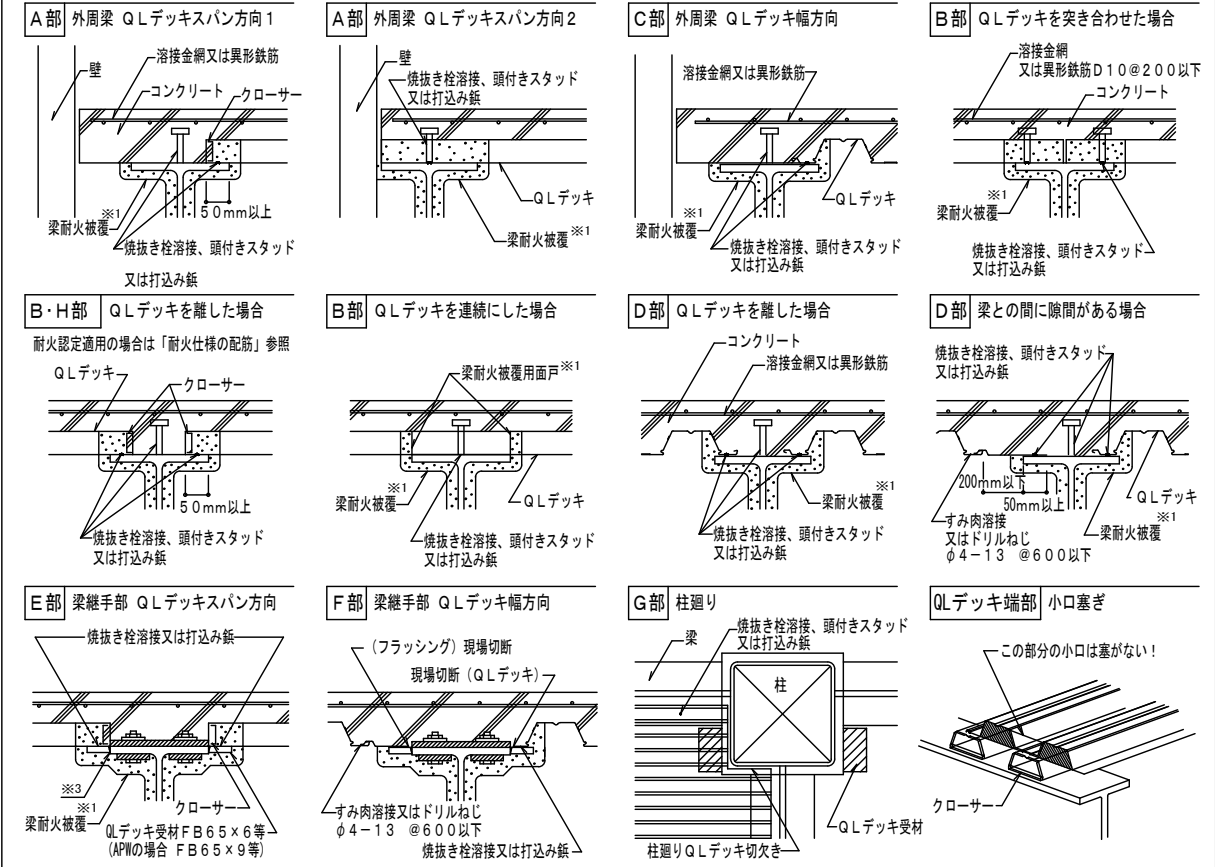
施工順序	敷 込 み
1 墨 出 し 敷込み仮止め溶接	鉄骨梁の場合 1) 墨出し線に合わせて 1 枚目のデッキプレートと梁との溶接は、順次溶接する。 敷込み仮止め溶接は、5 (5~10 枚) に 1 枚に仮止め溶接する。 2) 各大梁上にデッキプレートの隅部が来るように敷込む。
QL デッキと梁との接合 1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接	デッキプレート幅方向のかかり代は、50mm 以上あることを確認する。 (頭付きスタッドの場合は 30mm 以上) 3) デッキプレート長手方向の大梁のかかり代は、50mm 以上あることを確認する。
溶接金網敷込み	R C 梁または R C 梁の場合 1) デッキプレートは梁型枠に釘止めする。 2) デッキプレートの梁型枠へのめ込み代が幅方向 10mm 以上、長手方向が 30mm 以上あることを確認する。
検 査	
コンクリート打設	

## 標 準 納 ま り

図中※1 は、梁に 1、2 または 3 時間の耐火性能が要求される場合のみ適用。 ※2 は Q L デッキ耐火認定を適用する場合に必要。 ※3 溶接方法は別途検討が必要。(合成スラブ工業会 Q & A 参照)

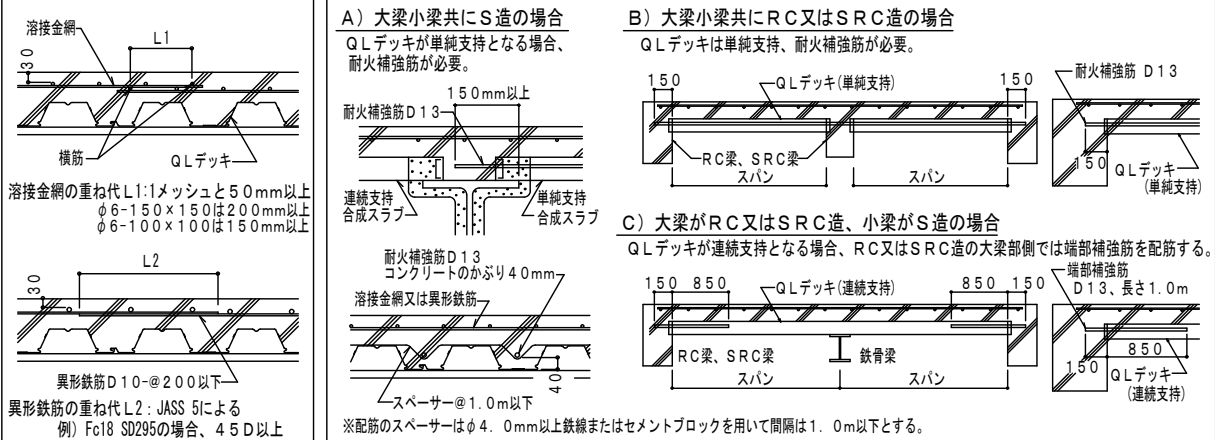


デッキプレートと梁の納まり【S梁】



スラブの配筋

コンクリート表面よりのかぶり厚さが 30mm になるようレベル保持し、全面に配筋する。



デッキプレートと梁との接合	検 査
1) 頭付きスタッド 施工は、JASS6「鉄骨工事」による。 デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。	【焼抜き栓溶接 (SPW) 及び自動焼抜き栓溶接 (A.P.W.)】 ■事前検査 SPW: 適正な溶接を行うための下記(1)または(2)の方法で電流値をチェックする。 2) 溶接棒の消費長さによる確認。 未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約 3mm に保持し、1.0mm 程度の円を描いて 1.0 秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが 4.5~5.3mm であること。 A.P.W.: 試し溶接を行って溶接後を確認する。 ■溶接後の後検査 1) 溶接箇所の確認 2) 焼き切れ、余剰不足の有無 3) 標準余剰径 SPW: 10mm 以上 A.P.W.: 25mm 以上 ■不良箇所の修繕 SPW の場合: スラッグ除去後、梁にデッキプレートと密着させて再溶接する。 A.P.W. の場合: 重ね溶接して修繕する。 【その他】 (1) Q L デッキ相互の接合状況 (2) ひび割れ拡大防止筋の敷込み状況 (3) 開口部の補強状況

S 造・施工時のスパンの取り方

【単純支持】

【連続支持】

その他の納まり・参考例等については、Q L デッキ施工マニュアルまたは別途「納まり図」(技術資料 CAD データ収録)を参照下さい。

一級建築士 第 332033 号  
構造設計一級建築士 第 0984 号 井上 貴智

2021/7/01

■: NOTE	Job Title	津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事	DATE
	Drawing Title	Q L デッキ合成スラブ設計・施工標準図	SCALE
	設計担当	多湖 弘樹	A2:N・S A3:N・S
	一級建築士 第 382361 号		S-07



外壁・間仕切壁《縦壁ロッキング構法》

設計  
施工 標準図

I ALCパネル仕様

1 ALCパネル仕様

JIS A 5416 軽量気泡コンクリートパネル（ALCパネル）に適合するもの

2 ALCパネル使用部位およびパネル厚

<input checked="" type="checkbox"/> 外壁 平パネル	<input type="checkbox"/> 100厚	<input type="checkbox"/> 間仕切壁	<input type="checkbox"/> 75厚
	<input checked="" type="checkbox"/> 125厚		<input type="checkbox"/> 100厚
	<input type="checkbox"/> 150厚		<input type="checkbox"/> 125厚
<input type="checkbox"/> 外壁 意匠パネル	<input type="checkbox"/> 100厚		<input type="checkbox"/> 150厚
	<input type="checkbox"/> 125厚		
	<input type="checkbox"/> 150厚		

3 ALC外壁仕様

(1) パネル取付け構法

<input checked="" type="checkbox"/> 縦壁構法	<input checked="" type="checkbox"/> 縦壁ロッキング構法	——	<input checked="" type="checkbox"/> 縦壁HDR構法（一般用）
	<input type="checkbox"/> その他	（	）

(2) 設計風圧力

階	～	3	階	正 1378.9	負 1378.9	〔 N/m <sup>2</sup> 〕
階	～	2	階	正 1252.5	負 1252.5	〔 N/m <sup>2</sup> 〕
階	～	1	階	正 1116.9	負 1116.9	〔 N/m <sup>2</sup> 〕
階	～		階	正	負	〔 N/m <sup>2</sup> 〕

(3) パネル特殊仕様

特記： <input type="checkbox"/> 意匠パネル	
<input type="checkbox"/> デザインパネル	（表面に凹凸デザイン模様）
（特記： <input type="checkbox"/> ジーファスパネル	（岩肌調デザイン模様）
<input type="checkbox"/> Canvasパネル	（表面にプラスト模様）
番号： <input type="checkbox"/> スタンダード	（
<input type="checkbox"/> オリジナル	）
<input type="checkbox"/> 下地処理済みパネル	（表面にフィラー下地処理済み）
<input type="checkbox"/> SPパネル	（
<input type="checkbox"/> その他	）
<input type="checkbox"/> SIパネル	（吸水性を抑えたパネル）
<input type="checkbox"/> その他	（

4 ALC間仕切壁仕様

(1) パネル取付け構法

<input type="checkbox"/> 縦壁構法	<input type="checkbox"/> 縦壁ロッキング構法	——	<input type="checkbox"/> 縦壁HDR構法（一般用）
	<input type="checkbox"/> その他	（	）

(2) パネル特殊仕様

（特記：）

II 関連資材仕様

1 シーリング材（ALCパネル間）

※モジュラスの低いもの（経年時の50%引張応力の値が0.3N/mm<sup>2</sup>以下）を選定（JIS A 5758 に基づく耐久性区分）

(1) 種類

<input checked="" type="checkbox"/> ポリウレタン系	<input checked="" type="checkbox"/> 耐久性区分 8020
	<input type="checkbox"/> 耐久性区分 9030
<input type="checkbox"/> 変成シリコン系	<input type="checkbox"/> 耐久性区分 8020
	<input type="checkbox"/> 耐久性区分 9030
<input type="checkbox"/> アクリル系（エマルジョンタイプ）	—— 耐久性区分 7020
<input type="checkbox"/> その他（	）—— 耐久性区分（

(2) その他特記事項（品名：）

2 耐火目地材

ロックウール保温板（JIS A 9504）または  
高温断熱ウールAE Sブランケット（JIS R 3311）品質同等

3 防錆塗料（ALC下地鋼材、開口部補強鋼材塗装用）

特記による（）

III 内外装仕様

1 外装仕上げ

<input checked="" type="checkbox"/> 吹付け仕上げ（特記：）	
<input checked="" type="checkbox"/> 複層仕上塗材（JIS A 6909）	
<input checked="" type="checkbox"/> 複層塗材 E（アクリルタイル）	
<input type="checkbox"/> 複層塗材 CE（セメント系吹付けタイル）	
<input type="checkbox"/> 複層塗材 Si（シリカタイル）	
<input type="checkbox"/> その他	
<input type="checkbox"/> 薄付け仕上塗材（JIS A 6909）	
<input type="checkbox"/> 外装薄塗材 E（樹脂リシン）	
<input type="checkbox"/> 外装薄塗材 Si（シリカスタッコ）	
<input type="checkbox"/> その他（	）
<input type="checkbox"/> 厚付け仕上塗材（JIS A 6909）	
<input type="checkbox"/> 外装厚塗材 E（樹脂スタッコ）	
<input type="checkbox"/> 外装厚塗材 Si（シリカスタッコ）	
<input type="checkbox"/> その他（	）

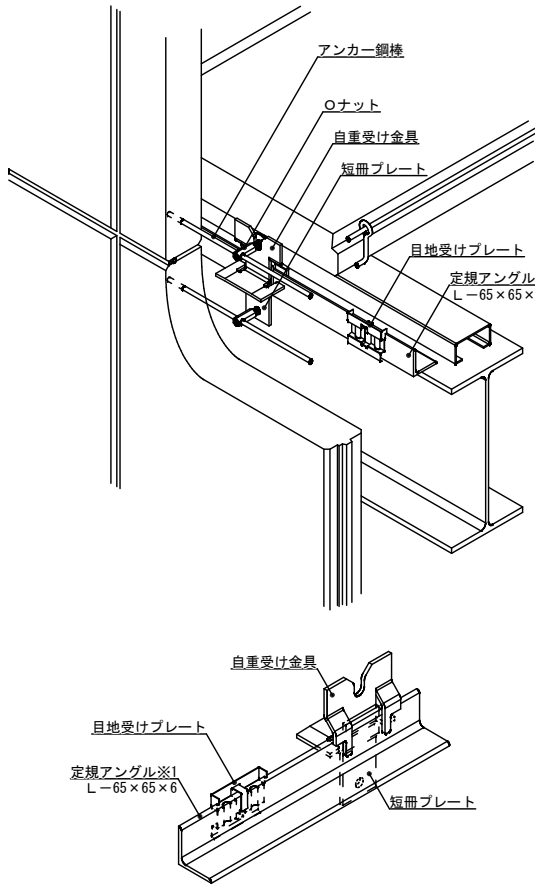
2 張り仕上げ

<input type="checkbox"/> タイル張り	（特記：）
<input type="checkbox"/> 金属パネル張り	（特記：）
<input type="checkbox"/> ボード張り	（特記：）
<input type="checkbox"/> その他	（特記：）

2 内装仕上げ

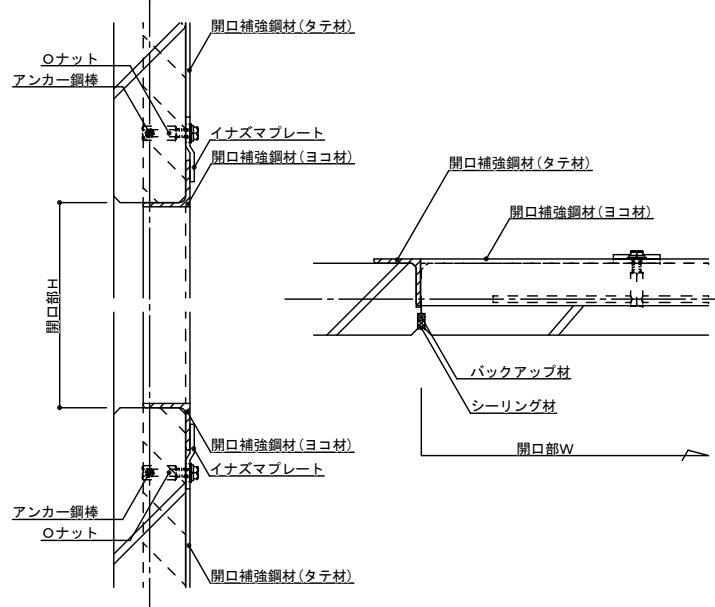
<input checked="" type="checkbox"/> ボード仕上げ	——	<input checked="" type="checkbox"/> 胴縁工法（特記：）
<input type="checkbox"/> ペイント仕上げ	（特記：）	
<input type="checkbox"/> 吹付け仕上げ	（特記：）	
<input type="checkbox"/> タイル張り	（特記：）	
<input type="checkbox"/> その他	（特記：）	

1. 構法概要（縦壁HDR構法（一般用））

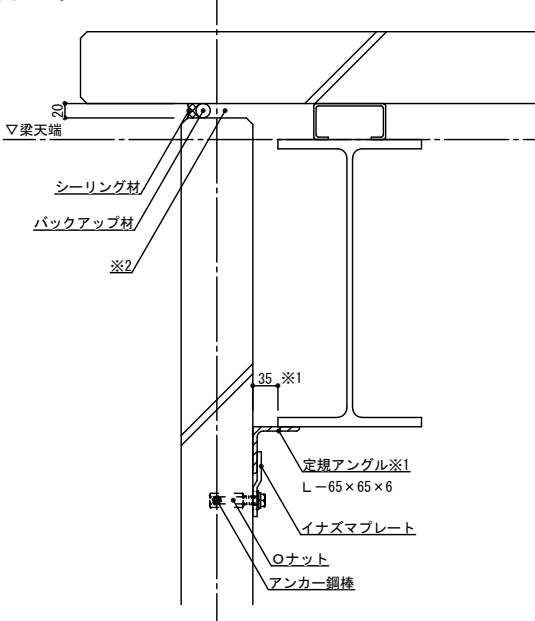


3. 開口部

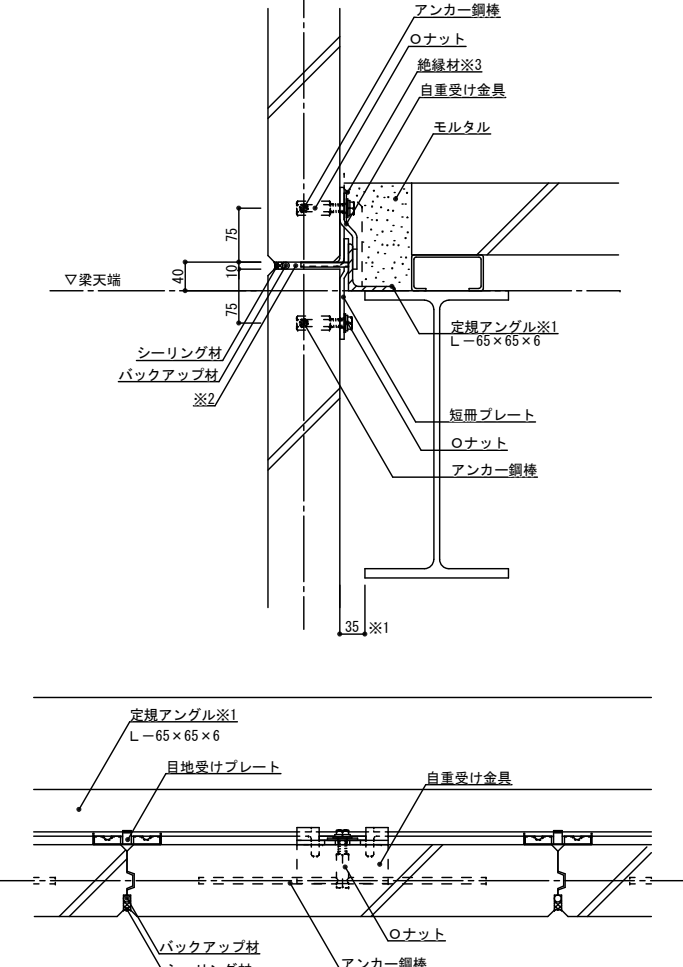
(1) Oナットを使用する場合



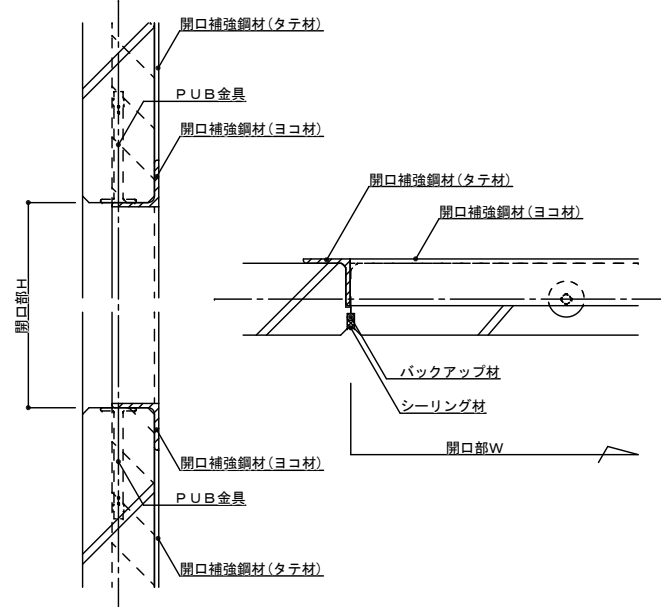
4. 軒先部



2. 一般部

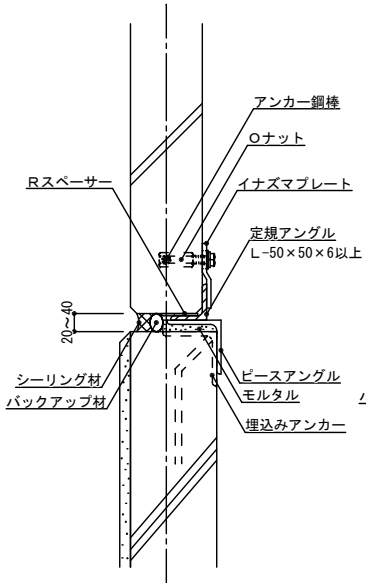


(2) PUB金具を使用する場合

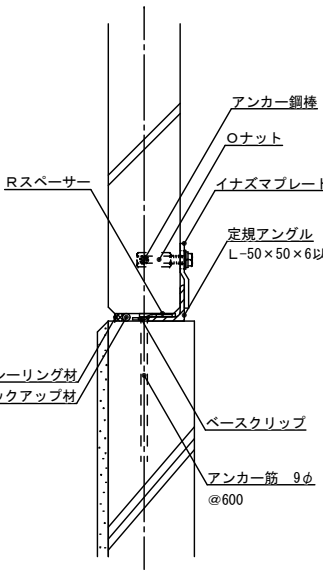


5. 布基礎部

(1) 埋込みアンカー仕様

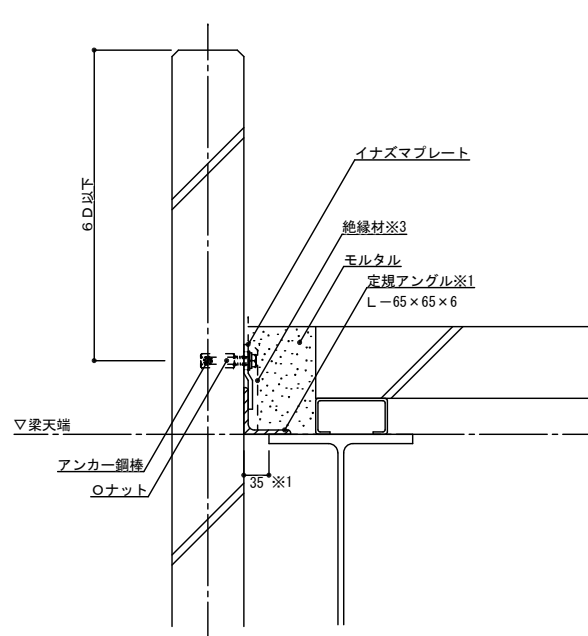


(2) ベースクリップ仕様

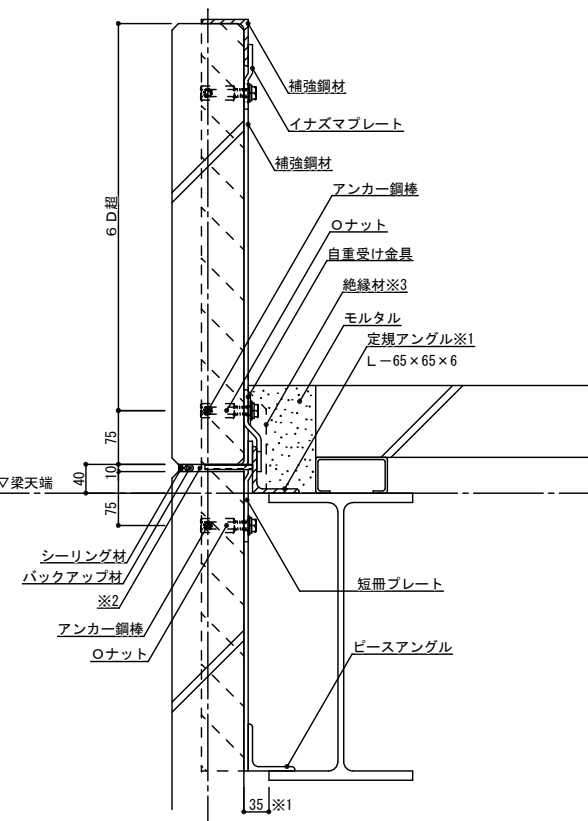


6. パラペット部

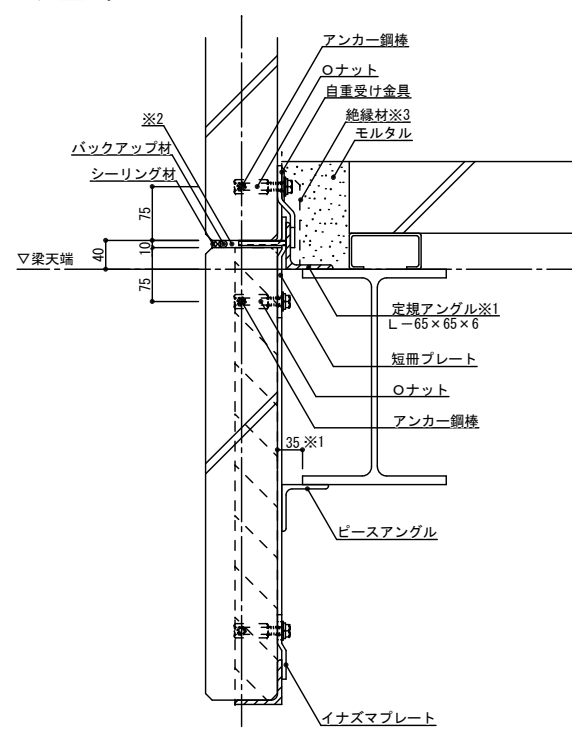
(1) はね出し寸法 6 D 以下 D：パネル有効厚



(2) はね出し寸法 6 D 超



7. 下がり壁部



※1 平パネル厚さ150mmの場合、自重受け金具を取り付ける定規アングルはL-75×75×6を使用する。またパネルと躯体とのクリアランスは45～50mmとする。  
※2 耐火目地材：横目地、出隅、入隅部、伸縮目地や軒まわりなどの目地で、耐火構造・断熱など必要な場合は、指定された耐火目地材を充てんする。  
※3 絶縁材：床接合部では、モルタルがパネルのロッキングを拘束しないように、パネルとモルタルの間に全長にわたって絶縁材を設ける。

一級建築士 第332033号  
構造設計一級建築士 第8984号 井上 貴智

〔原図A2〕

■：NOTE

NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社  
三重県知事登録第1-518号

Job Title 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事

Drawing Title ALC標準図

多湖 弘樹

一級建築士 第382361号

設計担当

DATE

SCALE

A2:N・S A3:N・S

S-08

ボーリング柱状図

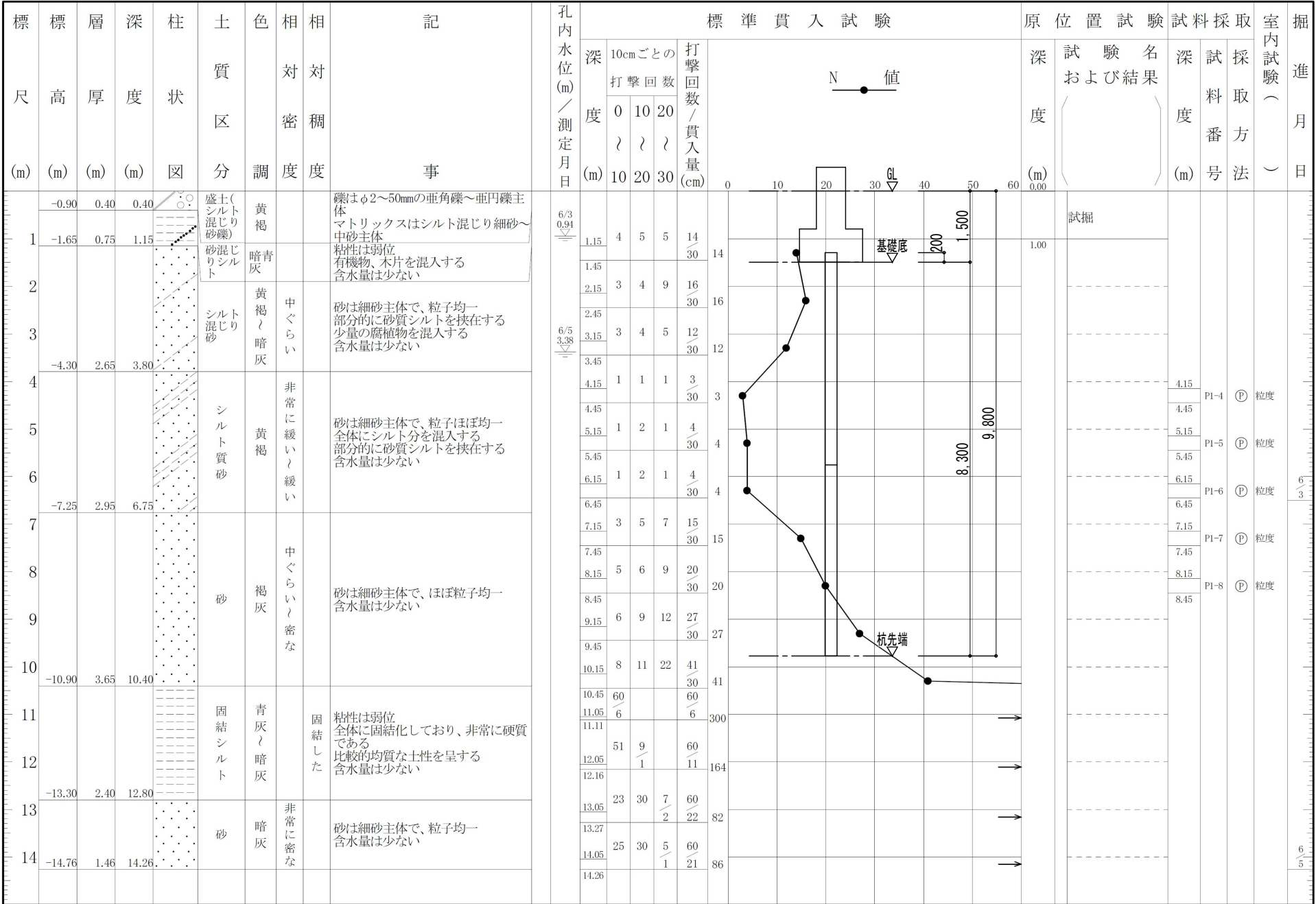
調査名 令和6年度 営教施第1-12号 津市立豊が丘小学校改修工事に係る地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo N 2 7 - 0 6 - 0 9

シートNo

ボーリング名	No. 1		調査位置		三重県津市豊が丘二丁目					北緯		34° 48' 29.3"		
発注機関	津市建設部営繕課				調査期間		令和 6 年 6 月 3 日 ~ 6 年 6 月 6 日			東経		136° 28' 23.6"		
調査業者名	株式会社 三重新成コンサルタント 電話 (059-264-1081)		主任技師		長谷川 洋		現場代理人		松井 敏      コア鑑定者      吉川 浩司		ボーリング責任者		米倉 剛	
孔口標高	KBM -0.50m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 270° 西 180° 南 90°	地盤勾配	鉛直 90°	水平 0°	使用機種	試錐機	KR-100		ハンマー 落下用具	
総掘進長	14.26m		度	向			エンジン	NFAD-9		ポンプ		GP-5		
半自動落下装置														

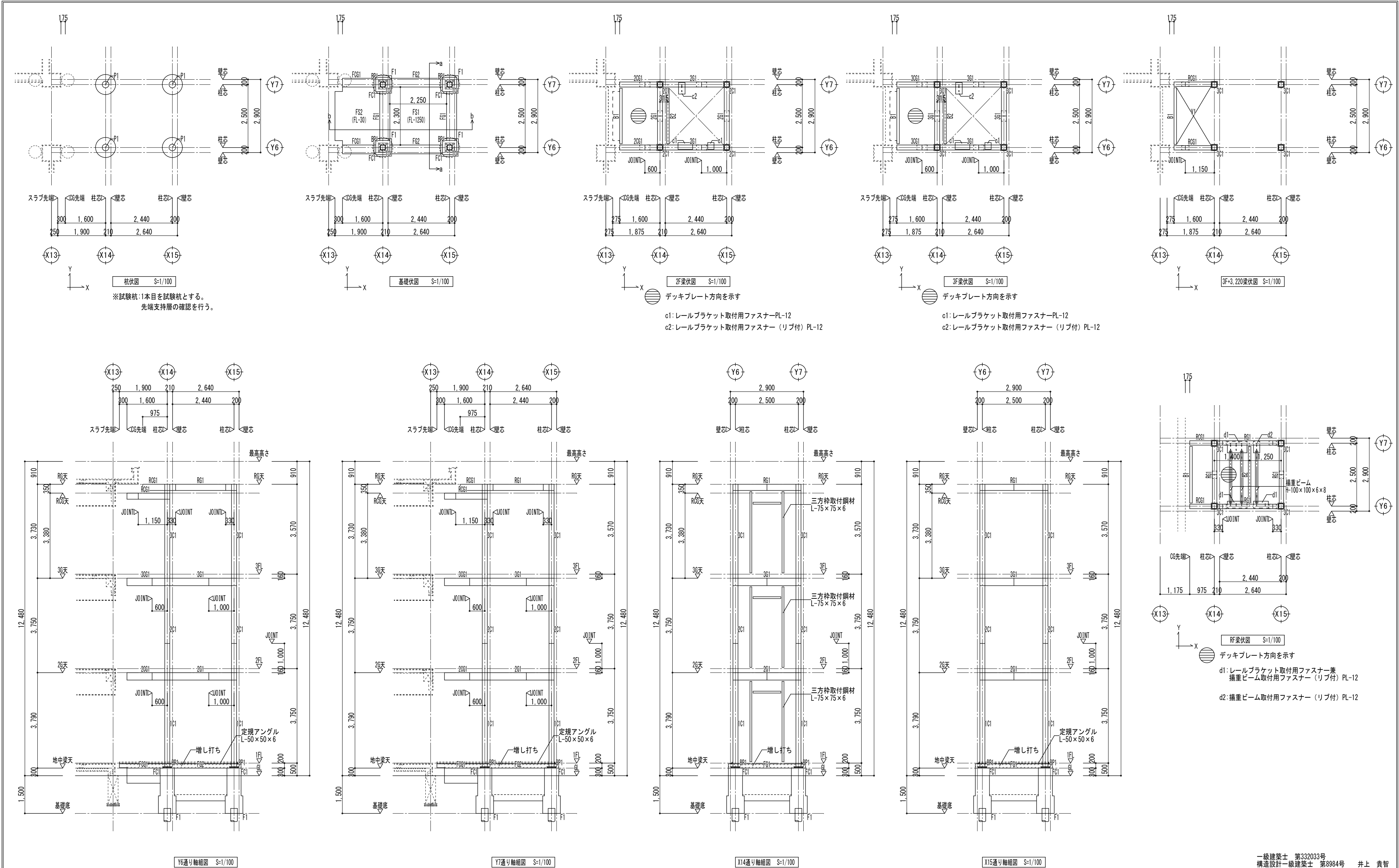


一級建築士 第332033号  
構造設計一級建築士 第8984号 井上 貴智

[原図A2]

■ : NOTE	NISSHIN SEKKEI 目新設計株式会社 三重県知事登録第1-518号	Job Title 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事				DATE	
						SCALE	
						A2:N・S A3:N・S	
						S - 0 9	





■ : NOTE	NISSHIN SEKKEI 目新設計株式会社				Job Title 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事				DATE 2025 - Jan		
					Drawing Title 梁伏図・軸組図				SCALE A2:1/100 A3:1/140		
					設計担当				S - 1 0		
					多湖 弘樹						
					一級建築士 第382361号						
				三重県知事登録第1-518号							

一級建築士 第332033号  
構造設計一級建築士 第8984号 井上 貴智  
[原図A2]

※ 大梁継手部の添板は、母材同等とする

符 号	BP1
名 称	ベースバック 20-12V
姿 図	
ベ-ｽﾌﾟﾚｰﾄ	360×360×32
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ	4-M33 (SD490)
ｺﾝｸﾘｰﾄ柱断面	FC1:560×560
立上り筋	12-D19 (SD345)
ﾌｰﾌﾞ筋	D13@100 (SD295) (ﾄｯﾌﾟﾌｰﾌﾞはﾀﾞﾌﾞﾙとする)

梁リスト (特記無きはSS400、SSC400)				ボルト径 (種類)	フランジ			ウェブ		備 考
符 号	位 置	ハンチ長さ (柱面から)	部 材		ボルト本数	外プレート 厚×長さ (mm)	内プレート 厚×幅 (mm)	ボルト本数	プレート 厚×幅×長さ (mm)	
RG1	全断面		H-244×175×7×11 (SN400B)	M20 (HTB S10T)	2×2	9×290	9×70	2×1	9×140×170	
3G1	全断面		H-294×200×8×12 (SN400B)	M20 (HTB S10T)	3×2	9×410	9×80	3×1	9×200×170	
2G1	全断面		H-294×200×8×12 (SN400B)	M20 (HTB S10T)	3×2	9×410	9×80	3×1	9×200×170	
RCG1	全断面		H-244×175×7×11 (SN400B)	M20 (HTB S10T)	2×2	9×290	9×70	2×1	9×140×170	
3, 2CG1	全断面		H-294×200×8×12 (SN400B)	M20 (HTB S10T)	3×2	9×410	9×80	3×1	9×200×170	
B1	全断面		H-200×100×5.5×8	M16 (HTB S10T)	-			2×1 L=40	PL-9	
B2	全断面		H-100×100×6×8	M16 (HTB S10T)	-			1×2 L=40	PL-9	
楊重t-ム			H-100×100×6×8							現場隅肉溶接
敷居受用鋼材			L-100×100×7							現場隅肉溶接
三方枠 取付鋼材			L-75×75×6							現場隅肉溶接
定規アングル			L-65×65×6							

床版リスト						
符 号	スラブ厚	箇 所	主筋方向		配力筋方向	
			端 部	中央部	端 部	中央部
FS1	250	上端筋	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200
		下端筋	D13@200	D13@200	D13@200	D13@200
FS2	150	上端筋	D10・D13@200	D10・D13@200	D10・D13@200	D10・D13@200
		下端筋	D10・D13@200	D10・D13@200	D10・D13@200	D10・D13@200

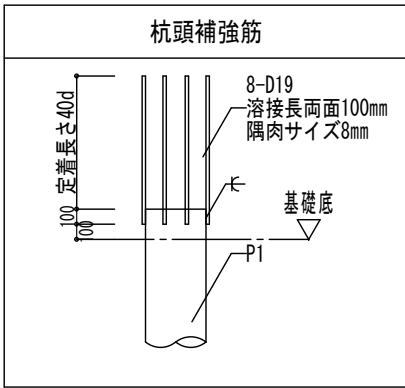
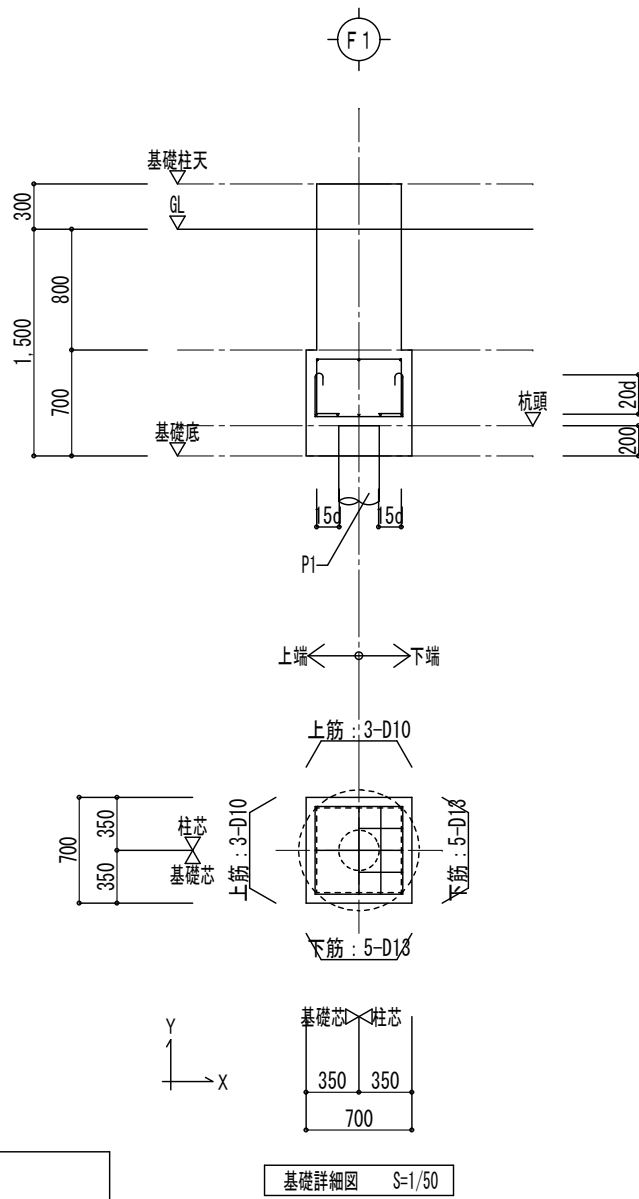
柱リスト				
符 号	部 材	符 号	柱 脚	柱 頭
1C1	□-200×200×12 (BCR295)	BP1	ベースパック 20-12V	-
2C1	□-200×200×12 (BCR295)	-	-	-
3C1	□-200×200×9 (BCR295)	-	-	-

その他部材リスト（特記無きは\$S400）	
ダイアフラム	通しダイアフラム：SN490C      内ダイアフラム：SN490B
水平ブレース V1 (JIS A 5540 JIS A 5541)	ターンパクル付きブレースM12 GPL-6 HTB1-M12      原則として取付位置は、上フランジ下面とする
デッキプレート	QLデッキ：QL99-50-1.2    コンクリート山高80    溶接金網φ-150×150    焼板栓溶接

杭リスト（EAZET（建設省東住指発第2449号）同等品以上）											
符 号	杭径 (mm)	鋼管厚 (mm)	杭本体部 材質	羽根径 (mm)	先端 羽根厚 (mm)	先端羽根部 材質	長さ	全長	長期鉛直支持力	短期引抜抵抗力	本数
P1	φ 267. 4	8. 0	STK490	φ 800	28	SM490A	上杭: 4. 5 (m) 下杭: 4. 0 (m)	8. 5 (m)	678 (kN)	214 (kN)	4

注意事項) 杭の施工誤差は原則として100mm以内とする。100mmを超えた場合は監督員と協議すること

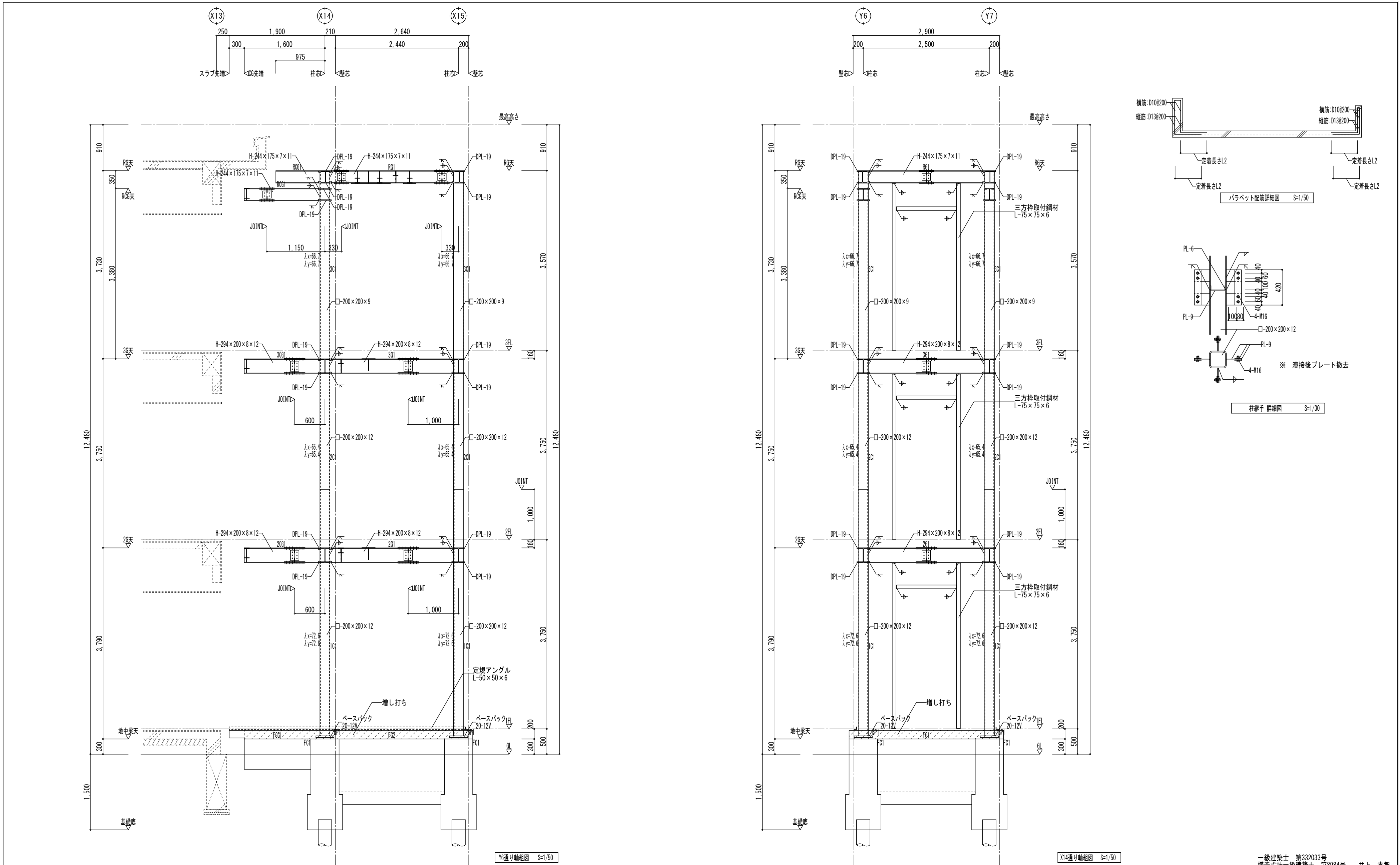
地中梁リスト			
符 号	FG1	FG2	FCG1
断 面			
B×D	400×1300	350×1300	350×600
上 筋	3-D22	3-D22	3-D22
下 筋	3-D22	3-D22	3-D22
S T P	3-D13@100	2-D13@150	2-D10@150
腹 筋	4-D10	4-D10	2-D10
巾止筋	D10@1000以内	D10@1000以内	D10@1000以内



一級建築士 第332033号  
構造設計一級建築士 第8984号 井上 貴智

[原図A2]

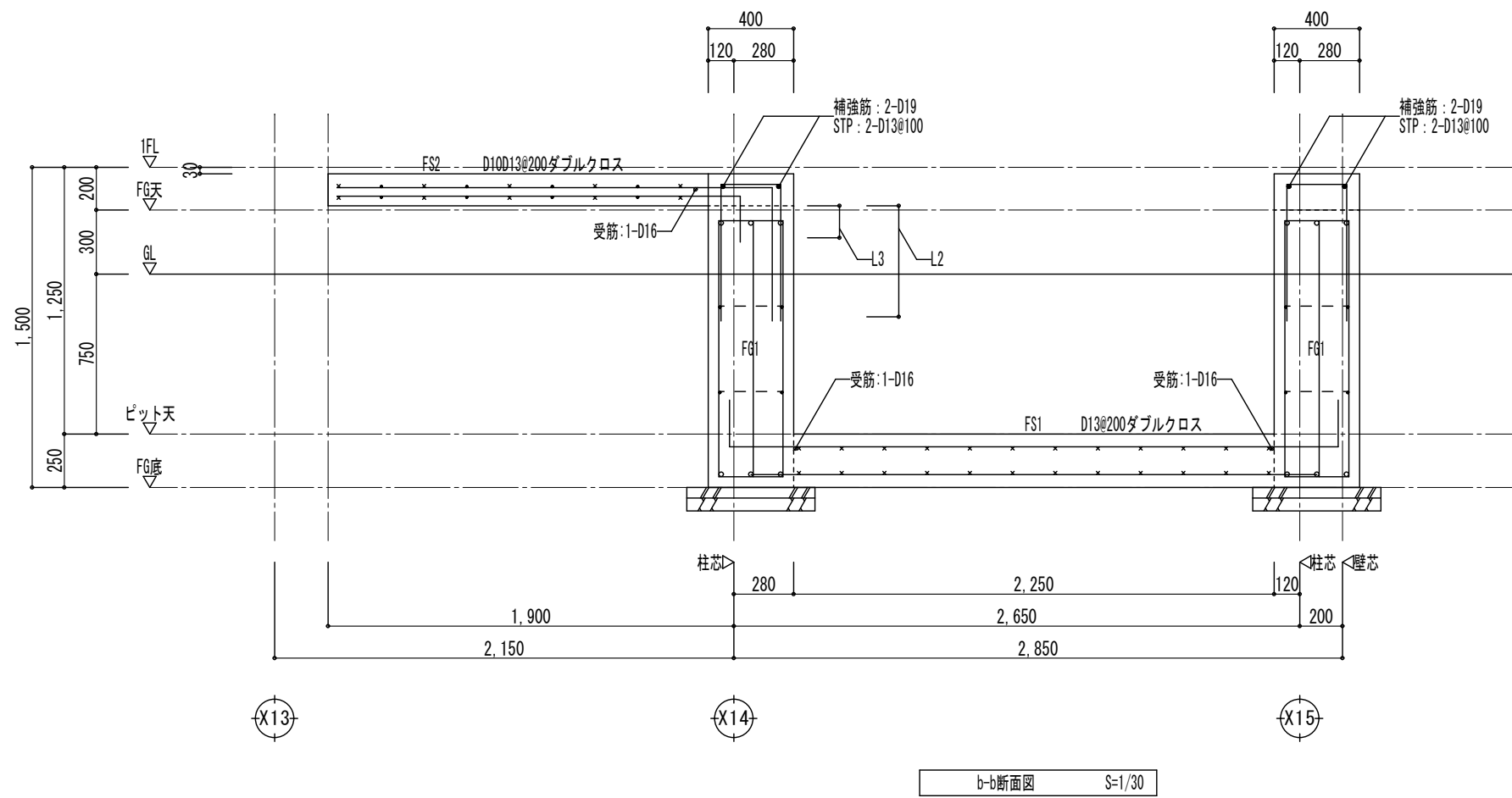
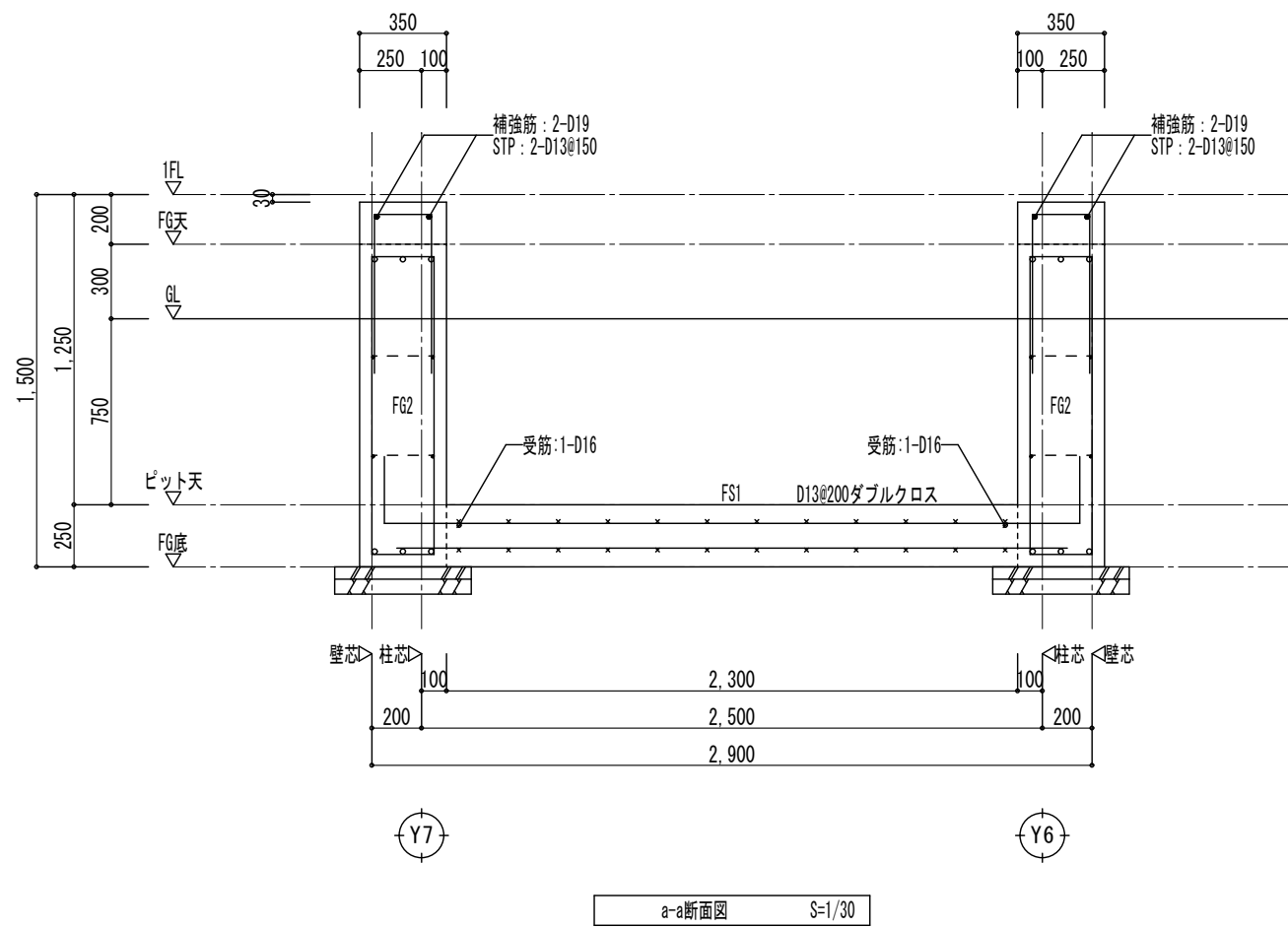
■ : NOTE	<div>NISSHIN SEKKEI 目新設計株式会社 三重県知事登録第1-518号</div>	Job Title				DATE	
		津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事				2025 - Jan	
		Drawing Title				SCALE	
		部材リスト				A2:1/50 A3:1/70	
		設 計 担 当				S - 1 1	
多湖 弘樹 一級建築士 第382361号							



■ : NOTE

NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社  
三重県知事登録第1-518号

Job Title	津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事	DATE	2025 - Jan
Drawing Title	鉄骨詳細図	SCALE	A2: 1/50 A3: 1/70
多湖 弘樹	設計担当	S - 1 2	
一級建築士 第382361号			



一級建築士 第332033号  
構造設計一級建築士 第8984号 井上 貴智  
[原図A2]

■ : NOTE	NISSHIN SEKKEI 日新設計株式会社 三重県知事登録第1-518号	Job Title 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事				DATE
						2025 - Jan
		Drawing Title 基礎配筋詳細図				SCALE
		設計担当 多湖 弘樹				A2: 1/30 A3: 1/42
		一級建築士 第382361号				S - 1 3

電気設備工事特記仕様書	
Ⅰ. 工事概要	
1. 工事名称	津市立豊が丘小学校改修工事
2. 工事場所	津市 豊が丘二丁目 地内
3. 建物概要	普通教室棟・特別教室棟 RC造 3階建 4,597.98㎡ 7項 増築棟 S造 3階建 43.50㎡ 7項
用途区分は消防法施行令別表第一による表記	
4. 工事項目	下記において●印を付した工事を対象とする。 ●電力設備 ●受変電設備 ・電力貯蔵設備 ・発電設備 ●通信・情報設備 ・中央監視制御設備 ・医療関係設備 ●構内配電線路 ・構内通信線路 ・その他
Ⅱ. 共通仕様	
図面及び特記仕様書に記載されていない事項については下記による。 ・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 「公共建築工事標準仕様書」（建築工事編・電気(機械)設備工事編 各令和4年版) 「公共建築改修工事標準仕様書」（建築工事編・電気(機械)設備工事編 各令和4年版) 「公共建築設備工事標準図」（電気設備工事編・機械設備工事編 各令和4年版) ・電気設備に関する技術基準を定める省令（電気設備技術基準） ・電気工事業の業務の適正化に関する法律 ・電気工事士法 ・労働安全衛生法 ・消防関連法規（条例・所轄署指導要領を含む。） ・電力会社供給約款 ・その他関連法令、関連諸基準	
Ⅲ. 特記仕様	
1. 一般共通事項	下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。
1. 一般事項	(1) 工事の詳細については、本設計図面及び仕様書による他、上記各施工基準に準拠し監督員指示の下に入念かつ誠実に施工すること。 (2) 設計図書に定められた内容、現場の納まり・取り合い等の不明な点や施工上の困難・不都合、図面上の誤記及び記載漏れ等に起因する問題点及び疑義、設計図書のとおりに施工することで将来不具合が発生すると予想される場合については、その都度、監督員と協議すること。 なお、設計図書のとりの施工であっても使用上の不具合が発生した場合は、協議のうえ改善策を講じること。 (3) 他工事との取合いについては予め当該工事関係者間において協議し、円滑な工事進捗に努めること。調整不足による意匠的な仕上り不備や不具合が発生した場合は、監督員の指示により手直し施工を行うこと。
2. 足場	設置する足場について、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月）」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」の2の(2)手すり据置き型方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。 内部足場の種別（参考） ・ 脚立 ・ 棚足場 ・ その他（ ） 外部足場の種別（参考） ・ 手摺先行据置枠組本足場 ・ 移動足場 ・ 高所作業車 ・ その他（ ） 外部足場設置範囲（参考） ・ 外部改修部 ・ 設備改修部 ・ 昇降用 ・ 転落防止用防護シート等による養生 ・ 適用する ・ 適用しない
・足場（つり足場、張出し足場又は高さが1.0m以上の足場で、組立から解体までの期間が60日以上のものに限る。）の組立て後、市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に關し十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。	
1) 足場の組立て等作業主任者等であって、労働安全衛生法第19条の2に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者	
2) 労働安全衛生法第81条に規定する労働安全コンサルタント（区分が土木又は建築である者）や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第88条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者	
3) 全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記1)又は2)に掲げる者と同等の知識・経験を有する者	
3. 三重県産業廃棄物税	本工事はに産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には、完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に、別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して、当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。 なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。
4. 電気工作物の種類	・一般電気工作物 ●自家用電気工作物
5. 電気工事士	電気工事士の区分により施工するものとし、契約電力が50.0kW以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工するものとする。
6. 電気工事業の業務の適正化に関する法律	電気工事の施工場所ごとに、その見やすい場所に、氏名又は名称、登録番号その他の経済産業省令で定める事項を記載した標識を掲げなければならない。

7. 電気保安技術者
電気工作物に係る工事は電気保安技術者を配置し、工事期間中の電気工作物の保安業務を行う。 また、電気主任技術者が選任されている施設においては、電気主任技術者に工事内容の説明を行い、工事の調整にあたる指導を受けるものとする。 なお、電気主任技術者の立会費用は、下記のとおりとする。 ●受注者負担 ・不要 ・その他（ ）
8. 品質管理
工事施工に関して、着手前・施工中・施工後の自主検査を実施すること。 チェックリスト等を作成し、管理を行うこと。
9. 出来形管理
以下の項目について、出来形管理の対象として管理を行うこと。 ① 各種盤据付耐震強度（設計標準震度、アンカーの種類・サイズ確認・埋め込み深さ）基礎寸法水平垂直 ② 配管・配線工事支持間隔 ③ スイッチ類の取付高さ
10. 測定機器の校正等
試験に使用する計測器類は2年以内の校正証明書（写）又は有効期限内の精度保証書（写）等を提出する。 また、照度計、騒音計、振動レベル計等の特定計量器を用いて計測する場合は、計量法に基づく検定に合格し、かつ検定有効期限内のものを使用する。
11. 施工計画等
受注者は施工に先立ち、次の書類を提出し監督員と打合せを行う。 なお、書類の作成においては、関連する関係者と十分に調整すること。 ① 総合施工計画書 包含工事の場合は、電気設備工事施工計画書とする。 ② 工種別施工計画書（施工要領書） 各種工種ごとに作成し、停電及び搬入計画書も作成する。 ③ 施工図（プロット図、平面図、展開図、各種詳細図） 主要機器、重量機器、3kg超過吊器具類等については、固定方法、吊り方法等の詳細図を作成し、十分な耐震性能を確保する施工方法を提案すること。 ④ 耐震計算書 ⑤ 照度分布図
12. 機材等
工事に使用する材料及び機器等については、次の書類を提出する。 ① 使用機材届出書 ② 機器明細図 使用機材届出書に記載のものの他、監督員の指示による。 ③ 各種計算書 設計図書による他、監督員の指示による。
13. 完成図書
作成する（ ● 完成図 ● 保全に関する資料 ・（ ） ） 完成図作図範囲（設計図を訂正） 完成図はCADにより作成することとし、著作権（著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む）にかかる使用权は発注者に移譲するものとする。また、製本2部（原図サイズ）により提出すること。
14. 工事写真
営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（最新版））に従い撮影すること。 なお、デジタル工事写真の小黑板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黑板情報電子化について（平成29年3月1日付け国営整第211号）」による。
15. 施工条件
監督員及び関係部局と協議調整し決定すること。 (1) 施工可能日 ・指定なし ・一部指定あり（振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等） ●指定あり 指定日（ ・施設休業日 ●打ち合わせ ・その他（ ） ） (2) 施工可能時間帯 ・指定なし ・一部指定あり（振動・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等） ●指定あり 指定時間（（ ）時～（ ）時 ●打ち合わせ ・その他（ ） ） (3) その他（ ）
16. 事故の発生時
工事施工中に事故が発生した場合には直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により工事事故報告書を監督員が指示する期日までに、監督員に提出しなければならない。 なお、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取調査、検証等に協力すること。
17. 建築副産物情報交換システムの利用
受注者は再生資源の利用又は建設副産物の搬出がある場合は、工事着手前及び工事完了後に「再生資源利用計画書（実施書）」、「再生資源利用促進計画書（実施書）」を監督員に提出することとし、また、法令等に基づき、再生資源利用計画を工事現場の公衆が見えやすい場所に掲げること。 なお、工事着手前にはJAGICが運営する「建設副産物情報交換システム」へデータ入力し、工事完了時にはシステムへ実績報告を行うこと。
18. 発生材の処理等
・本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事である。 分別解体等及び特定建設資材の再資源等の実施について適正な措置を講ずることとする。工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難しい場合は、監督員と協議するものとする。

分別解体等の方法
工種 ・新築 ・増築 ・修繕 ・模様替 ・解体 ・その他（ ） 分別解体の方法 ・手作業 ・手作業、機械作業併用
(1) 引き渡しを要するものは下記のとおりとし、それ以外は別途監督員の指示による。（ ） (2) 特別管理産業廃棄物 ・変圧器 ・コンデンサ ・その他（ ） 現場内の監督員の指定する場所へ保管するものとする。 なお、施工に際してPCB等特別管理産業廃棄物及び疑わしき機器等を発見した場合は、監督員に報告し対応を協議するものとする。 (3) 現場内において再利用を図るもの ・発生土 ・その他（ ） (4) 再資源化を図るもの ・コンクリート塊 ・アスファルトコンクリート塊 ・建設発生木材 ・（ ） (5) 水銀使用製品産業廃棄物として取り扱うもの ・蛍光灯 ・HIDランプ（高輝度放電ランプ） ・その他（ ） 「水銀廃棄物ガイドライン 第3版」（令和3年3月 環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物規制課）に基づき適切に処理すること。 (6) 引き渡しを要しないものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、再生資源の利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令に従い適正に処理し、監督員に報告すること。 （マニフェストA、B2、D票を提示すること。）
19. 官公署への手続き
工事の着手、着工、完成にあたり、関係官公署への必要な届出、手続き等を遅滞なく行う。 なお、当該手続きに係る費用は受注者の負担とする。 ●消防関係関係 ・電気工作物関係 ・受電関係 ・通信関係 ・建設工事関係（ ）
20. 消防法関係の手続き
(1) 消火器に係る消防用設備等設置届出書の作成 ・本工事（ ・建築工事 ・電気設備工事 ・機械設備工事 ） ・別途工事 (2) 防火対象物使用開始届出書 書類の作成（電気設備図面の作成及び電気設備に関する部分の記入）を行うこと。
21. 工事用仮設物
構内への設置 ・できる（施設管理者と協議） ・できない
22. 工事に用電力
構内既存の施設 ●利用できる（ ・有償 ●無償） ・利用できない 本工事で新規受電した時からの電力料金は本工事に含まれる。また、本受電後、引渡しまでの電気主任技術者の選任及びこれに伴う費用負担も本工事に含まれる。
23. 工事に用水
構内既存の施設 ●利用できる（ ・有償 ●無償） ・利用できない
24. 工事中等の保安監理
電気工作物の範囲が変更になった場合、工事着手から引渡しまでの電気保安管理等にかかる費用は本工事に含まれる。
25. 搬入計画
大型機器、重量物等の搬入前に、搬入経路の有効寸法（厚、天井高さ、搬入経路上の曲がり等）、障害物（足場等）、養生方法、運送車両、揚重機械、搬入機械の種類、台数及び数量、雨天の場合の処置、受入検査の方法等を記載し監督員に提出する。
26. 製品確認
発注者及び受注者の協議により仕様を決定し、製作するような規格品でない製品並びに監督員が指定する製品については、試験及び検査等を行う機器が整備された施設内において、監督員等が製品の確認をするものとする。
27. 機材等の検査及び試験
検査及び試験を行うべき機材等は、設計図書によるほか、監督員の指示による。
28. 完成確認及び完成検査時等の電源確保
機器の動作確認、電圧、極性、相回転等確認できるように電源を確保すること。
29. 完成時の操作説明
総合盤等操作に必要な機器については、使用開始前に操作説明を行うものとする。また、必要に応じて操作説明書、操作注意事項書を作成し、機側に備えるものとする。
30. 不正軽油の使用の禁止
(1) 市工事の施工に当たり、工事現場で使用し、又は使用させる車両（資機材の搬入車両を含む。）並びに建設機械等の燃料として、不正軽油（地方税法第144条の32(製造等の承認を受ける義務等)の規定に違反する燃料をいう。)を使用してはならない。 (2) 受注者は、県が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。また、受注者は下請負者等に同調査に協力するよう管理及び監督しなければならない。 (3) 受注者は、不正軽油の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。また、受注者は下請負者等に不正軽油の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じよう管理及び監督しなければならない。

2. 施工仕様
下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。
1. 既設設備等の調査
既設設備等の改修を含む場合、他の設備、施設運営に影響をきたさないよう、現地工事着工前に十分な調査を行うこと。 (1) 地中埋設管路 1) 項目 ・埋設配管 ・構造物 ・その他（ ） 2) 調査範囲 ・埋設ルート ・その他（ ） (2) 貫通及びはつり 1) 項目 ●鉄筋 ●配管 ・その他（ ） 2) 調査範囲 ●施工部分 ・その他（ ） (3) 既設との取合い 1) 項目 ●接続箇所 ●増設箇所 ・その他（ ） 2) 調査範囲 ●施工部分 ・その他（ ）
2. 施工前の測定等
改修工事にあたっては、工事範囲の既設機器の動作確認及び絶縁測定等を着工前に行い、監督員に報告すること。
3. 耐震施工
(1) 想定される地震に対応するものとする。 (2) 耐震計算書を監督員に提出するものとする。
4. 耐震基準
耐震措置の計算及び施工方法は、「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準 平成25年版」（国土交通省大臣官房官庁営繕部）及び「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」（（一財）日本建築センター）を適用する。
5. はつり
(1) 穴開け及び補修 ・なし ●あり（貫通場所及び口径は別図による） (2) 溝はつり及び補修 ・なし ・あり（はつり深さは別図による）
6. あと施工アンカー
性能確認試験及び施工確認試験 ・行う ・行わない
7. 基礎の配線ビット
基礎に配線ビットを設ける場合、ビットの寸法は敷設するケーブルの曲げ半径、条数、将来増設時の作業性、事故時の対応、排水等に配慮する。
8. 配管・配線の耐震処置
建物引込部の配管の耐震処置 ・行う ・行わない 建物のエキスパンションジョイント部の配線の耐震処置 ●行う ・行わない
9. 最上階の埋込配管
最上階のコンクリート屋根スラブへの埋込配管は、原則として行わない。
10. 露出配管
(1) 雨線外など水気のある場所に施設する場合は、U字配管を行わない。 (2) 附属品は、ねじ込み形を使用する。 (3) 壁面配管で人が容易に触れるおそれのある部分（2m以下）の配管には、突起のない支持金物又は保護カバーを使用する。 (4) 通路部分では床配管を避け、天井配管の場合は原則2.1m以上とする。 (5) 監督員の指示がある場合は、上記に係わらずその指示に従う。
11. 合成樹脂管
(1) 合成樹脂管の管端には、ブッシングを取り付ける。 (2) 原則として屋外の露出には使用しない。（P F管）
12. 予備配管等
埋込型分電盤からの立上り予備配管は、予備回路が4回路以下は（P F 22）を1本、5回路以上は（P F 22）を2本施工する。スラブ天井の場合は、天井又は梁下200mmまで立上げ、位置ボックスを取付ける。また、二重天井の場合は、天井まで立上げ、位置ボックスを取付ける。
13. 金属製電線管等の塗装
(1) 露出配管、露出ボックス、鋼製プルボックス等のうち下記の部分には、塗装を施す。 1) 屋外、屋内（電気室、機械室、EPS、居室、廊下）、その他建築意匠上必要な箇所。 2) 図面に特記なき場合は、熔融亜鉛メッキ鋼材製のポール及びアームは塗装しなくてもよい。ただし、図面に指示がある場合はその指示による。 3) 湿気、水気のある場所及びコンクリート埋込みの金属製位置ボックスの内面には絶縁性防錆塗料を十分に塗布すること。（監督員が指示した場所は除く。） 4) 仮枠貫通部の金属配管には錆止め塗装を施すこと。 (2) 塗装はエッチングプライマー1種の下地処理のうえ、監督員の指定する色にて調合ペイント2回塗りとする。ただし、指定場所及びその他建築意匠上、必要な箇所の露出プルボックスは指定色焼付塗装とする。
14. 導入線
通線を行わない配管及び配線引抜き後に空となった配管には、導入線（φ1.2mm以上の樹脂被覆鉄線等）を挿入する。ただし、長さ1m以下の部分は省略することができる。
15. 予備スリーブ
梁下に配管・配線スペースがない梁には、1スパンに2本程度を予備スリーブとして埋込む。 なお、防火区画貫通スリーブは、防火区画処理を行うこと。
16. ボックス類
位置ボックス及びジョイントボックス類は、特記なき場合、原則として金属製とする。
17. 軽量間仕切のボックス
軽量間仕切に位置ボックスを固定する場合は、ボルト等により堅固に固定する。
18. プルボックス
(1) 屋外形、特殊形状又は一辺が800mm以上のものは、製作図を提出すること。 (2) 屋外形プルボックスはボックス内に支持ボルトが突出しない構造とし、取付部にはコーキングを行う。

〔原図A2〕

■ : NOTE	NISSHIN SEKKEI 目新設計株式会社 三重県知事登録第1-518号				Job Title				DATE	
					津市立豊が丘小学校校長寿命化改修工事				2025 - Jan	
					Drawing Title				SCALE	
					特記仕様書01				A2:N・S A3:N・S	
					設計担当				E - 0 1	
					多湖 弘樹					
					一級建築士 第382361号					

NISSHIN  
SEKKEI

目新設計株式会社

三重県登録第1-518号

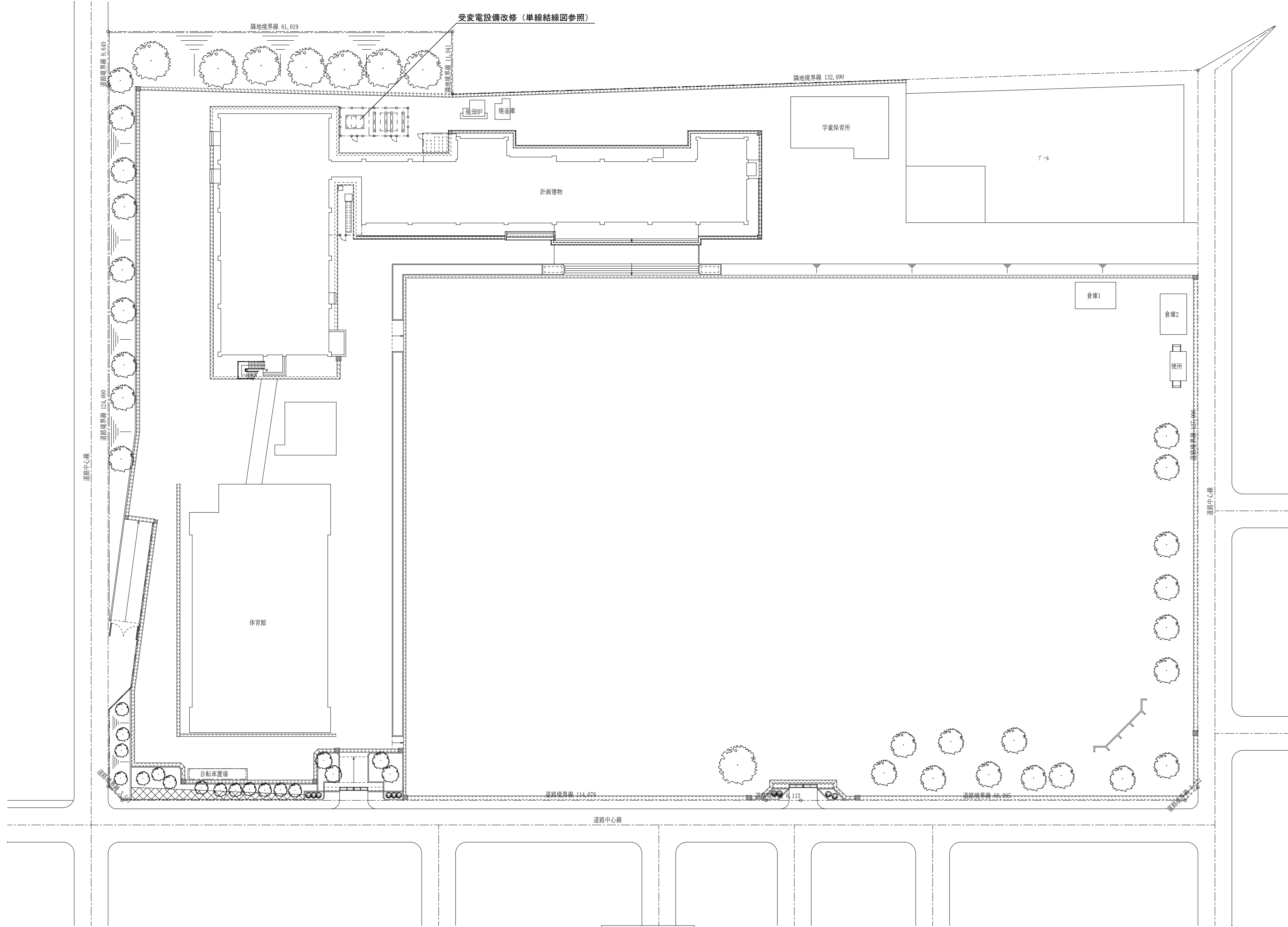




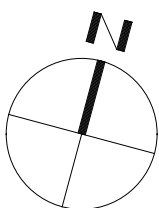
18. 拡声設備 (1) 機器 (2) 増幅器	・増幅器 ・付属機器 ・操作装置 ・スピーカ ●その他（配線接続） ・非常放送兼用（仕様は非常放送装置を参照） ・専用 出力（ ）W 出力インピーダンス ・Lo形 ・Hi形
(3) 付属機器	・オーディオミキサー ・リモコンマイク ・電源制御器 ・録音再生装置（・CD ・メモリオディオ ・その他（ ）） ・アナウンスレコーダ（・チャーム ・独自メッセージ ・プログラムタイマ ・その他（ ））
(4) 操作装置	・有線マイクロホン ・無線マイクロホン（・電波式（・アナログ ・デジタル） ・赤外線式） ・ラジオチューナー（・FM ・AM ・その他（ ）） ・スピーカ切替装置 ・その他の機器（ ）
(5) スピーカ	・卓型 ・キャビネットラック型 ・壁掛型 ・その他（ ） ・非常放送兼用（仕様は非常放送装置を参照） ・専用 結線 ・1W ・3W ・（ ）W インピーダンス ・Lo形 ・Hi形 設置場所 ・屋内 ・屋外 ・その他（ ）
19. 誘導支援設備 (1) 設備 (2) 音声誘導装置	・音声誘導装置 ・インターホン ・トイレ等呼出装置 1) 検出方式 ・磁気式 ・無線式 ・画像認識式 ・その他（ ） 2) 設置場所 ・屋内（防雨形） ・屋内 3) 機能 ・自動火災報知設備より火災報知信号を受信した場合停止する ・タイムスケジュールにより停止及び開始を可能とする ・その他（ ） 4) 機器 ・制御装置 ・送信機 ・受信機 ・その他（ ） 5) 制御装置 ・壁掛型 ・卓上形 ・複合盤組込 ・その他（ ） 6) 送信機 ・壁掛形 ・卓上形 ・埋込形 ・その他（ ） 7) 受信機 ・スピーカ式 ・イヤホン式 ・その他（ ）
(3) インターホン	1) 用途 ・内部受付用 ・外部受付用 ・夜間訪問用 ・身体障害者用 ・保守用 ・その他（ ） 2) 機能 ・音声通話 ・映像モニタ 3) 通話網 ・親子式 ・相互式 ・複合式 4) 通話方式 ・同時通話式 ・交互通話式 ・その他（ ） 5) 機器 ・親機 ・子機 ・その他（ ） 6) 親機 ①形状 ・壁掛型 ・卓上形 ・複合盤組込 ・その他（ ） ②送受話器 ・電話機形 ・マイク形 ・その他（ ） 7) 子機 ①形状 ・壁掛形 ・卓上形 ・埋込形 ・その他（ ） ②送受話器 ・電話機形 ・マイク形 ・その他（ ）
(4) トイレ等 呼出装置	1) 用途 ・トイレ呼出 ・受付呼出 ・非常通報 ・その他（ ） 2) 機器 ●親機 ●呼出スイッチ ・警報装置 ・その他（ ） 3) 親機 ●壁掛型 ・卓上型 ・複合盤組込 ・その他（ ） 4) 呼出スイッチ ●押ボタン式 ●引紐式 ・その他（ ） 5) 警報装置 ・光 ・音声 ●ブザー ・ベル ・その他（ ）
20. テレビ共同 受信設備 (1) 受信放送 (2) 機器 (3) アンテナ	・UHF ・BS ・CS ・FM ・CATV ●その他（脱着） ・増幅器 ・混合器 ・分波器 ・分岐器 ・分配器 ・機器収容箱 ・アンテナ ・その他（ ） 1) 放送 ・UHF ・BS ・CS ・FM ・その他（ ） 2) マスト ・地上波用（・壁面取付 ・自立 ・既設利用） ・衛星用（・壁面取付 ・自立 ・既設利用） ・その他（ ） 3) 自立用基礎 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ・その他（ ）
21. 監視カメラ設備	・仕様詳細は別図による。
22. 駐車場 管制設備	・仕様詳細は別図による。
23. 防犯・入退室 管理設備	・仕様詳細は別図による。
24. 自動火災 報知設備 (1) 機器 (2) 受信機	・受信機 ・副受信機（表示装置） ・中継器 ・発信機 ●感知器 ・光警報装置 ・その他（ ） 1) 型式 ・P型1級 ・P型2級 ・R型 2) 回線数 ・（ ）回線 ・（ ）アドレス 3) 試験機能 ・自動試験機能 ・遠隔試験機能 4) 盤形式 ・複合盤組込 ・自立型 ・壁掛型 ・その他（ ）
(3) 副受信機 （表示装置）	1) 盤形式 ・自立型 ・壁掛型 ・その他（ ） 2) 回線数 ・（ ）回線 ・（ ）アドレス 3) 表示装置の仕様詳細は別図による。
(4) 中継器 (5) 発信機	試験機能 ・自動試験機能 ・遠隔試験機能 1) 型式 ・アドレス付 ・P型1級 ・P型2級 2) 消火栓ポンプ起動 特記なき場合は、発信機連動方式とし、発信機表面に「消火栓起動」等の文字を併記する。
(6) 感知器	3) 設置 ・単独設置 ・機器収容箱に組込 ・消火栓ボックス（別途）に組込 ・その他（ ） 1) 型式 ・アドレス付 ●一般型 2) 種類 ・熱感知器 ・空気管式 ●煙感知器 ・炎感知器 3) 試験機能 ・自動試験機能 ・遠隔試験機能 4) 機器仕様 ●一般 ・防水 ・防爆 ・防食 ・その他（ ）
(7) 光警報装置	1) 機器 ・警報装置 ・制御装置 ・同期装置 2) 警報装置 ・天井付 ・壁付 3) 同期装置 ・自走同期式 ・外部同期式

23. 自動閉鎖設備	・運動制御器	・感知器	・自動閉鎖装置	・自動開錠装置
(1) 機器	・その他 ( )			
(2) 運動制御器	1) 制御対象	・防火戸	・防火シャッター	・防排煙ダンパー
		・非常口等の扉	・その他 ( )	
	2) 回線数	( )	回線 (遠方復帰機構 ( ) 回路)	
	3) 設置	・単独 (・壁掛形	・自立形)	・火災受信機等との複合盤
(3) 感知器	1) 型式	・アドレス付	・一般型	
	2) 種類	・煙感知器 (・2 種	・3 種)	
	3) 試験機能	・自動試験機能	・遠隔試験機能	
	4) 機器仕様	・一般	・防水	・防食
(4) 自動閉鎖装置	1) 方式	・電磁式	・ラッチ式	・その他 ( )
	2) 施工	・本工事	・建築工事	・電気設備工事
		・既設利用	・その他 ( )	・別途工事
(5) 自動開錠装置	1) 方式	・電気錠	・その他 ( )	
	2) 施工	・本工事	・建築工事	・電気設備工事
		・既設利用	・その他 ( )	・別途工事
24. 非常警報設備	・非常放送装置	・非常ベル		
(1) 設備	1) 消防法基準適合マーク品とする。			
(2) 非常放送装置	2) 機器	・増幅器	・スピーカ	・非常用リモコンマイク
		・その他 ( )		
	3) 増幅器	①出力	( ) W	
		②出力インピーダンス	・Lo形	・Hi形
		③形式	・ロングドラック型	・スタンダードラック型
			・壁掛型	
		④機能	・マイク放送	・運動放送 (・自火報設備
			・その他 ( )	・緊急地震速報設備)
		⑤用途	・拡声設備兼用	・非常放送専用
	4) スピーカ	①結線	・1W	・3W
			( ) W	
		②インピーダンス	・Lo形	・Hi形
		③設置場所	・屋内	・屋外
			・その他 ( )	
		④用途	・拡声設備兼用	・非常放送専用
	5) 非常用リモコンマイク	・壁掛形	・ラック収納形	・卓上形
		・その他 ( )		
(3) 非常ベル	1) 機器	・起動装置	・非常ベル	・表示灯
(自動サイレンを含む)	2) 設置	・単独設置	・機器収容箱に結込	・その他 ( )
		・消火栓ボックス (別途)	に結込	・その他 ( )
25. ガス漏れ火災警報設備	・受信機	・副受信機	・中継器	・検知器
(1) 機器	・その他 ( )			
(2) 受信機	1) 回線数	( )	回線	
	2) 種類	・都市ガス用	・液化石油ガス用	
	3) 設置	・単独 (・壁掛形	・自立形)	・火災受信機等との複合盤
(3) 副受信機	設置	・単独 (・壁掛形	・自立形)	・火災受信機等との複合盤
		・その他 ( )		
(4) 検知器	1) 動作	・単独 (単独動作)	・連動 (受信機に伝送)	
	2) 定格電圧	・AC100V	・DC24V (受信機等から供給)	
		・その他 ( )		
	3) ガス検知出力信号	・有電圧出力方式	・無電圧接点方式	
【中央監視制御設備】	・仕様詳細は別紙による。			
【医療関係設備】	・仕様詳細は別紙による。			
【構内配電線路】				
26. 構内配電線路	・地中線式 (・直埋	・管路)	・架空線式 (・直接	・ちょう架線添架)
(1) 配線方式	・建築物等添架式	・露出配管	・隠蔽配管	・その他 ( )
	・その他 ( )			
(2) 建柱	1) 施工	・本工事	・既設柱利用	・その他 ( )
	2) 電柱	・コンクリート柱	・鋼管柱	・パンザマスト
		・その他 ( )		
	3) 支持材	・根かせ	・根はじき	・根巻き
		・支線 (保護ガード	・有	・無)
	4) 装柱材料	・有 (電力仕様)	・無	
(3) 装柱機器	1) 機器	・有	・無	
(高圧用)		・開閉器	・避雷器	・カットアウト
		・その他 ( )		
	2) 耐環境性	・一般用	・耐塩用	
	3) 開閉器	仕様は 5. 受変電設備	(6) 負荷開閉器	による。
(4) 装柱機器	1) 機器	・開閉器	・開閉器箱	・避雷器
(低圧用)		・その他 ( )		・カットアウト
		・端子		
(5) ハンドホールマンホール	1) 耐環境性	・一般用	・耐塩用	
	2) 形式	・ブロック式	・現場打ち	
	2) 施工	・本工事	・建築工事	・電気設備工事
		・既設利用	・その他 ( )	・別途工事
	3) ケーブル支持金物の取付	・2 箇所	・4 箇所	・ ( ) 箇所
	4) 重車両の通行	・有 (破壊荷重 200kN以上、衝撃係数 0.1(走行速度制限箇所) )	・無	
(6) 鉄鉢蓋	1) 鉄鉢蓋の刻印は「強電」、「電力」又は「高圧」とする。			
	2) 雨水の流れ込みを防ぐため防水パッキンとする。			
(7) 地中ケーブル保護材料	1) 種類	●FEP	●GLT (PEライニング管)	・VE
		・厚膜電線管	・その他 ( )	・SGP
	2) 標示杭埋設	・コンクリート製	・鉄製 (アスファルト部分)	
	3) 埋設標識シート	●2倍長	・その他 ( )	
	4) 埋設標識シートの表記は電力用であることがわかるものとする。			

【構内通信線路】	
27. 構内通信線路	
(1) 用途	・ 電話 ・ 拡声 ・ 時刻表示 ・ 火災報知 ・ 非常警報 ・ インターホン ・ テレビ共同受信 ・ 防犯 ・ 制御 ・ その他 ( )
(2) 配線方式	・ 地中線式 ( ・ 直埋 ・ 管路 ) ・ 架空線式 ( ・ 直接 ・ ちょう架線添架 ) ・ 建築物等添架式 ( ・ 露出配管 ・ 隠蔽配管 ・ その他 ( ) ) ・ その他 ( )
(3) 建柱	1) 施工 ・ 本工事 ・ 既設柱利用 ・ 構内配電線柱に添架 ・ その他 ( ) 2) 電柱 ・ コンクリート柱 ・ 鋼管柱 ・ パンザマスト ・ その他 ( ) 3) 支持材 ・ 根かせ ・ 根はじき ・ 根巻き ・ 底板 ・ 支線 (保護ガード ・ 有 ・ 無) 4) 装柱材料 ・ 有 ・ 無 5) 銘板 ・ 有 ・ 無 1) 形式 ・ ブロック式 ・ 現場打ち 2) 施工 ・ 本工事 ( ・ 建築工事 ・ 電気設備工事 ) ・ 別途工事 ・ 既設利用 ・ その他 ( ) 3) ケーブル支持金物の取付 ・ 2箇所 ・ 4箇所 ・ ( ) 箇所 4) 重車道の通行 ・ 有 (破壊荷重 200KN以上、衝撃係数 0.1 (走行速度制限箇所) ) ・ 無 ・ 鉄釘蓋の刻印は「弱電」又は「通信」とする。 2) 雨水の流れ込みを防ぐため防水パッキン付とする。 1) 種類 ・ FEP ・ GLT (PEラインング管) ・ VE ・ HIVE ・ SGP ・ 厚鋼電線管 ・ その他 ( ) 2) 標示杭埋設 ・ コンクリート製 ・ 鉄製 (アスファルト部分) 3) 埋設標識シート ・ 2倍長 ・ その他 ( ) 4) 埋設標識シートの表記は弱電用であることがわかるものとする。
(4) ハンドホール マンホール	
(5) 鉄釘蓋	
(6) 地中ケーブル 保護材料	
【その他】	
28. 消火器	1) 設置 ・ 本工事 ( ・ 建築工事 ・ 電気設備工事 ・ 機械設備工事 ) ・ 別途工事 2) 消火器 種別 ( ) 、数量 ( ) 本 3) 消火器収納箱 材質 ( ) 、数量 ( ) 面
4. 使用資機材の通用規格	
(1) 以下に定めるとおりとする。なお、以下に定めのない資機材については、日本産業規格 ( J I S 規格 ) 適合品の使用を原則とする。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電気用品安全法に定める特定電気用品又は特定電気用品以外の電気用品 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電気用品安全法適合品</li> </ul> </li> <li>● 耐熱・耐火電線、耐熱・耐火ケーブル <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消防庁の登録認定機関として消防庁告示に規定された耐火・耐熱電線及び耐火バスタークの適合性検査を行い合格したもの</li> <li>・ 第三者認証機関として (一社) 日本電線工業会規格 ( JCS 規格 ) への適合性検査を行い合格したもの</li> </ul> </li> <li>● 非常用照明器具 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築基準法に定める国土交通大臣認定品</li> <li>・ (一社) 日本照明工業会の自主評定を受け、JIL5501適合マークが貼付されたもの</li> </ul> </li> <li>● 誘導灯 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登録認定機関 ( (一社) 日本電気協会 ( JEA 誘導灯認定委員会 ) ) の認定を受け、認定証票が貼付されたもの</li> </ul> </li> <li>● 制御盤 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (一社) 日本配電制御システム工業会規格 ( JSIA 規格 ) 適合品</li> </ul> </li> <li>● 消防用加圧送水装置、不活性ガス消火設備及びハロゲン化物消火設備の制御盤、火災通報装置、総合操作盤等の認定対象品 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登録認定機関 ( (一財) 日本消防設備安全センター ( 消防用設備等認定委員会 ) ) の認定を受け、認定証票が貼付されたもの</li> </ul> </li> <li>● 不活性ガス消火設備等の操作箱、新ガス系消火設備制御盤、緊急通報装置、非常通報装置等の性能評定対象品 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (一財) 日本消防設備安全センターの性能評定を受け、評定証票が貼付されたもの</li> </ul> </li> <li>● 金属閉鎖形スイッチギア <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (一社) 日本電機工業会規格 ( JEM 規格 ) 適合品</li> </ul> </li> <li>● 高圧機器 ( 遮断器、限流ヒューズ、負荷開閉器、避雷器、断路器、特定機器以外の変圧器、計器用変成器、保護継電器 ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (一社) 電気学会電気規格調査会規格 ( JEC 規格 ) 適合品</li> </ul> </li> <li>● 直流電源装置 ( 防災電源用 ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登録認定機関 ( (一社) 日本電気協会 ( JEA 蓄電池設備認定委員会 ) ) の認定を受け、認定証票が貼付されたもの</li> </ul> </li> <li>● 交流無停電電源装置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (一社) 電気学会電気規格調査会規格 ( JEC 規格 ) 適合品</li> </ul> </li> <li>● 自家発電装置 ( 防災電源用 ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登録認定機関 ( (一社) 日本内燃力発電設備協会 ) の認定を受け、認定証票 ( 長時間形 ) が貼付されたもの</li> </ul> </li> <li>● 自家発電装置 ( 防災電源用でないもの ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (一社) 日本電機工業会規格 ( JEM 規格 ) 適合品</li> </ul> </li> <li>● 太陽電池モジュールの支持物 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電気設備の技術基準の解釈第 4 条第 2 項又は第 3 項の規定に適合するもの</li> </ul> </li> <li>● 電話用設備 ( 電話交換機、電話機等 ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登録認定機関 ( (一財) 電気通信端末機器審査協会 ( JATE ) 等 ) の技術基準適合認定を受け、適合表示が貼付されたもの</li> </ul> </li> <li>● 非常用放送設備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登録認定機関 ( 日本消防検定協会 ) の認定を受け、認定証票が貼付されたもの</li> </ul> </li> <li>● テレビ共同受信機器 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 優良住宅部品 ( BL 部品 ) の認定を受けたもので、BL マーク証紙が貼付されたもの</li> <li>・ (一社) 情報技術産業協会スーパーハイビジョン受信マーク登録品の認定を受けたもので、SH マークが貼付されたもの</li> </ul> </li> <li>● 自動火災報知設備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登録認定機関 ( 日本消防検定協会 ) の認定を受け、認定証票が貼付されたもの</li> </ul> </li> </ul>	
(2) 特殊仕様の資機材を使用する場合は、仕様・性能等を証明する書類を監督員に提出し、監督員の承諾を得るものとする。	

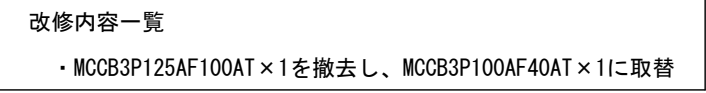


配置図 S=1/500



[原図A2]

■ : NOTE	<div>NISSHIN SEKKEI</div> <div>目新設計株式会社</div> <div>三重県知事登録第1-518号</div>	<div>Job Title</div> <div>津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事</div>				<div>DATE</div> <div>2025 - Jan</div>	
		<div>Drawing Title</div> <div>配置図</div>				<div>SCALE</div> <div>A2:1/500    A3:1/700</div>	
		<div>設計担当</div> <div>多湖 弘樹</div> <div>一級建築士 第382361号</div>				<div>E - 0 4</div>	


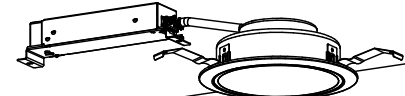


■ : NOTE

Job Title		津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事	
Drawing Title		単線結線図	
		設計担当	
多湖 弘樹			
一級建築士 第382361号			

DATE	
2025 - Jan	
SCALE	
A2:N · S	A3:N · S

E - 0 5

			
本体：銅板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白）		反射板（上部）：プラスチック（ホワイト） 反射板（下部）：銅板（ホワイトつや消し仕上） 枠：銅板（ホワイトつや消し仕上）、埋込穴φ150	
A32	LEDﾊﾞｰｽﾗｲﾄ 3200lmﾀｲﾌﾟ 公共型番：LSS9-2-30	B	LEDﾀﾞｲｸﾗｲﾄ 公共型番：LRS1-08

照明器具姿図

トイレ呼出押ボタン（引きひも付）

参考型番：BT-312ZR

形 状	壁埋込形（JIS1個用スイッチボックスカバー付）
プレート／握り	抗菌樹脂
確認灯	LED（赤）
呼出ボタン	ノンロック式
点 字	よびだし
備 考	JIS C-0920 1Px5（防噴流形）適合

トイレ表示灯（ブザー付）

参考型番：BL-644U/8

形 状	壁埋込形（JIS1個用スイッチボックスカバー付）
プレート	樹脂
表 示 灯	LED（赤）
アラーム音	65dB（距離1m）、背面ボリュームで可変

トイレ復旧ボタン

参考型番：BR-302RAU

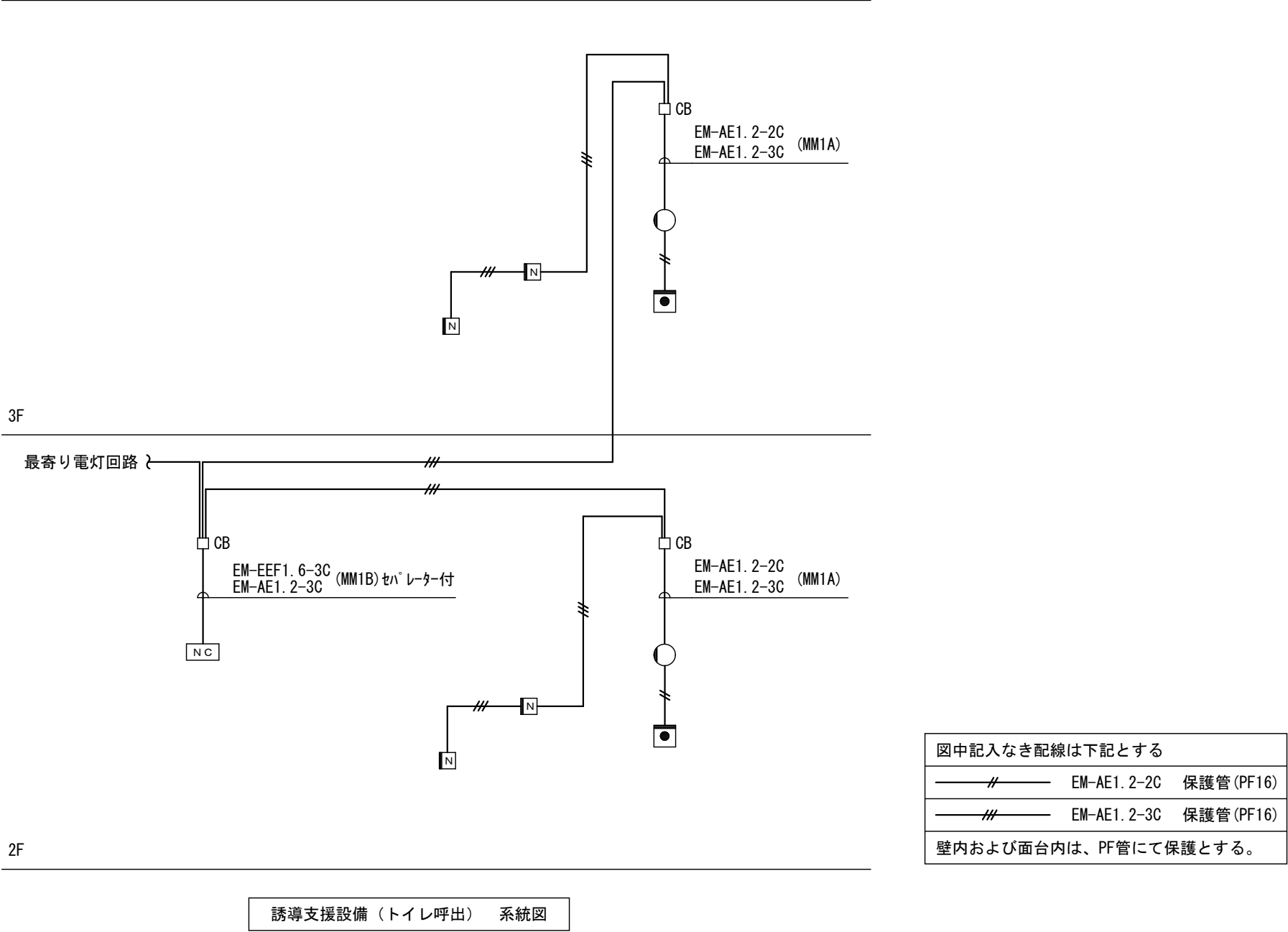
形 状	壁埋込形（JIS1個用スイッチボックスカバー付）
プレート	樹脂
復旧スイッチ	ノンロック式

3窓用呼出表示器

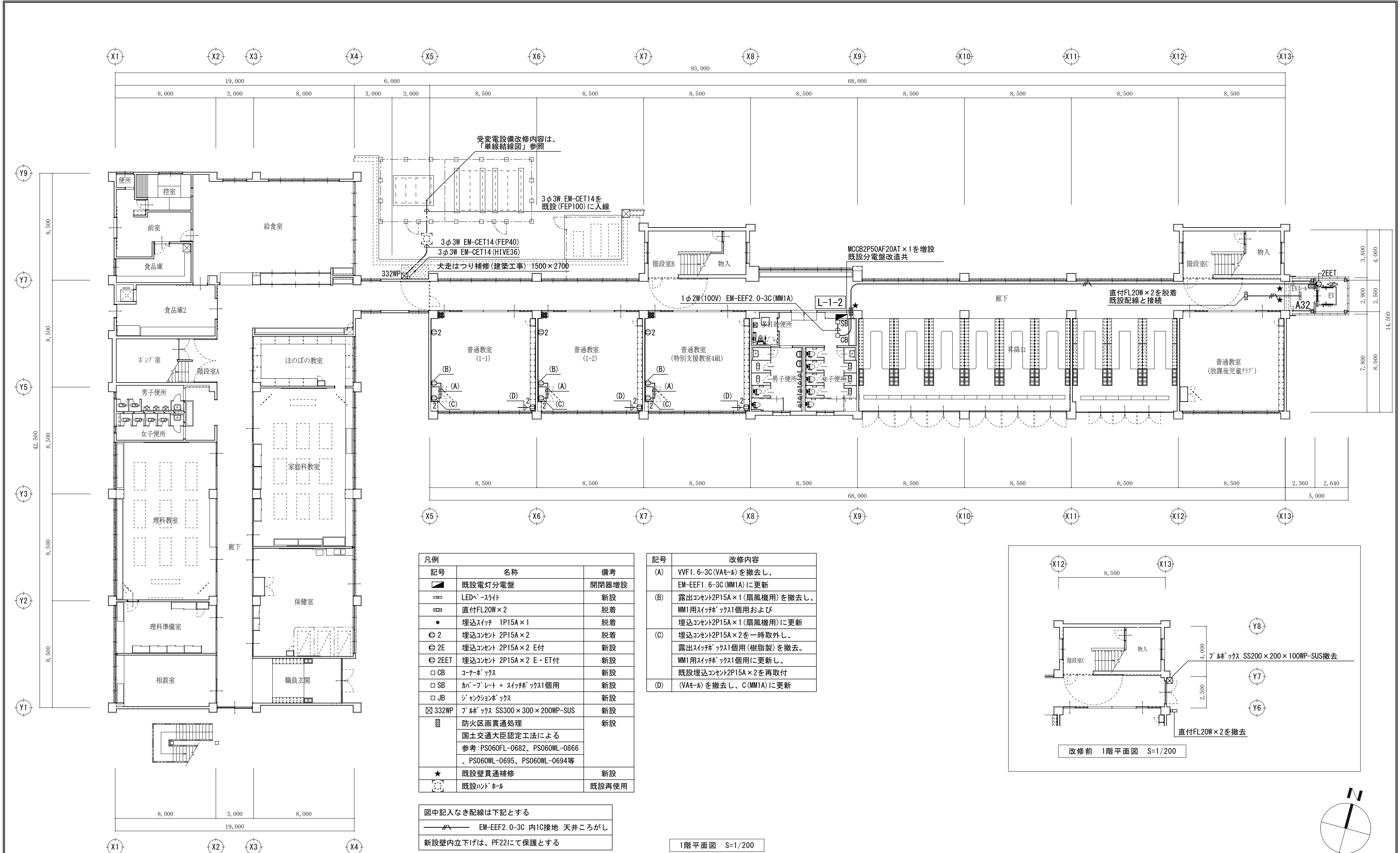
参考型番：IRP-3B

形 状	壁掛形
材 質	カバー、ケース：AES樹脂、シャーシ：銅板製
呼出表示灯	LED（赤）
呼出音	電子メロディー（8種）／トレモロ音／チャイム音
呼出種別	一般呼出、緊急呼出
操作スイッチ	復旧、呼出音停止、呼出音量、転送、設定
電 源	AC-6C100V 50／60Hz 最大14W（待機時2W）
備 考	パラ表示／転送受入機能

弱電機器姿図





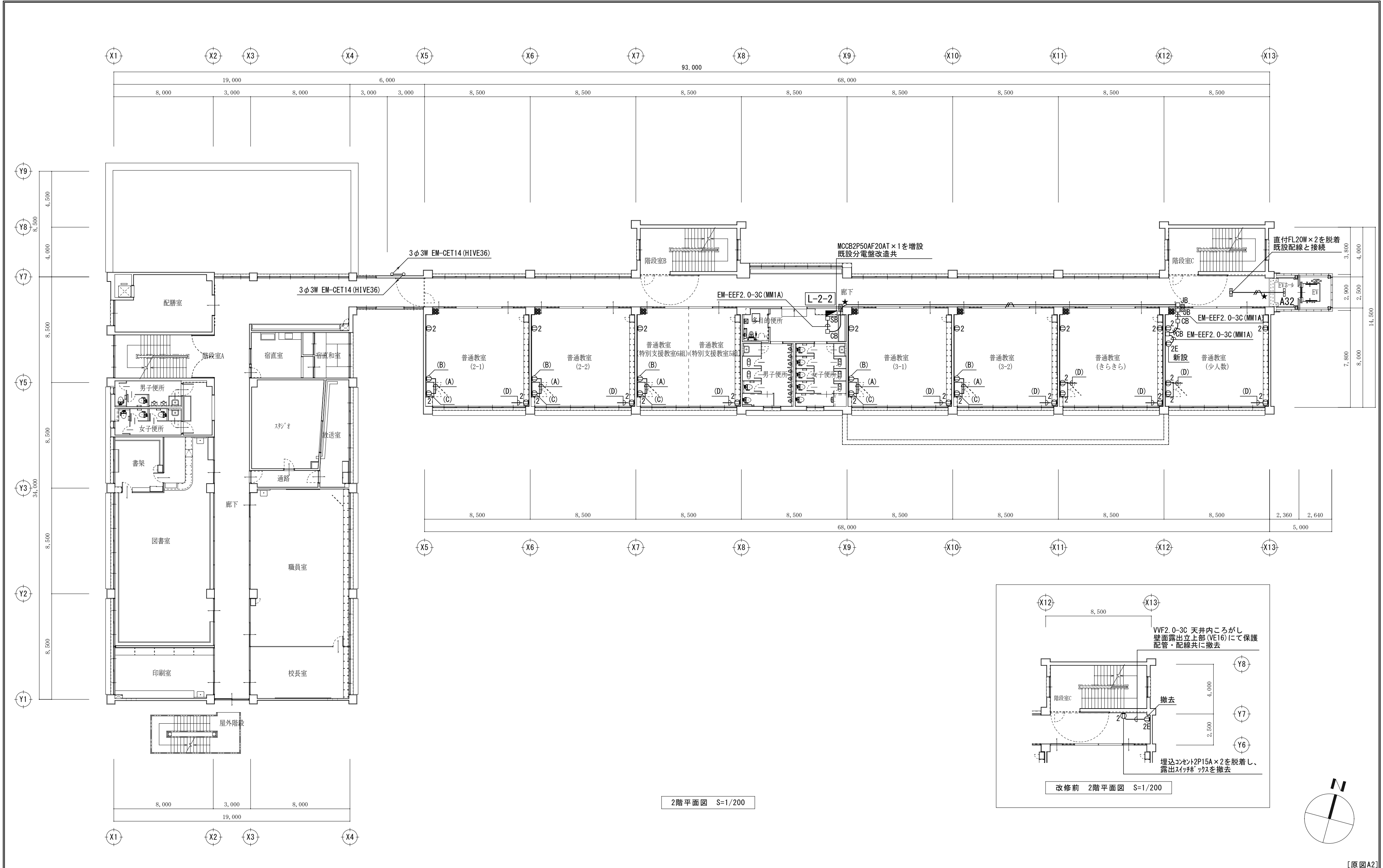


■ : NOTE

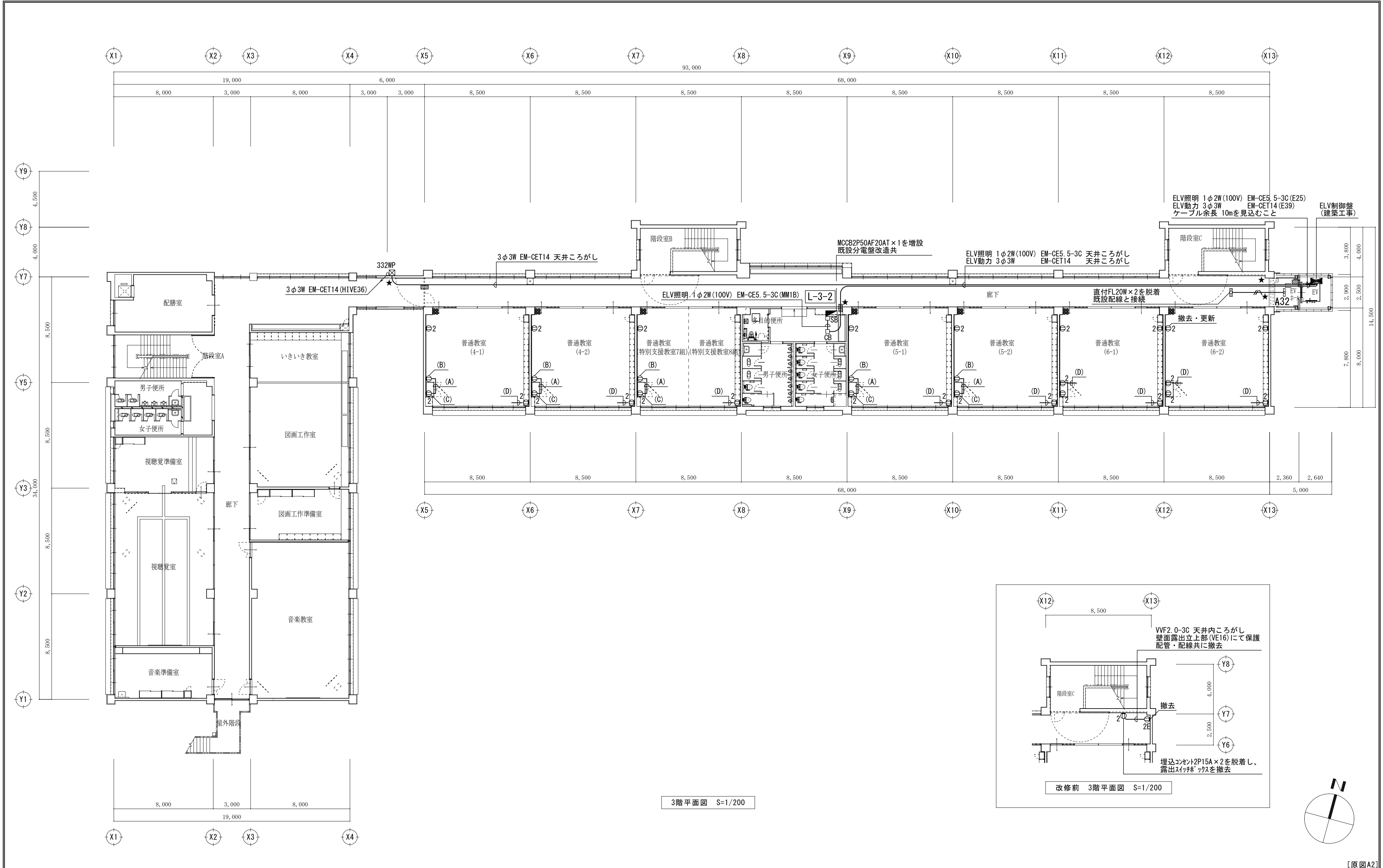
NISSHIN  
SEKKEI  
目新設計株式会社

三重県知事登録第1-518号

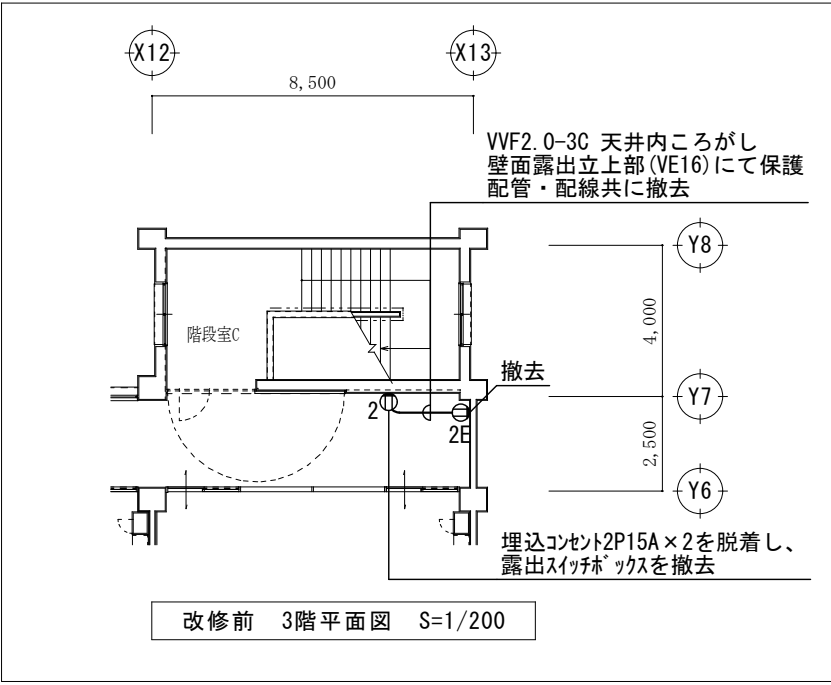
Job Title 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		DATE 2025 - Jan	
Drawing Title 電灯・動力設備 1階平面図		SCALE A2: 1/200 A3: 1/280	
多湖 弘樹	設計担当		
一級建築士 第382361号			
E - 0 7			



■ : NOTE	NISSHIN SEKKEI 目新設計株式会社 三重県知事登録第1-518号	Job Title 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事					DATE 2025 - Jan	
		Drawing Title 電灯・動力設備 2階平面図					SCALE A2:1/200 A3:1/280	
		設計担当					E - 0 8	
		多湖 弘樹						
		一級建築士 第382361号						

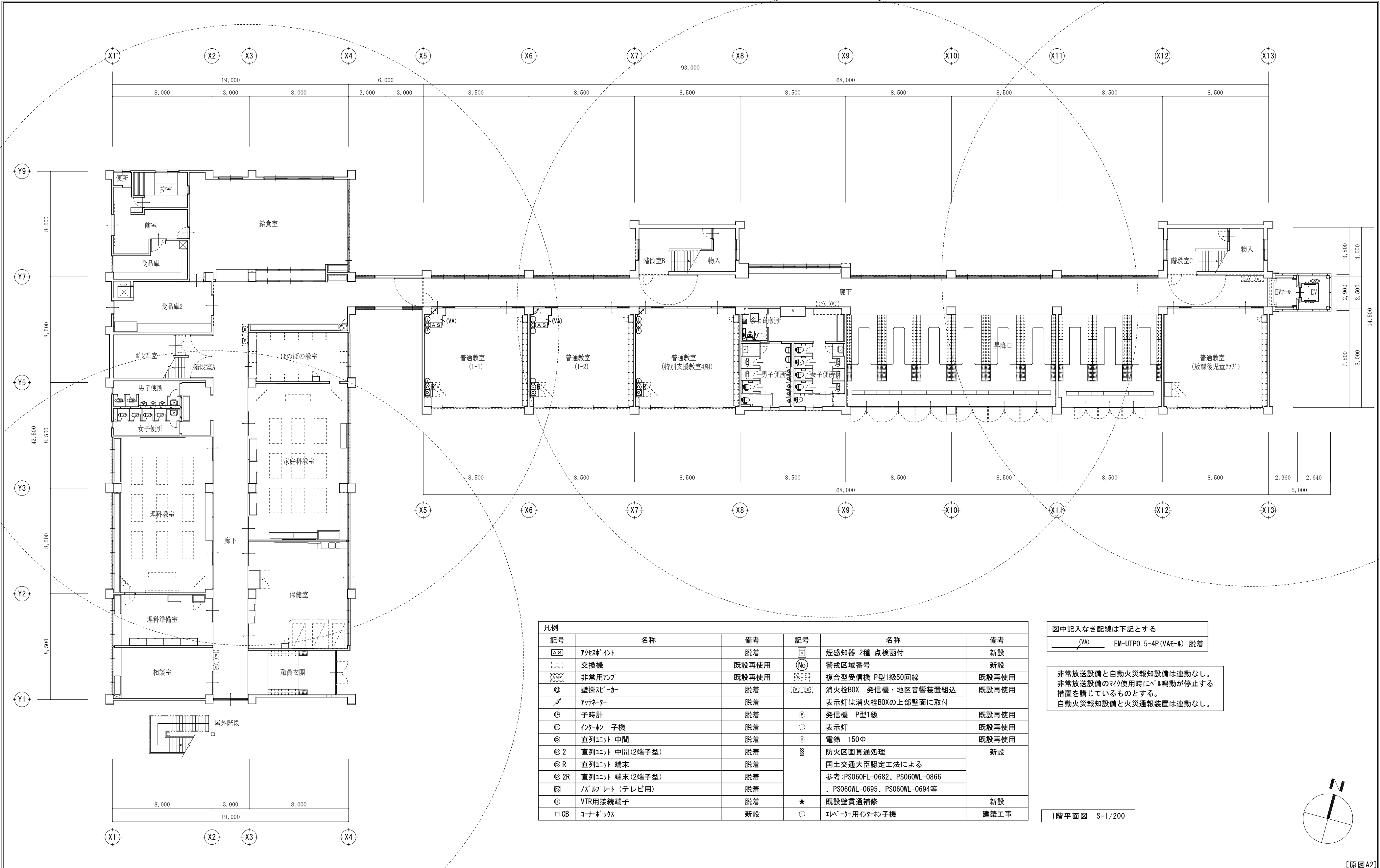


3階平面図 S=1/200



[原図A2]

■ : NOTE	<div>NISSHIN SEKKEI 目新設計株式会社</div> <div>三重県知事登録第1-518号</div>	<div>Job Title</div> 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事					<div>DATE</div> 2025 - Jan	
		<div>Drawing Title</div> 電灯・動力設備 3階平面図					<div>SCALE</div> A2:1/200 A3:1/280	
		<div>設計担当</div>					E - 0 9	
		<div>多湖 弘樹</div> <div>一級建築士 第382361号</div>						

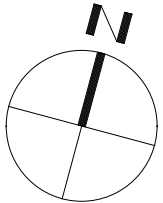


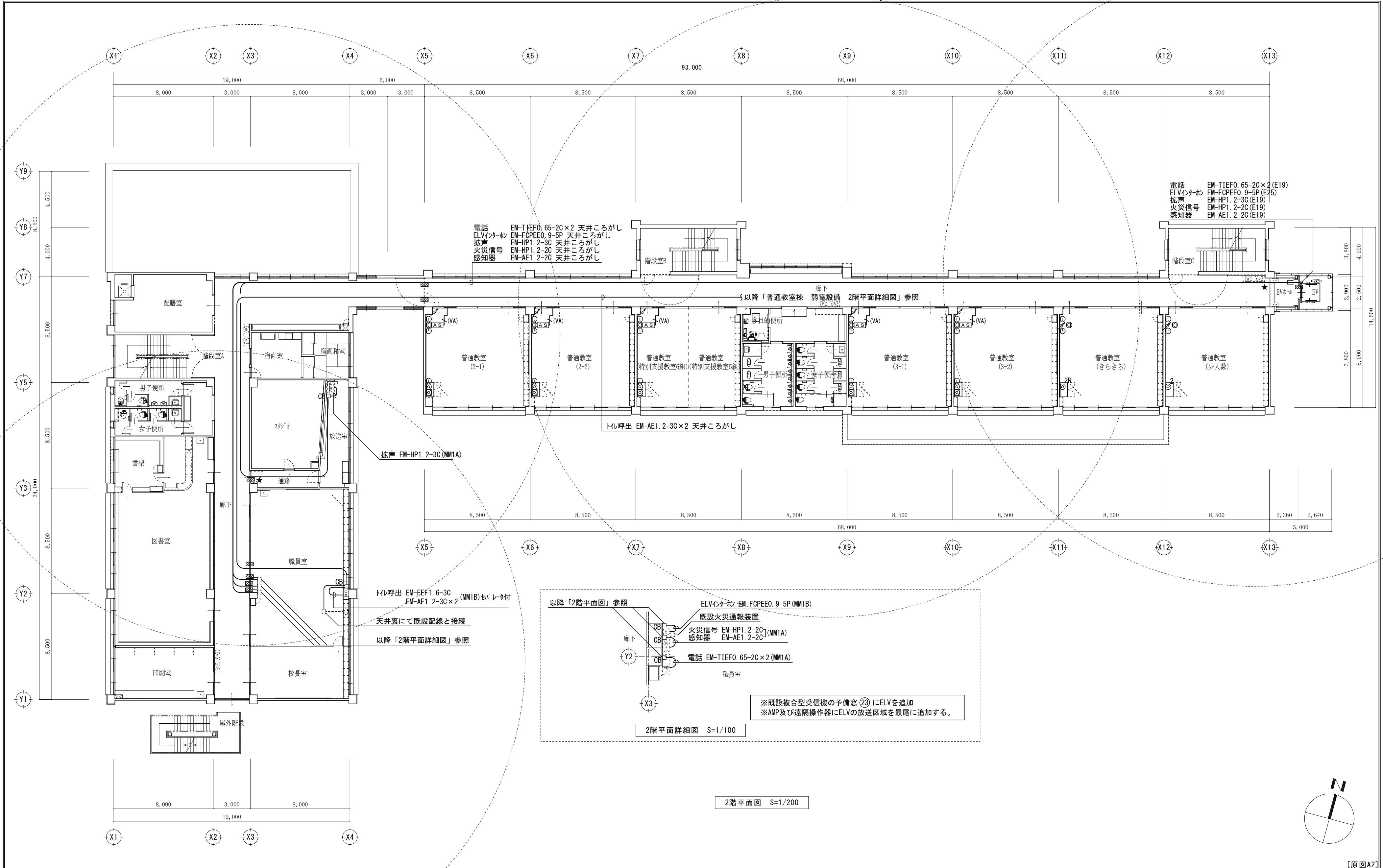
凡例					
記号	名称	備考	記号	名称	備考
△S	アセシント	脱着	□	煙感知器 2種 点検函付	新設
△	交換機	既設再使用	⊖	警戒区域番号	新設
△MP	非常用アンプ	既設再使用	⊗	複合型受信機 P型1級50回線	既設再使用
⊙	壁掛スリッカー	脱着	⊗	消火栓BOX 発信機・地区音響装置組込	既設再使用
ノ	アタネカー	脱着	⊗	表示灯は消火栓BOXの上部壁面に取付	既設再使用
⊙	子時計	脱着	⊗	発信機 P型1級	既設再使用
⊙	インターホン 子機	脱着	⊗	表示灯	既設再使用
⊙	直列ユニット 中間	脱着	⊗	電鈴 150Φ	既設再使用
⊙ 2	直列ユニット 中間(2端子型)	脱着	⊗	防火区画貫通処理	新設
⊙ R	直列ユニット 端末	脱着	⊗	国土交通大臣認定工法による	
⊙ 2R	直列ユニット 端末(2端子型)	脱着	⊗	参考:PS060FL-0682、PS060WL-0866	
⊗	/ス/プレート(テレビ用)	脱着	⊗	、PS060WL-0695、PS060WL-0694等	
⊙	VTR用接続端子	脱着	★	既設壁貫通補修	新設
□CB	コーナボックス	新設	⊗	エレベーター用インターホ子機	建築工事

图中記入なき配線は下記とする  
——(VA)—— EM-UTPO. 5-4P (VA≠-R) 脱着

非常放送設備と自動火災報知設備は連動なし。  
非常放送設備のマイク使用時にベル鳴動が停止する措置を講じているものとする。  
自動火災報知設備と火災通報装置は連動なし。

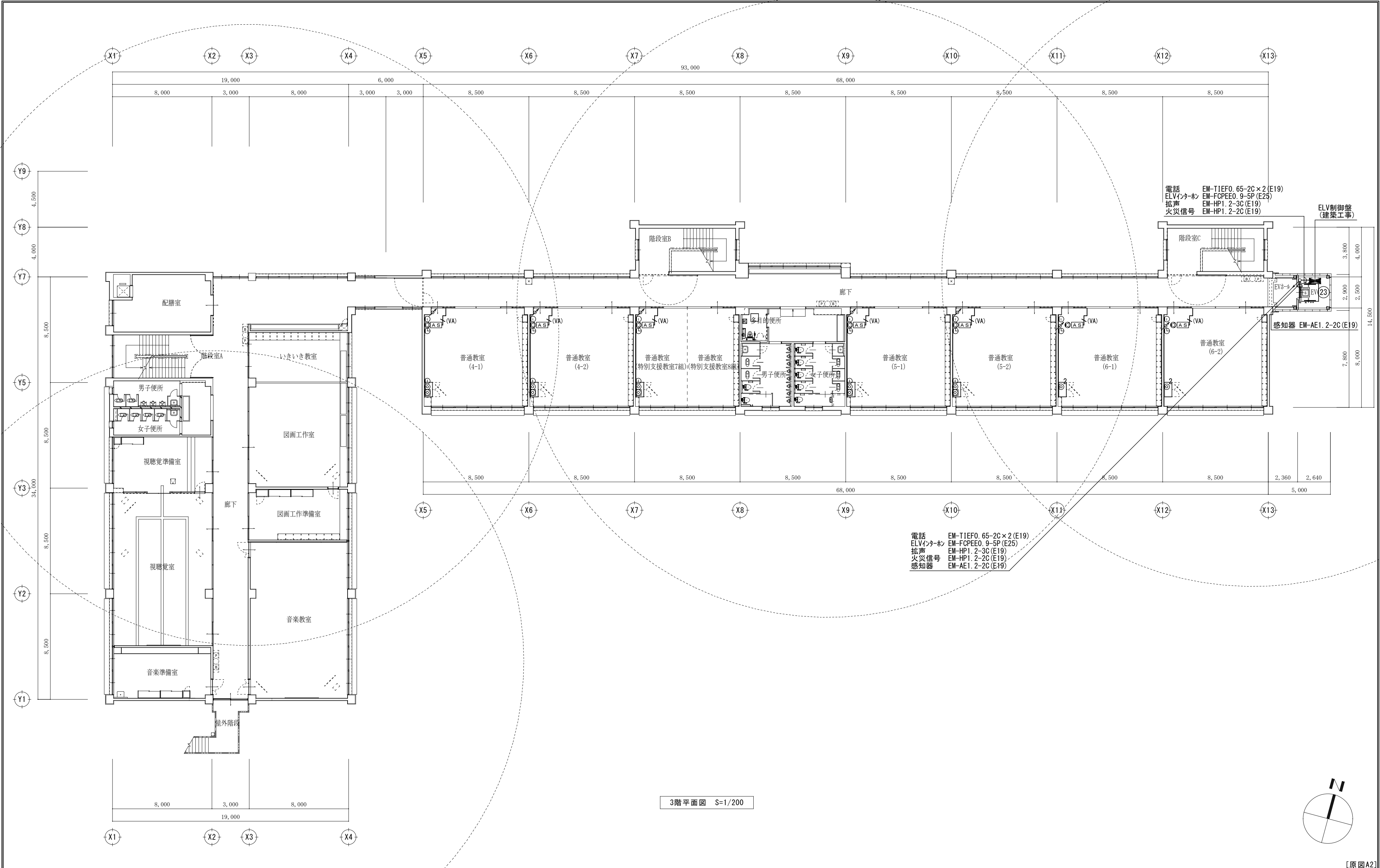
1階平面図 S=1/200



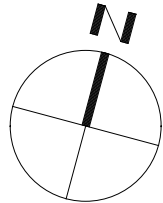


■ : NOTE		NISSHIN SEKKEI 日新設計株式会社 三重県知事登録第1-518号	Job Title 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事					DATE 2025 - Jan	
			Drawing Title 弱電設備 2階平面図					SCALE A2:1/200 A3:1/280	
			設計担当					E - 1 1	
			多湖 弘樹 一級建築士 第382361号						



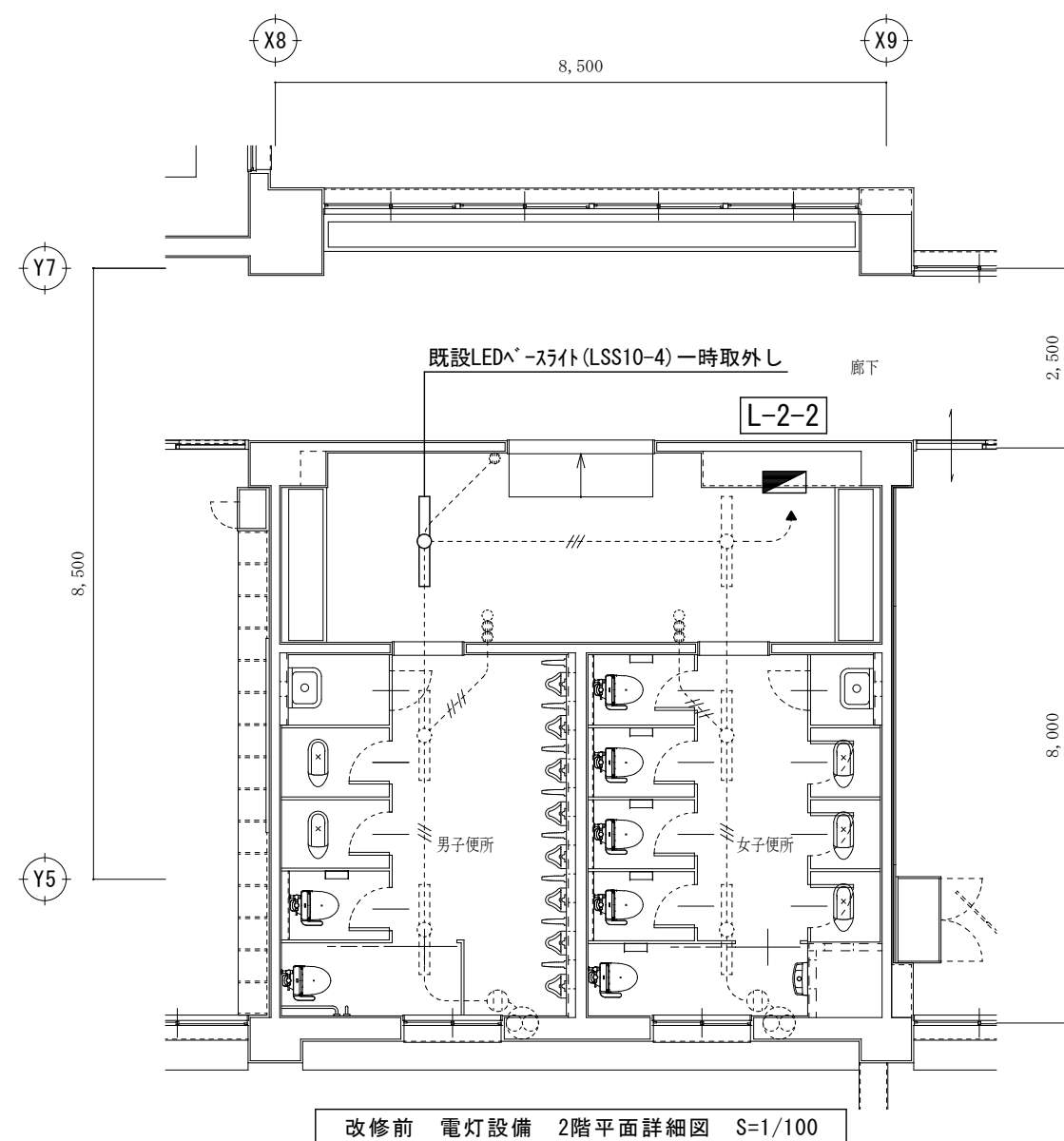








3階平面図 S=1/200



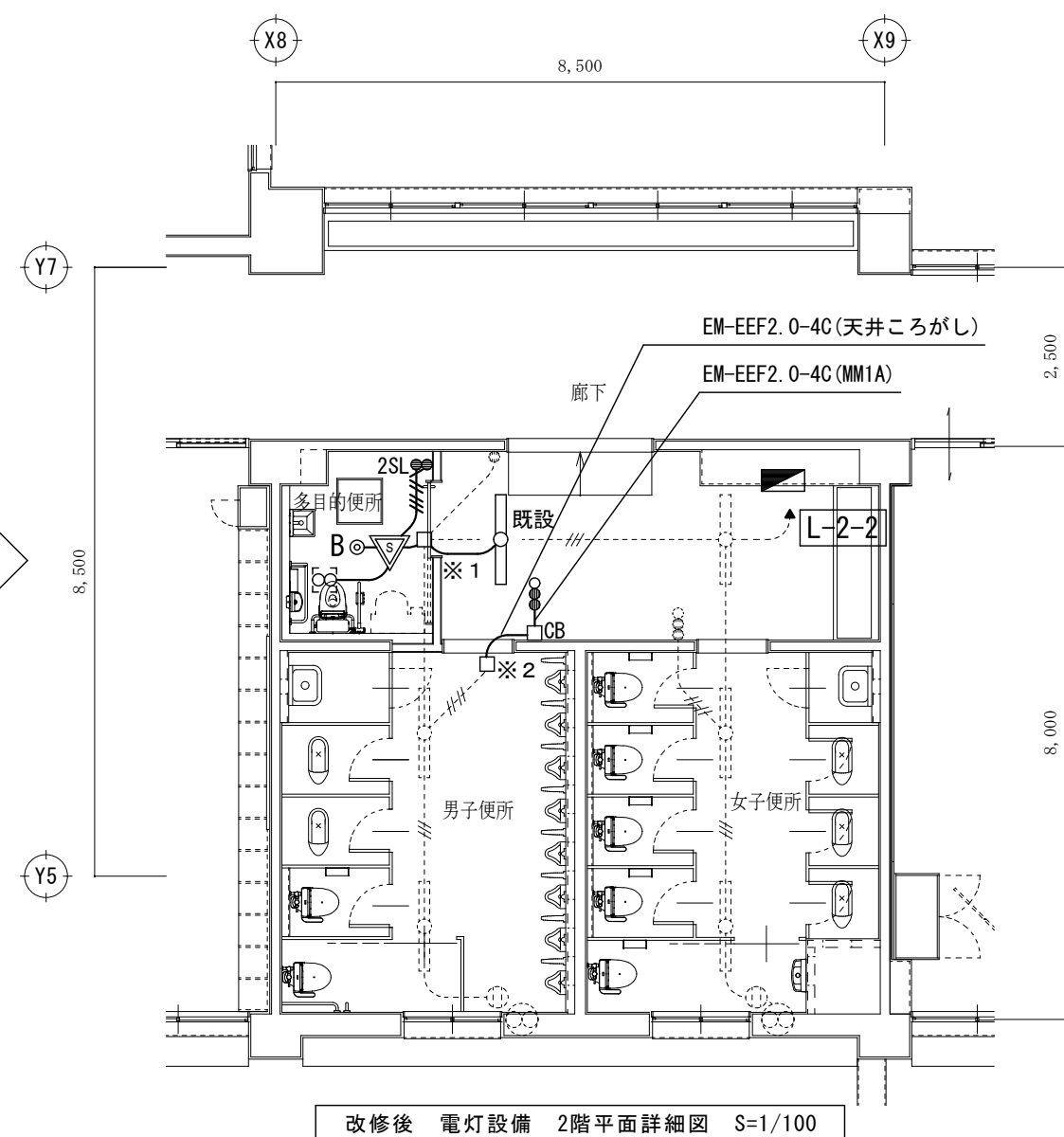
[原図A2]

■ : NOTE	<div>NISSHIN SEKKEI 日新設計株式会社</div> <div>三重県知事登録第1-518号</div>	Job Title 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事				DATE 2025 - Jan	
		Drawing Title 弱電設備 3階平面図				SCALE A2:1/200 A3:1/280	
		設計担当				E - 1 2	
		多湖 弘樹					
		一級建築士 第382361号					








凡例		
記号	名称	備考
	LED <sup>+</sup> -スライト	既取し
	LED <sup>+</sup> -スライト	既設
	埋込スイッチ 1P15A×1	既設
	埋込確認表示灯 PL×1	既設
	天井埋込コンセント 2P15A×1	既設
	壁付換気扇	既設

図中記入なき配線は下記とする		
-----	2.0×2(19)	既設再使用
-----##-----	2.0×3(19)	既設再使用
-----####-----	2.0×4(25)	既設再使用

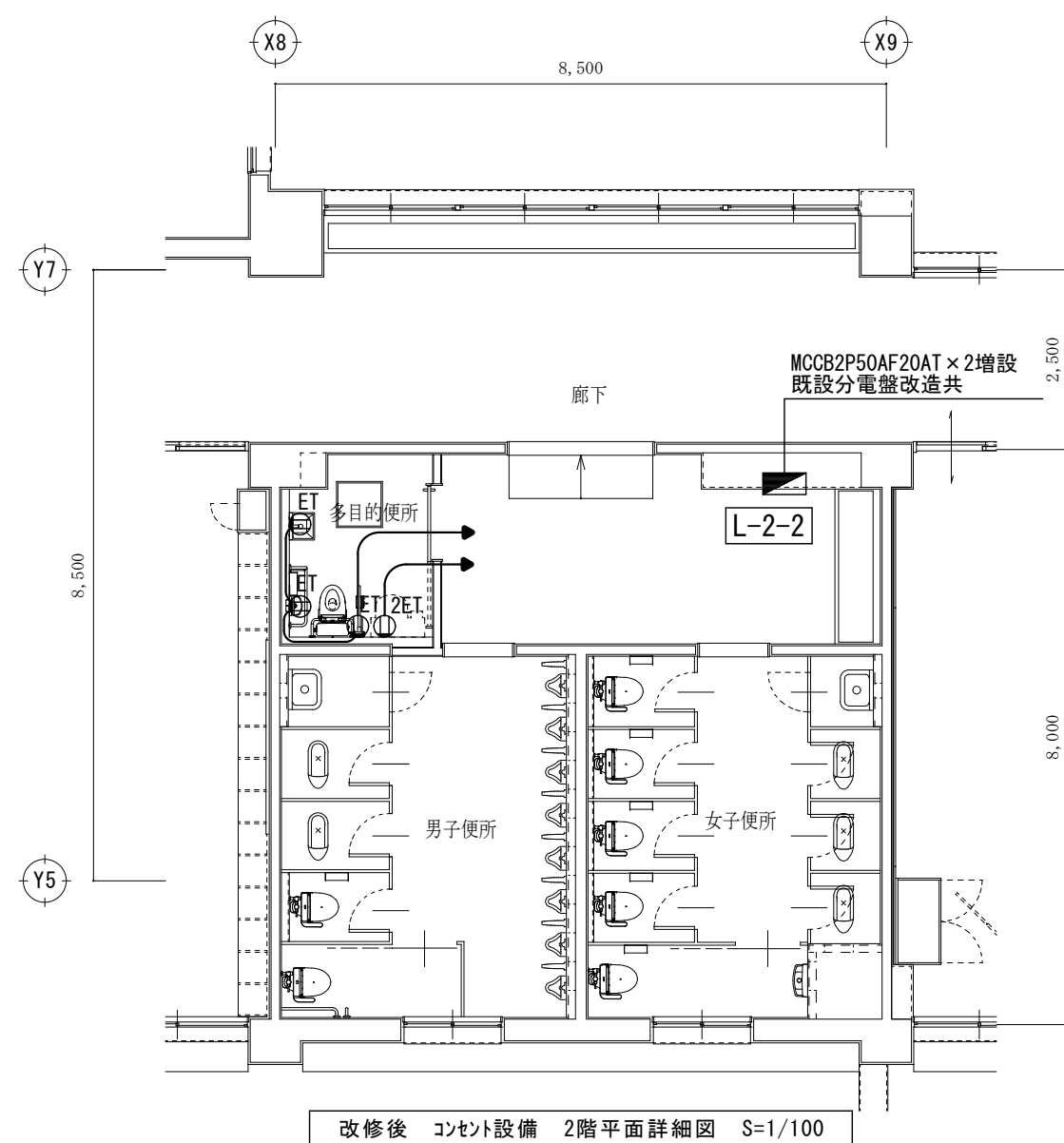


凡例	記号	名称	備考
	◎	LEDダウライト	新設
	Ⓜ 2SL	操作ユニット 2回路用	新設
	▽	熱線センサー 親器	新設
	□ CB	コーキングス	新設
	Ⓢ	確認表示灯 PL×1	撤去・新設
		スイッチ 1P15A×2	
	Ⓢ	天井換気扇 (機械設備工事)	機械設備
	⦿	LEDペンライト	既設
	⊙	埋込スイッチ 1P15A×1	既設
	⦿	埋込確認表示灯 PL×1	既設
	⦿	天井埋込コンセント 2P15A×1	既設
	⦿	壁付換気扇	既設

<p>國中記入なき配線は下記とする</p>		
	EM-EEF1.6-3C 内1C接地	保護管 (PF22)
	EM-EEF1.6-3C×2 内1C接地	保護管 (PF22)
	2.0×2(19)	既設再使用
	2.0×3(19)	既設再使用
	2.0×4(25)	既設再使用
<p>壁内は、PF管にて保護とする。</p>		

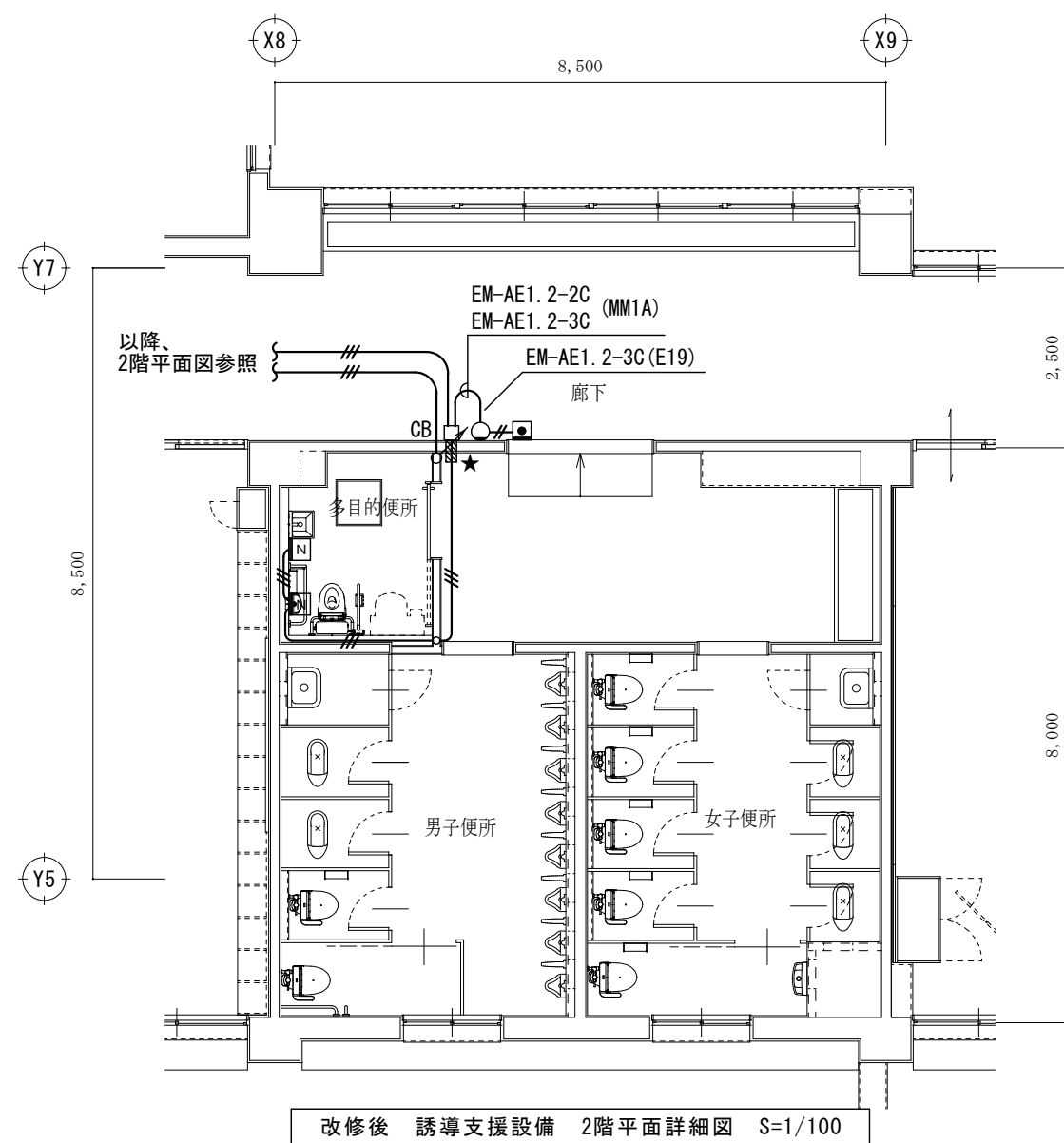
※1は、アウトレットボックスを天井内にて新設し、既設配線と接続を示す。  
記号傍記「既設」は、既設品の移設を示す。

※2は、アウトレットボックスを天井内にて新設し、既設配線と接続を示す。





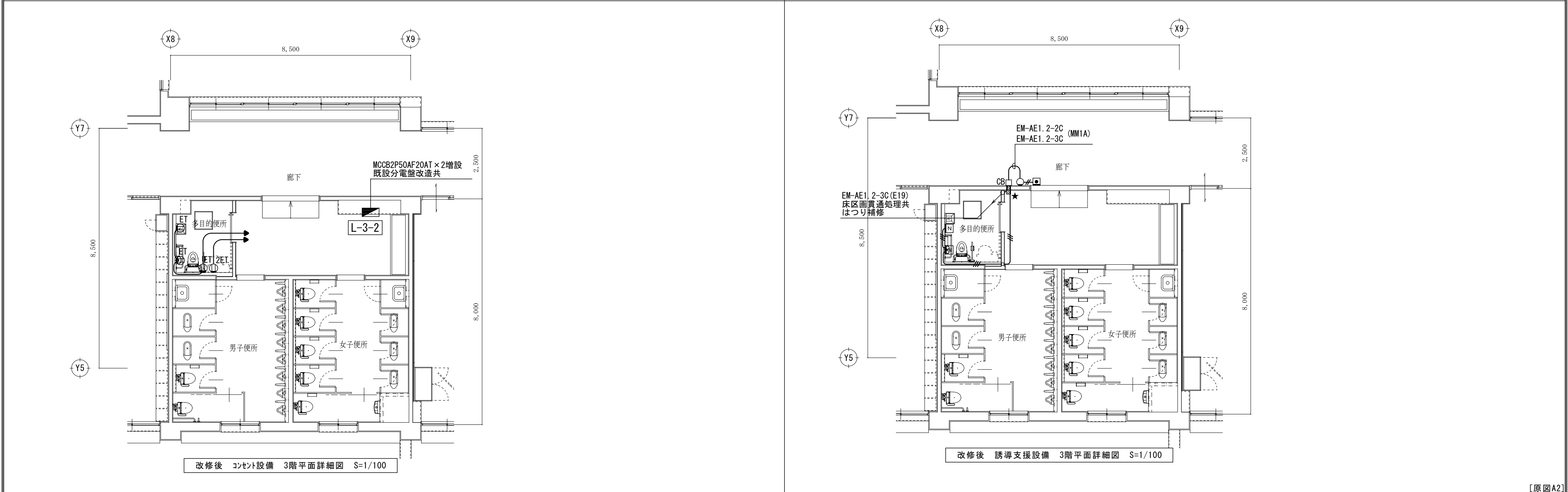
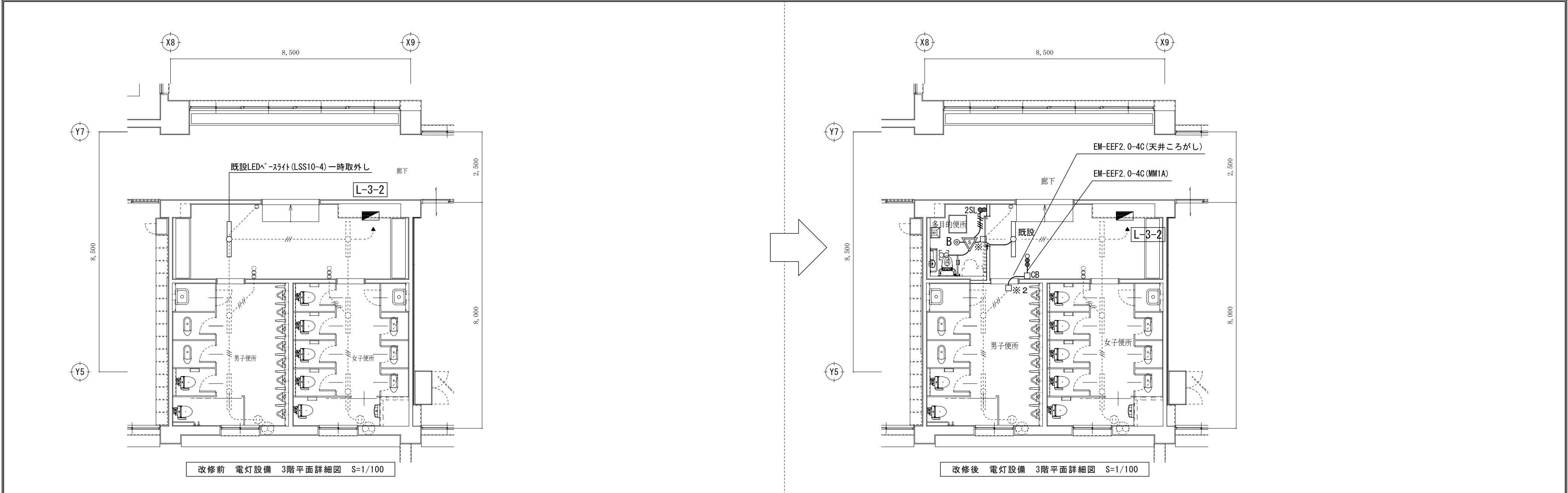
凡例		
記号	名称	備考
① ET	埋込コンセント 2P15A×1 ET付	新設
① 2ET	埋込コンセント 2P15A×2 ET付	新設

<p>図中記入なき配線は下記とする</p>	
	EM-EEF2.0-3C 内1C接地 保護管 (PF22)
<p>壁内および面台内は、PF管にて保護とする。</p>	



凡例		
記号	名称	備考
Ⅲ	防火区画貫通処理	新設
	国土交通大臣認定工法による	
	参考：PS060FL-0682、PS060WL-0866	
	PS060WL-0695、PS060WL-0694等	
★	既設壁貫通補修	新設

<p>図中記入なき配線は下記とする</p>		
	EM-AE1. 2-2C	保護管 (PF16)
	EM-AE1. 2-3C	保護管 (PF16)
<p>壁内および面台内は、PF管にて保護とする。</p>		



■ : NOTE	<div>NISSHIN SEKKEI 日新設計株式会社</div> <div>三重県知事登録第1-518号</div>	Job Title 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事					DATE 2025 - Jan	
		Drawing Title 普通教室棟 3階平面詳細図					SCALE A2:1/100 A3:1/140	
		設計担当					E - 1 4	
		多湖 弘樹 一級建築士 第382361号						

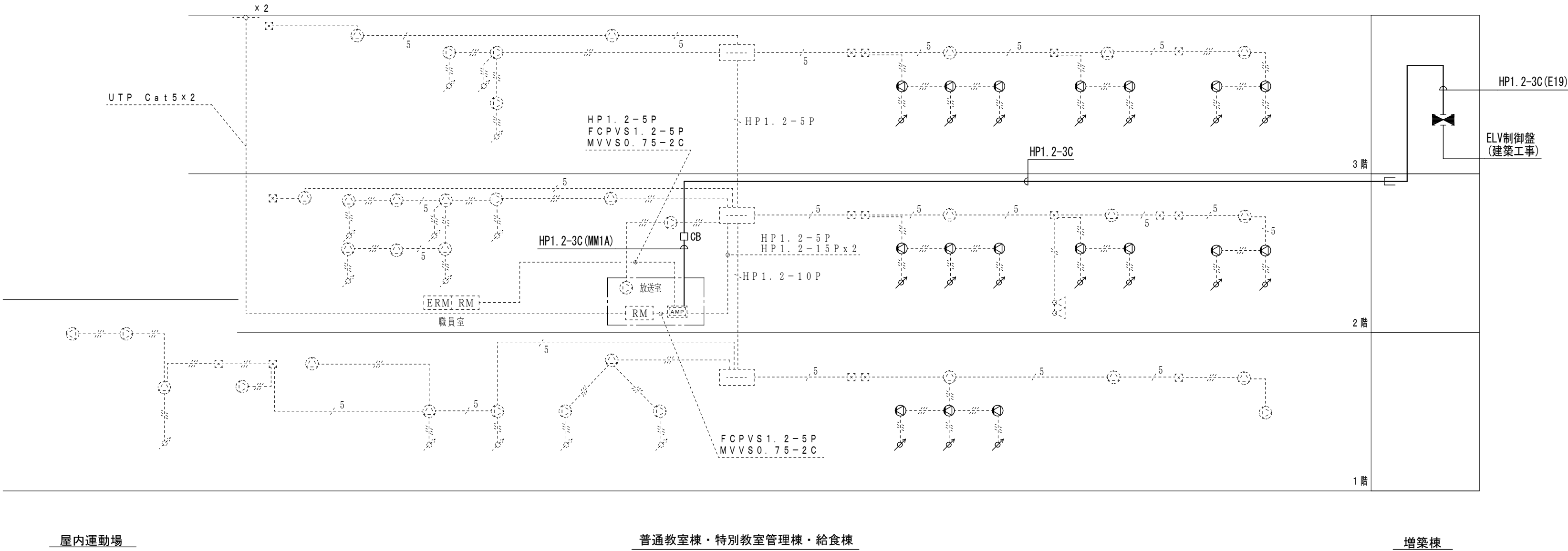
[原図A2]

防災アンプ270W

	スピーカー	ホーン型
	1W	30W
1階	14	
2階	21	2
3階	15	
体育館	3	
エレベーター	3	
計（W）	56	60
合計（W）	116	
アンプ270W＞スピーカー116W		

凡例		
記号	名称	備考
	非常用アンプ	既設再使用
	壁掛スピーカー	脱着
	アッテネーター	脱着
	コーナーボックス	新設
	天井埋込スピーカー	既設再使用
	壁掛スピーカー	既設再使用
	アッテネーター	既設再使用
	ワイヤレススピーカー	既設再使用
	リモコン	既設再使用
	非常リモコン	既設再使用
実線表示の機器及び配管配線は、新設を示す。		
点線表示の機器及び配管配線は、既設再使用を示す。		

図中記入なき配線は下記による		
-----	H1V1. 2x2	既設再使用
-----	H1V1. 2x3	既設再使用
-----	H1V1. 2x5	既設再使用



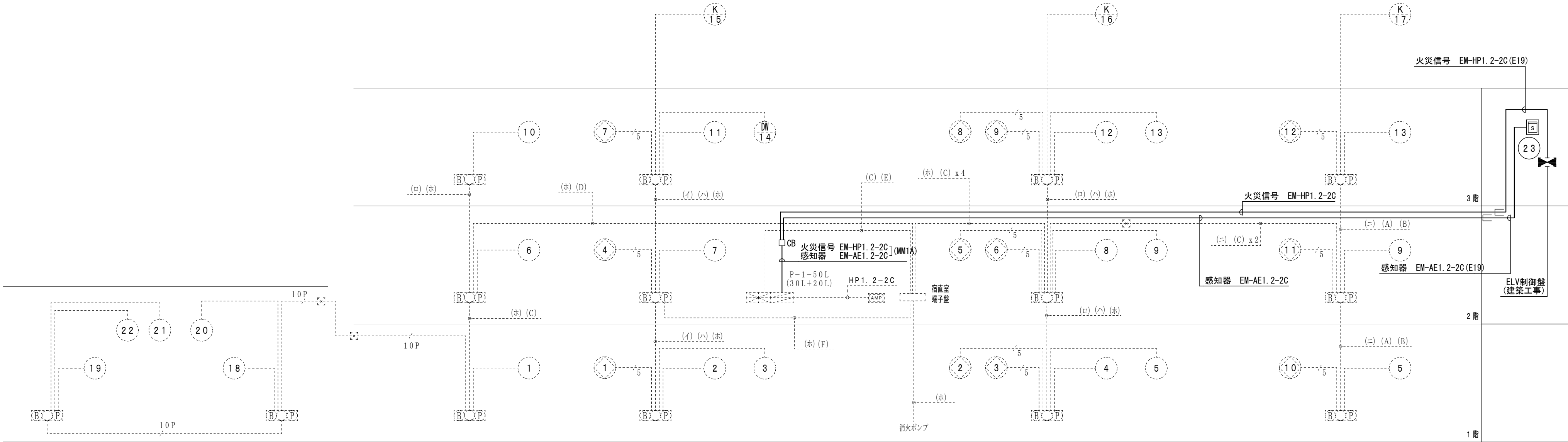
拡声設備系統図

[原図A2]

■ : NOTE	<div>NISSHIN SEKKEI</div> <div>目新設計株式会社</div> <div>三重県知事登録第1-518号</div>	Job Title				津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		DATE	
		Drawing Title				拡声設備 系統図		2025 - Jan	
								SCALE	
								A2:N/S A3:N/S	
								E - 1 5	

凡例		
記号	名称	備考
	非常用アンプ	既設再使用
	コーナーボックス	新設
	煙感知器 2種 点検函付	新設
	警戒区域番号	新設
	複合型受信機 P型1級50回線	既設再使用
	総合盤	既設再使用
	警戒区域番号	既設再使用
実線表示の機器及び配管配線は、新設を示す。		
点線表示の機器及び配管配線は、既設再使用を示す。		

図中記入なき配機は下記による		
-----	H1V1. 2x2	既設再使用
-----	H1V1. 2x5	既設再使用
-----	HP1. 2-10P	既設再使用
(イ)	H1V1. 2x5	既設再使用
(ロ)	H1V1. 2x8	既設再使用
(ハ)	H1V1. 2x10	既設再使用
(ニ)	H1V2. 0x4	既設再使用
(ホ)	H1V2. 0x6	既設再使用
(A)	HP1. 2-3P	既設再使用
(B)	HP1. 2-5P	既設再使用
(C)	HP1. 2-10P	既設再使用
(D)	HP1. 2-15P	既設再使用
(E)	HP1. 2-20P	既設再使用
(F)	HP1. 2-25P	既設再使用

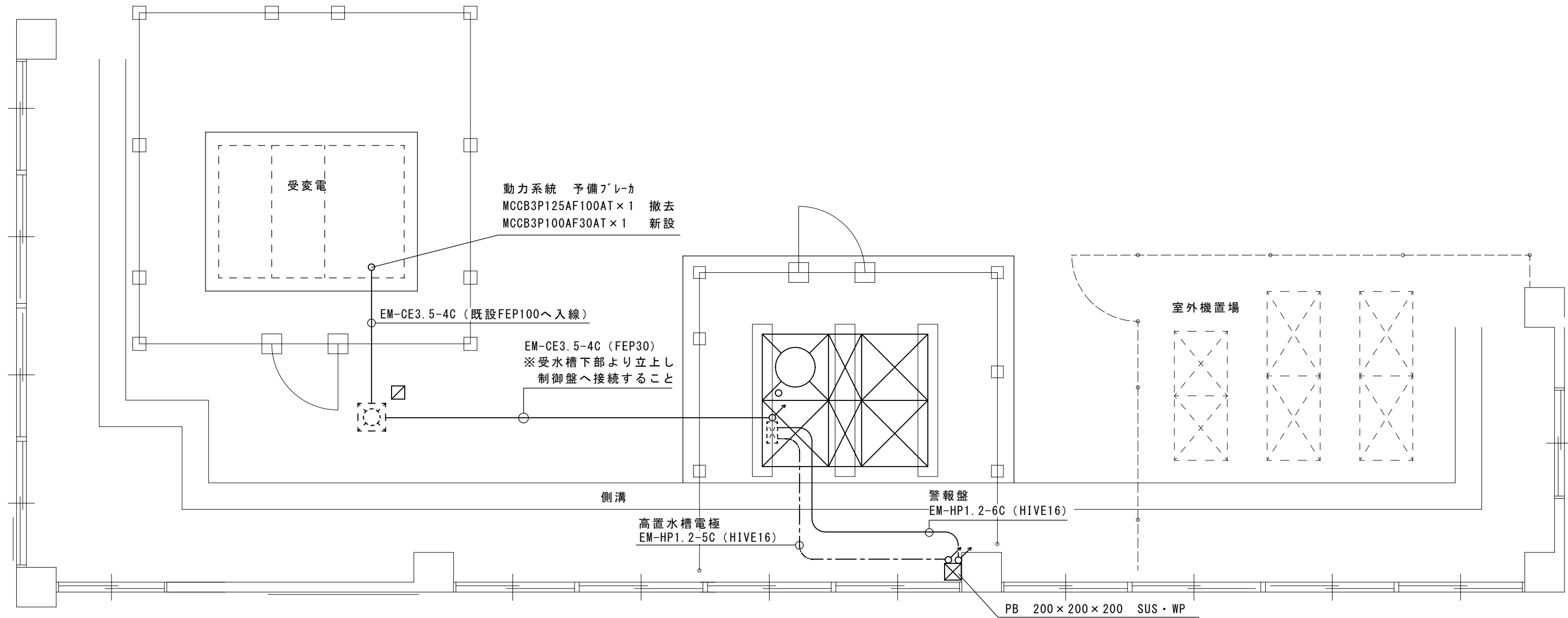
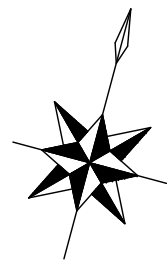


屋内運動場

普通教室棟・特別教室管理棟・給食棟

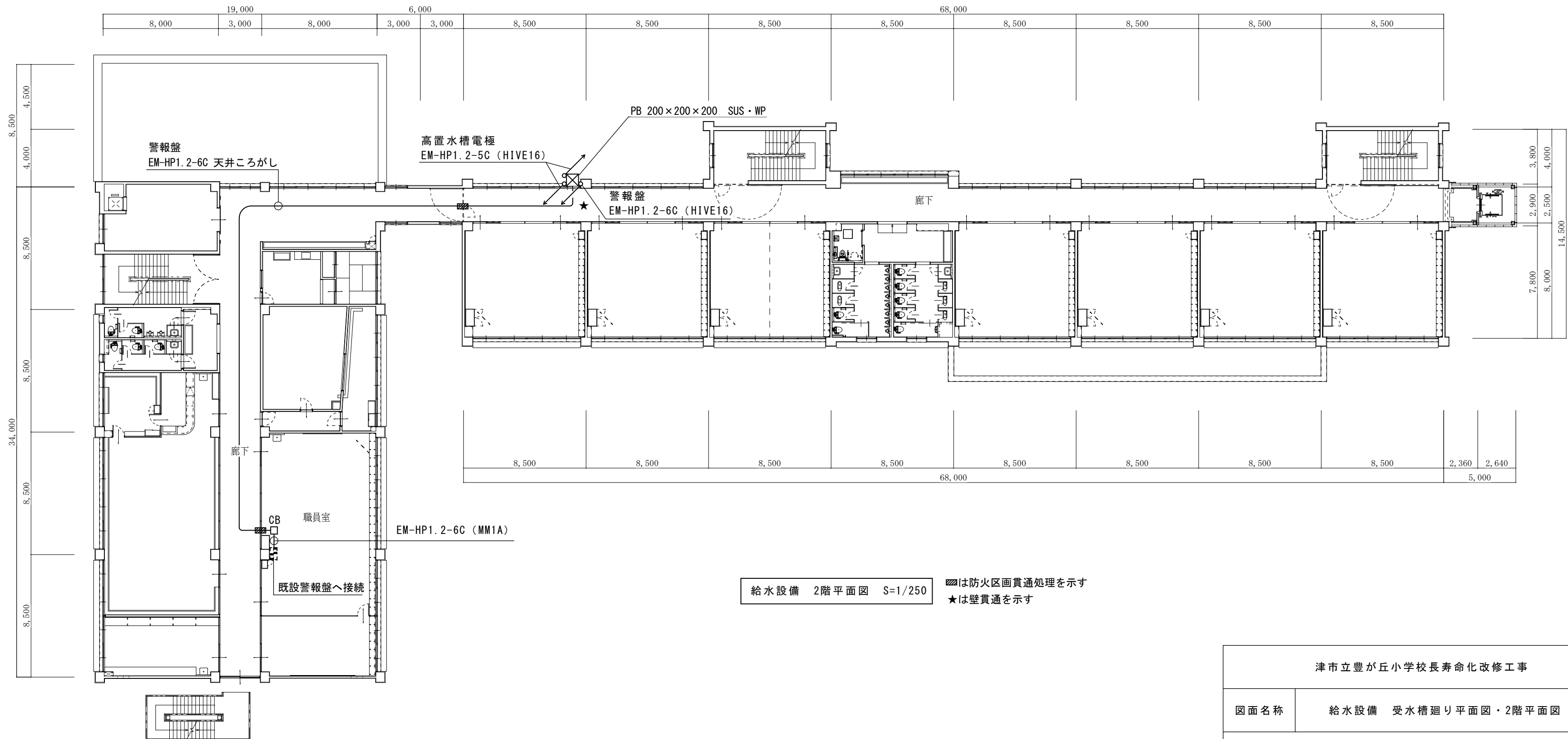
増築棟

火災報知設備系統図



給水設備 受水槽置場平面図 (改修後) S=1/60

- ※ 露出配管は配管支持用ブロックにて支持
- ※ 盤・機器への接続は、金属製可とう電線管（ビニル被覆、防水）を使用すること

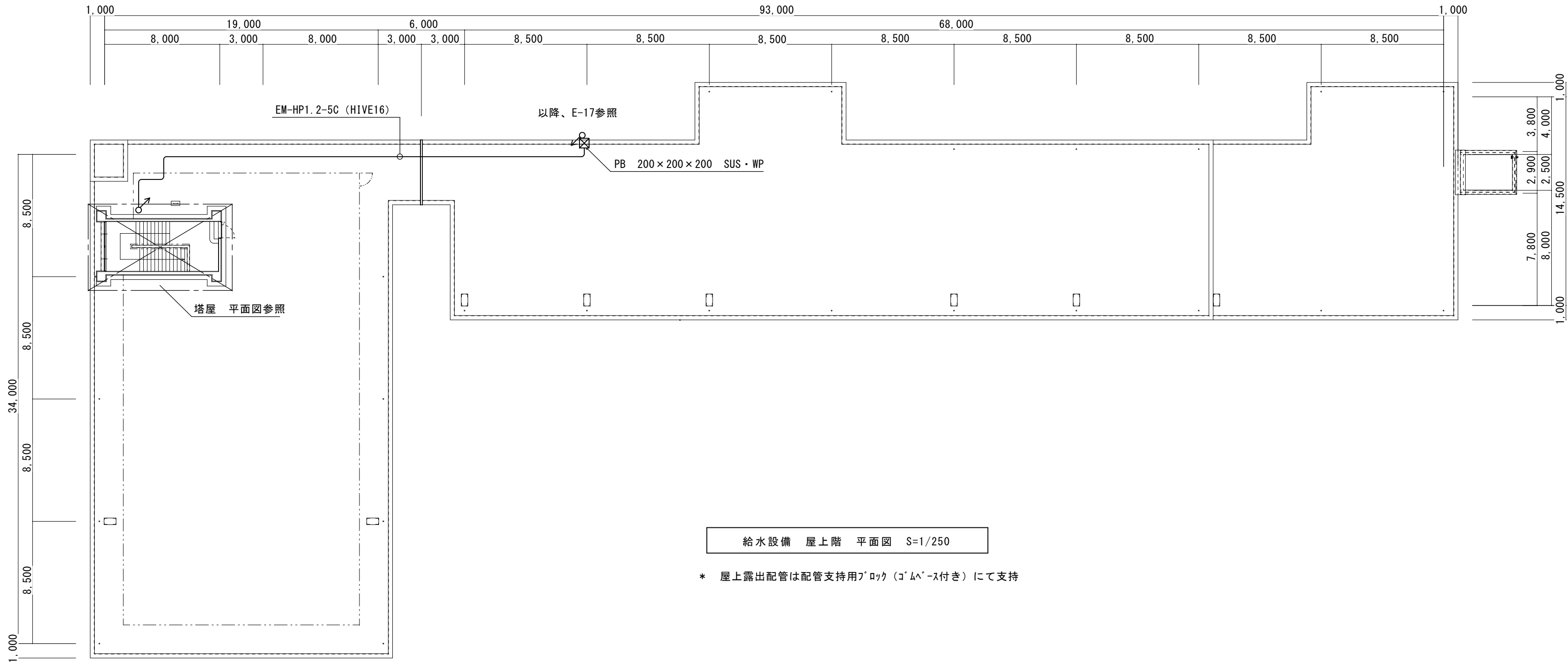
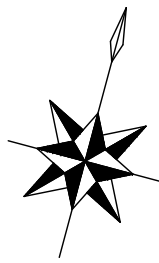


給水設備 2階平面図 S=1/250

- ▨は防火区画貫通処理を示す
- ★は壁貫通を示す

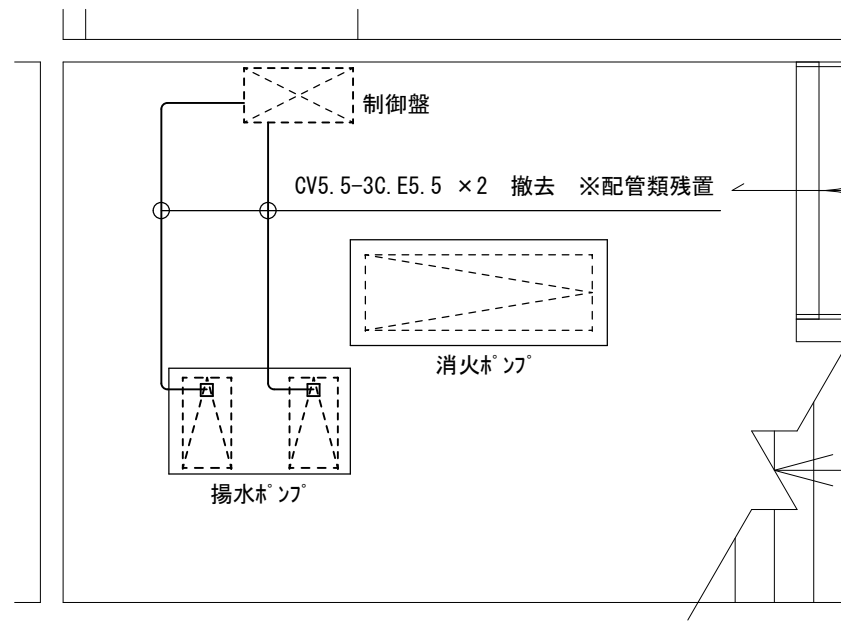
津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		縮尺 1/60 1/250
図面名称	給水設備 受水槽廻り平面図・2階平面図	原図：A 2
津市建設部営繕課		No. E-17



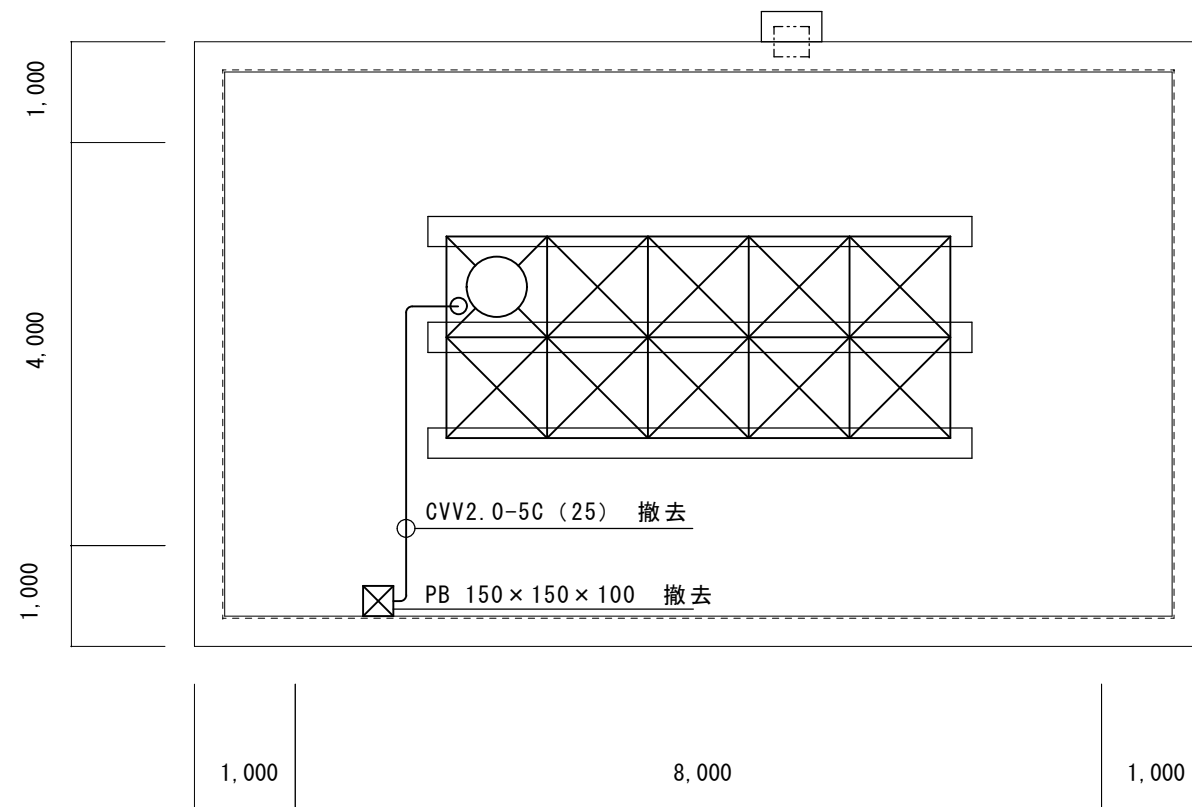


給水設備 屋上階 平面図 S=1/250

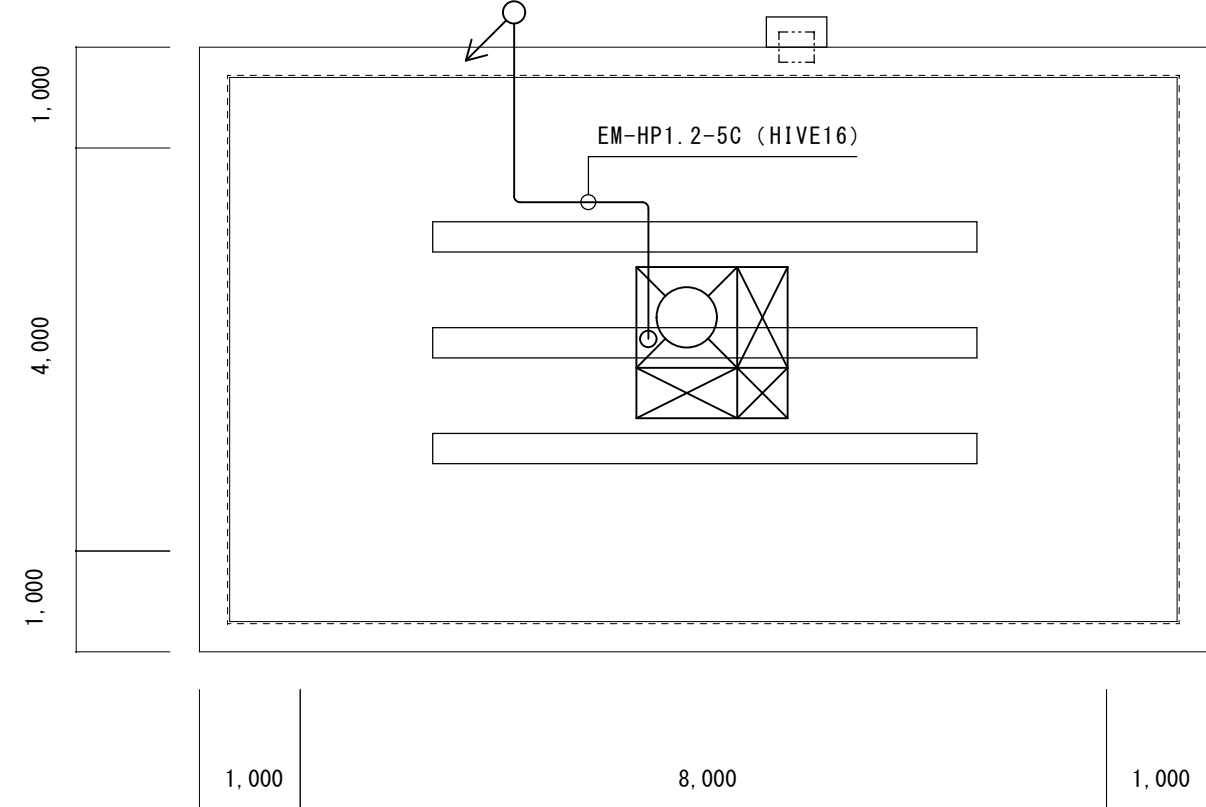
\* 屋上露出配管は配管支持用ブロック（コーム付き）にて支持



給水設備 1階ポンプ庫平面詳細図 S=1/50



塔屋 平面図 (改修前) S=1/75



塔屋 平面図 (改修後) S=1/75

\* 屋上露出配管は配管支持用ブロック（コーム付き）にて支持

津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		縮尺 1/250 1/75 1/50
図面名称	給水設備 屋上階・塔屋平面図・ポンプ庫平面詳細図	原図：A 2
津市建設部営繕課		No. E-18

[illegible]

※ 横走り管の吊り間隔

鋼管	100A以下 125A以上	— —	2m 以下 3m以下
ビニル管 耐火二層管 鋼管	80A以下 100A以上	— —	1m 以下 2m以下
鉛管			1. 5m以下
鉄鉄管	標準図による		

※ 横走り管形鋼振れ止め支持間隔

支持間隔	6m以下	8m以下	12m以下
鋼管	—	50A～100A	125A～
鉄鉄管			
ビニル管 耐火二層管 鋼管	25A～40A	50A～100A	125A～

※ 冷媒用鋼管の横走り管の支持間隔

基準外径 9. 52mm 以下 吊り間隔 1. 5m  
基準外径 12. 70mm 以上 吊り間隔 2. 0m  
以下液管・ガス管共吊りの場合は液管の外径を基準とする。  
形鋼振れ止め支持間隔は、鋼管に準ずる。

(2) ダクト工事

- 矩形ダクト
- 垂鉛鉄板 JIS G 3302 (SGCC、SGCCA) 鍍金付着Z18以上
  - ステンレス鋼板 JIS G4305
  - アングルフランジ工法
  - 共板フランジ工法
  - スライドオンフランジ工法
- 工法
- 山形鋼 JIS G 310
  - スパイラルダクト
  - 山形鋼 JIS G 4317
  - スパイラルダクト
  - 下水道用リサイクル三層硬質強化ビニル管 (多湿箇所) AS-62 (RS-VU)
- 形鋼補強
- 丸ダクト

(3) 保温塗装工事

- 1) 材料
- グラスウール保温材 (屋内一般等)
- |                       |                           |    |        |
|-----------------------|---------------------------|----|--------|
| 保温筒 JIS A 9504 2号 40K | 保温板、保温帯 JIS A 9504 2号 40K |    |        |
| ■ 給水管                 | 排水                        | 給湯 | 温水     |
| ■ 蒸気管                 | 冷水・冷温水                    | 冷媒 | 温水     |
| ■ 給湯                  | 温水                        | 蒸気 | 冷水・冷温水 |
| ■ 冷媒                  |                           |    |        |
- ロックウール保温材 (防火区画貫通部等)
- |                              |        |    |    |
|------------------------------|--------|----|----|
| 保温板、保温帯、ブランケット 1号 JIS A 9504 |        |    |    |
| ■ 給水管                        | 排水     | 給湯 | 温水 |
| ■ 蒸気管                        | 冷水・冷温水 | 冷媒 | 消火 |
- ポリスチレンフォーム保温材 (屋内一般等)
- |                   |                   |        |            |
|-------------------|-------------------|--------|------------|
| 保温筒 JIS A 9511 3号 | 保温板 JIS A 9511 3号 |        |            |
| ■ 給水管             | 排水                | 冷水・冷温水 | 冷水管 (2～4℃) |
| ■ プライン            |                   |        |            |
| ■ 給水              | 排水                | 給湯     | 冷水・冷温水     |
| ■ プライン            | 消火                |        |            |
- 合成樹脂調合ペイント塗り塗料 JIS K 5516 (合成樹脂調合ペイント) 1種 (露出)
- |               |           |    |     |
|---------------|-----------|----|-----|
| ■ 給水管         | 排水        | 通気 | ドレン |
| ■ ガス          | 消火        | 油  | 冷却  |
| ■ ダクト (垂鉛鉄板製) | ダクト (鋼板製) |    |     |
- さび止めペイント塗り塗料 JIS K 5621 (一般用錆止めペイント) 2種 (露出)
- |          |           |  |  |
|----------|-----------|--|--|
| □ 蒸気 (往) | ダクト (鋼板製) |  |  |
|----------|-----------|--|--|

2) 保温厚

- ・ グラスウール、ロックウール
- |              |      |          |        |         |       |
|--------------|------|----------|--------|---------|-------|
| 保温厚 (mm)     | 20   | 25       | 30     | 40      | 50    |
| 給水・排水・ドレン・給湯 | ～80A | 100～150A |        | 200A～   | —     |
| 膨張・温水・消火     | ～25A | —        | 32～50A | 65A～    | —     |
| 蒸気           | —    | —        | ～25A   | 32～200A | 250A～ |
| 冷水・冷温水・冷媒    | —    | —        | —      | —       | —     |

・ ポリスチレンフォーム

保温厚 (mm)	20	25	30	40	50	65
給水・消火・排水	～80A	100A～	—	—	—	—
冷水・冷温水	—	—	～25A	32～200A	250A～	—
冷水管 (冷水温度2～4℃)	—	—	～20A	25A～100A	25A～	—
プライン	—	—	—	～25A	32～80A	100A～

・ 機器ダクト保温厚

保温厚	25mm	ダクト (屋内露出 [機械室、書庫、倉庫]、隠蔽部)、消音チャンパー・エルボ
50mm	膨張タンク、鋼板製タンク、排煙ダクト隠蔽部 (ロックウール)	ダクト (屋内露出 [一般居室、廊下])、サブライチャンパー、貯湯タンク類
75mm	冷水・冷温水・温水・環水タンク、熱交換器、冷水・冷温水・温水・蒸気ヘッダー	排気筒隠蔽部 (ロックウール)
		煙導 (ロックウール)

3) 種別

給排水衛生設備配管の保温仕様

	1	2	3	4
屋内露出	保温筒	鉄線	合成樹脂製カバー	
機械室・書庫・倉庫	保温筒	鉄線	原紙	アルミガラスクロス仕上
天井内・P S内	アルミガラスクロス化粧保温板	アルミガラスクロス	粘着テープ	
暗渠内 (ビット内)	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	着色アルミガラスクロス
屋外露出	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	SUS鋼板仕上

- ※ 1) 排水管については、上表暗渠内 (ビット内) の仕様を防水テープ巻きに読み替える。  
※ 2) サヤ管工法; 架構ポリエチレン・ポリブデン管使用の場合は、上表保温不要。  
※ 3) 消火管の外部露出のは保温を行う。

空調設備配管の保温仕様 (R、G保温材の仕様のみ)

	1	2	3	4	5
屋内露出	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	合成樹脂製カバー	
機械室・書庫・倉庫	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	原紙	アルミガラスクロス仕上
天井内・P S内	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	アルミガラスクロス仕上	
(温水・蒸気管以外)					
暗渠内 (ビット内)	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	着色アルミガラスクロス仕上	
屋外露出	保温筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	SUS鋼板仕上	

- ※ 1) 冷媒管に断熱材被覆鋼管を使用した場合の保温種別  
□ 保温化粧ケース仕上 ■ ポリスチレン成形の上、SUS鋼板仕上 (屋外露出部分)

機器保温仕様

	1	2	3	4	5
冷水・冷温水タンク					
鋼板製タンク	鉄	保温板	ポリエチレンフィルム	鉄線	SUS鋼板仕上
冷水・冷温水ヘッダー					カラー垂鉛鉄板 (屋内)
温水・膨張・温水					
貯湯タンク	鉄	保温板	鉄線		
温水・蒸気ヘッダー					SUS鋼板仕上
熱交換器					カラー垂鉛鉄板 (屋内)

- ※ 1) 密閉式膨張タンク及び、プレート形熱交換器は、保温施工不要

ダクト・チャンパー・煙道 保温仕様

	1	2	3	4	5
長方形ダクト	屋内露出	一般・廊下	鉄	保温板	カラー鉄板
	機械室		鉄	アルミガラスクロス化粧保温板	アルミガラスクロス粘着テープ
	屋内隠蔽、D S内		鉄	アルミガラスクロス化粧保温板	アルミガラスクロス粘着テープ
	屋外露出、多湿箇所		鉄	保温板	ポリエチレンフィルム
スパイラルダクト	屋内露出	一般・廊下	保温帯	鉄線	カラー鉄板
	機械室		アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス粘着テープ	
	屋内隠蔽、多湿箇所		アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス粘着テープ	
	屋外露出、多湿箇所		保温帯	鉄線	ポリエチレンフィルム
サブライチャンパー			鉄	保温板	ガラスクロス
消音チャンパー、エルボ			鉄	保温板	ガラスクロス
排煙ダクト長方形	屋内隠蔽	鉄	アルミガラスクロス化粧保温板	アルミガラスクロス粘着テープ	
排煙ダクト円形	屋内隠蔽	アルミガラスクロス化粧保温帯	アルミガラスクロス粘着テープ		
煙道		ブランケット	鉄線	カラー鉄板	

- ※ 1) 排煙ダクトは、ロックウール保温板、保温帯、1号を使用。  
※ 2) 煙道ブランケットは、JIS G 3554 (亀甲金網) による垂鉛鍍金を施した網目呼称16線径0. 55の金網又はRWA S02による防錆処理を施したプラス0号で外面補強したものを使用。  
※ 3) 鋼亀甲金網は、JIS H 3260 網目呼称10、線径0. 5を使用。

配管用炭素鋼鋼管の塗装仕様

機材	状態	塗料の種別	塗り回数			備考
			下塗り	中塗り	上塗り	
白管	露出	合成樹脂調合ペイント	1	1	1	下塗りはさび止めペイント
黒管	露出	合成樹脂調合ペイント	2	1	1	下塗りはさび止めペイント

- ※ 1) ねじ切りした部分の鉄面は、さび止めペイント2回塗りを行う。

4) 施工

ダクト保温施工範囲

1. SA
- |        |        |         |           |
|--------|--------|---------|-----------|
| □ 保温あり | □ 保温なし | □ 図面による | □ その他 ( ) |
|--------|--------|---------|-----------|
2. EA
- |        |        |         |           |
|--------|--------|---------|-----------|
| □ 保温あり | ■ 保温なし | □ 図面による | □ その他 ( ) |
|--------|--------|---------|-----------|
3. RA
- |        |        |         |           |
|--------|--------|---------|-----------|
| □ 保温あり | □ 保温なし | □ 図面による | □ その他 ( ) |
|--------|--------|---------|-----------|
4. OA
- |        |        |         |           |
|--------|--------|---------|-----------|
| □ 保温あり | □ 保温なし | □ 図面による | □ その他 ( ) |
|--------|--------|---------|-----------|
- チャンパー内貼施工
- |               |        |         |           |
|---------------|--------|---------|-----------|
| □ 内貼あり ( mm ) | □ 内貼なし | □ 図面による | □ その他 ( ) |
|---------------|--------|---------|-----------|

(4) スリーブ工事

- 1管スリーブの径は、原則として、管の外径 (保温されるものは、保温厚さを含む) より40mm程度大 (=2サイズUP) なるものとする。  
箱抜きスリーブは、本枠又は鋼板 (実管ダクト) とする。  
2地中部分のスリーブは、塩化ビニル管 (VU) とし、水密を要する部分のスリーブは、つば付き鋼管とする。  
3その他のスリーブは、特記なき限り、紙ボイドとする。紙ボイド使用の際は、配管前に必ず撤去のこと。

共通事項

- 1) 陸上ポンプ、送排風機 (エアハン含む) の電動機は、すべて全閉防まつ形とする。  
2) 配管途中、要所にはフランジ接続箇所を設置し、取り外しを容易にすること。  
3) 系統が分かるように、必要箇所 (機械室、P S内等) に文字書き・矢印記入・バルブ札取付を行うこと。手書きもしくはカッティングシートとする。  
4) 機器、配管・支持金物には、絶縁処理を行うこと。  
5) 配管に空気が滞留する恐れのある箇所には、エア抜き弁を設置し、最寄りのドレン管に接続すること。  
6) 屋外機器設置基礎のアンカーボルトは、構造体鉄筋より取り出す。もしくはあと施工アンカー工法の類とする。使用アンカーについては、機器仕様書・耐震クラス等を確認すること。また、重量機器にあと施工アンカー工法を採用する場合、ケミカルアンカーを使用し施工すること。  
7) 機器、配管の耐震措置及び機器、ダクトの防振・消音については、標準仕様書・標準図、施工監理指針及び建築設備耐震設計・施工指針に基づき十分考慮すること。  
8) 雨がかり部に取り付けるガラのチャンパーには、水抜きを設けること。  
9) 屋外埋設管 (給水、消火、ガス) には、埋設シートを敷設し、曲がり・分岐部には、地中埋設標を施工すること。  
10冷水及び冷温水管の支持材には、合成樹脂製支持受けを使用すること。  
11水栓は、節水機構付きのものを使用すること。  
12冷媒管等防火区画貫通部は、建築基準法・消防法に適合する工法にて防火処理を行うこと。  
13地中埋設配管については、下記の沈下対策を講ずること。  
・ 管は継ぎ手の組み合わせにより可とう性をもたせる。  
・ 接続箇所は必要に応じコンクリートで保護すること。  
・ 土間配管は、土間防に吊り下げるなど埋設配管を保持すること。  
・ 呼び径100A以下はM10、125A～250AはM12、250A以上はM16のステンレス棒鋼を使用すること。  
14屋外露出及び多湿箇所 (トレンチビット等) の配管架台は、SUS又はSS溶融亜鉛メッキ仕上とすること。  
15屋外設置のマンホール類には用途名を入れること。  
16合成樹脂製カバーの仕上げについては、保温見切り箇所には菊座の取り付けを行うこと。  
17送風機用ベルトカバーには点検口を設けること。

施工条件

- ・ 給水設備改修に伴う断水作業について、学校運営に支障を来さないよう、事前に学校および市監督員と協議の上、施工を行うこと。

[原図A2]

■ : NOTE

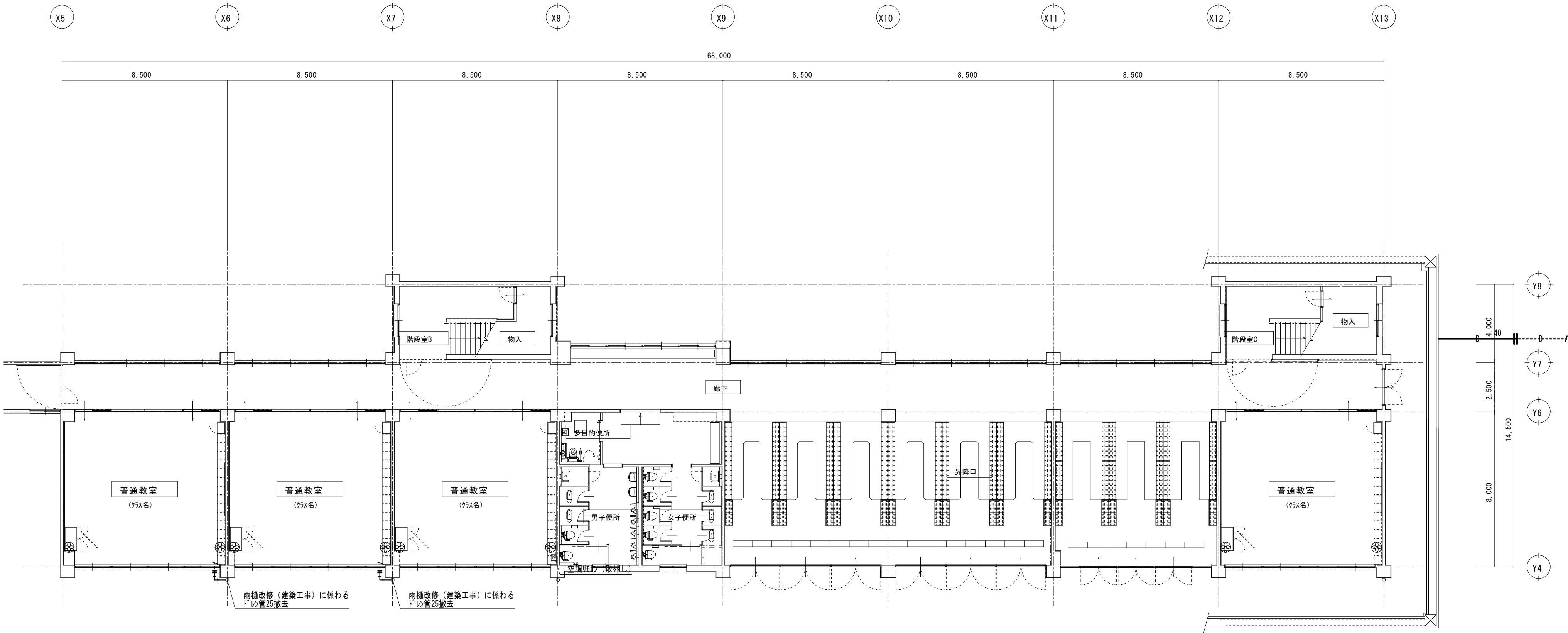
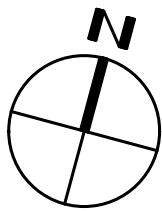
NISSHIN  
SEKKEI

目新設計株式会社

三重県知事登録第1-518号

Job Title		津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事			DATE	
Drawing Title		特記仕様書02			2025 - Jan	
					SCALE	
					A2:1/NS A3:1/NS	
		設 計 担 当				
多湖 弘樹					M - O 2	
一級建築士 第382361号						





1階平面図（改修前） S=1/150

凡例	
既設配管を示す（撤去）	——
既設配管を示す（残置）	.....
既設配管切断箇所を示す	=

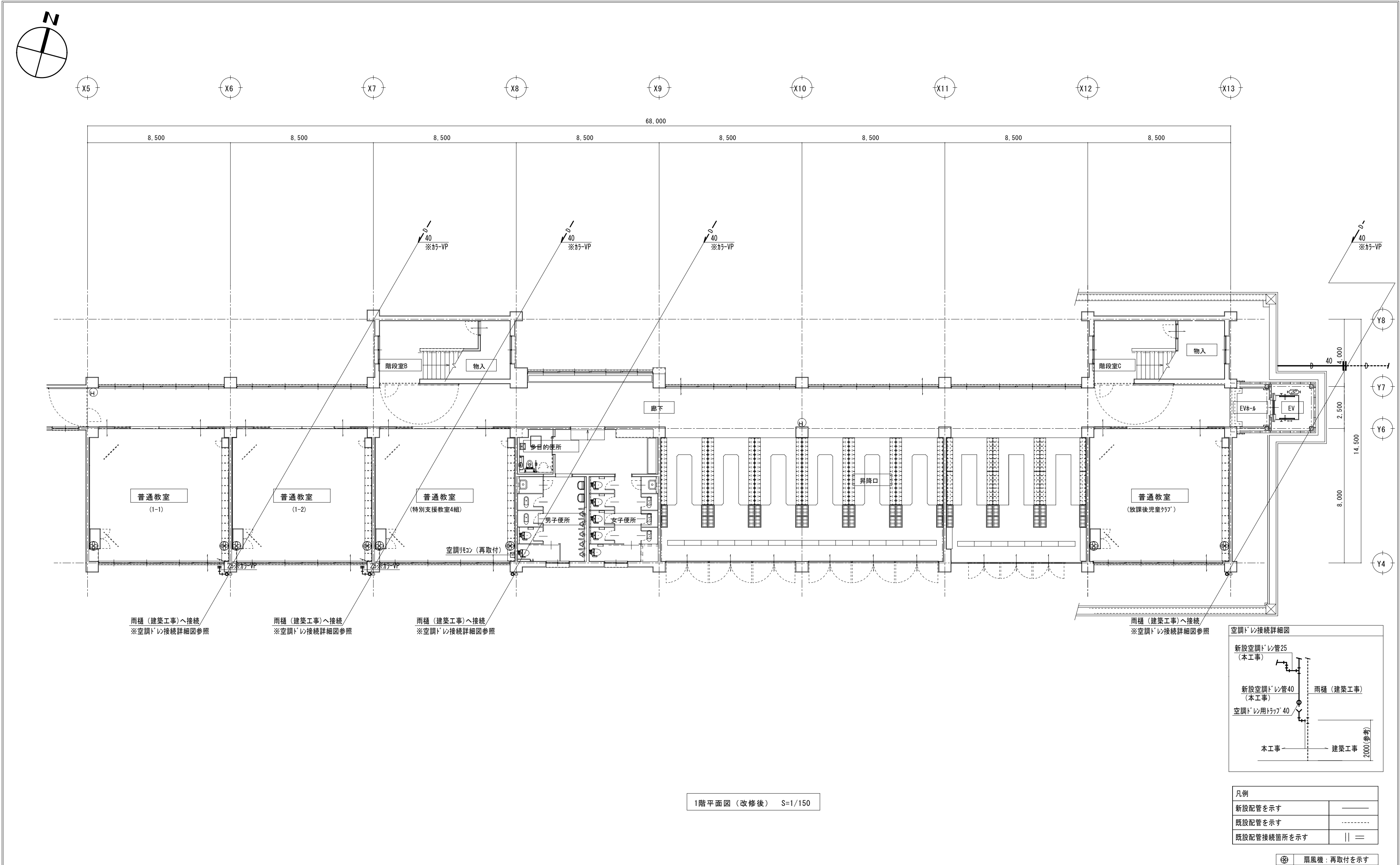
⊕ 取外しを示す

■ : NOTE

NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社  
三重県知事登録第1-518号

Job Title				DATE	
津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事				2025 - Jan	
Drawing Title				SCALE	
1階平面図(改修前)				A2:1/150 A3:1/210	
設 計 担 当					
多湖 弘樹				M - O 4	
一級建築士 第382361号					

M-04



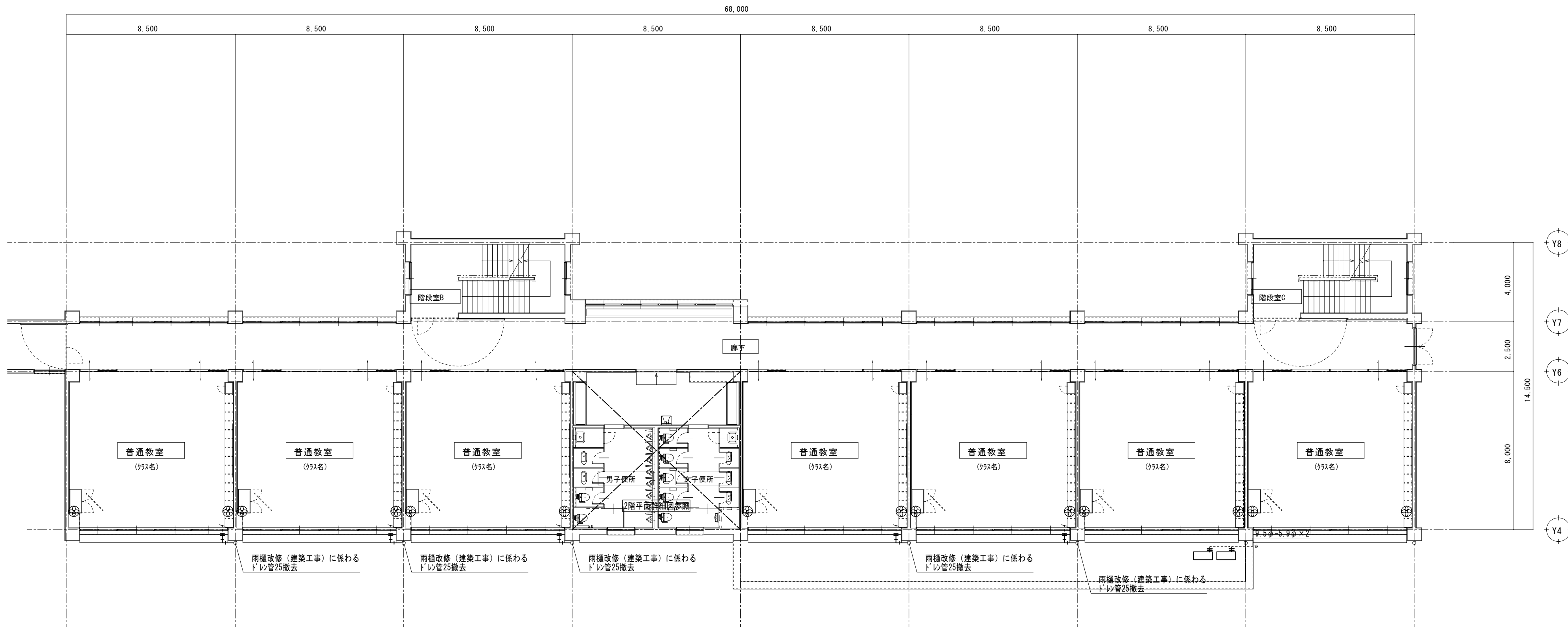
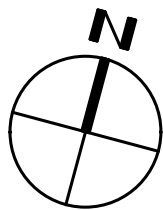
■ : NOTE

NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社  
三重県知事登録第1-518号

Job Title	津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事
Drawing Title	1階平面図 (改修後)
設計担当	多湖 弘樹 一級建築士 第382361号

DATE	2025 - Jan
SCALE	A2: 1/150 A3: 1/210
M - 0 5	





既設機器リスト (1階放課後児童ｸﾗﾌﾞ系統)			
機器	仕様	台数	備考
ﾊﾞｯﾹｰｼﾞ ｲﾌｵﾝ屋外機	6.3kW	2	取外し
※屋内機は残置			

2階平面図 S=1/150

凡例	
既設配管を示す(撤去)	——
既設配管を示す(残置)	-----
既設配管切断箇所を示す	=

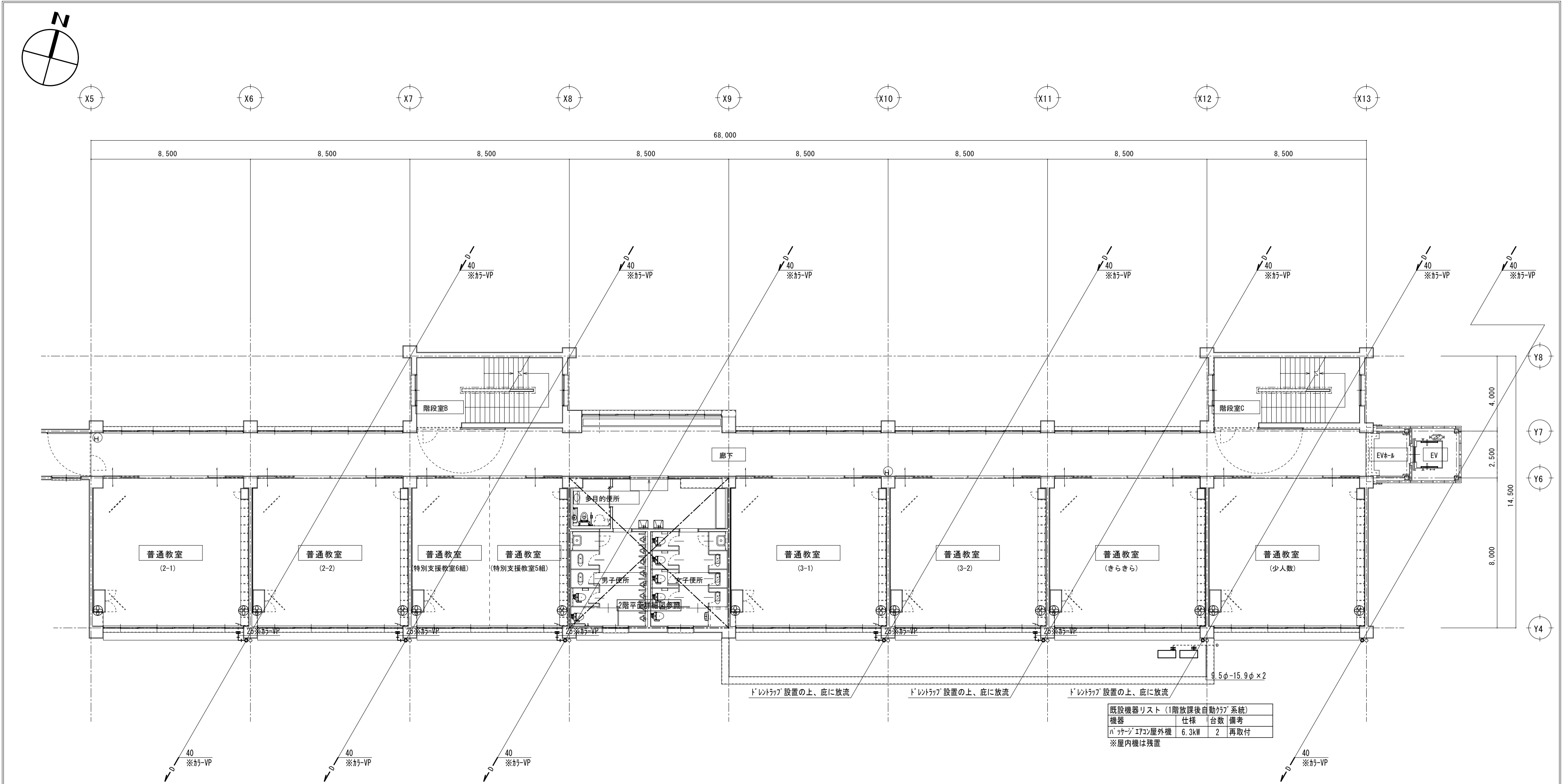
⊕ 扇風機: 取外しを示す

[原図A2]

■: NOTE

NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社  
三重県知事登録第1-518号

Job Title		DATE	
津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		2025 ~ Jan	
Drawing Title		SCALE	
2階平面図 (改修前)		A2:1/150 A3:1/210	
設 計 担 当			
多湖 弘樹			M - 0 6
一級建築士 第382361号			



既設機器リスト (1階放課後自動かん'系統)			
機器	仕様	台数	備考
ハ'カー'エアコン屋外機	6.3kW	2	再取付

※屋内機は残置

⊕ 扇風機：再取付を示す

凡例	
新設配管を示す	——
既設配管を示す	----
既設配管接続箇所を示す	=

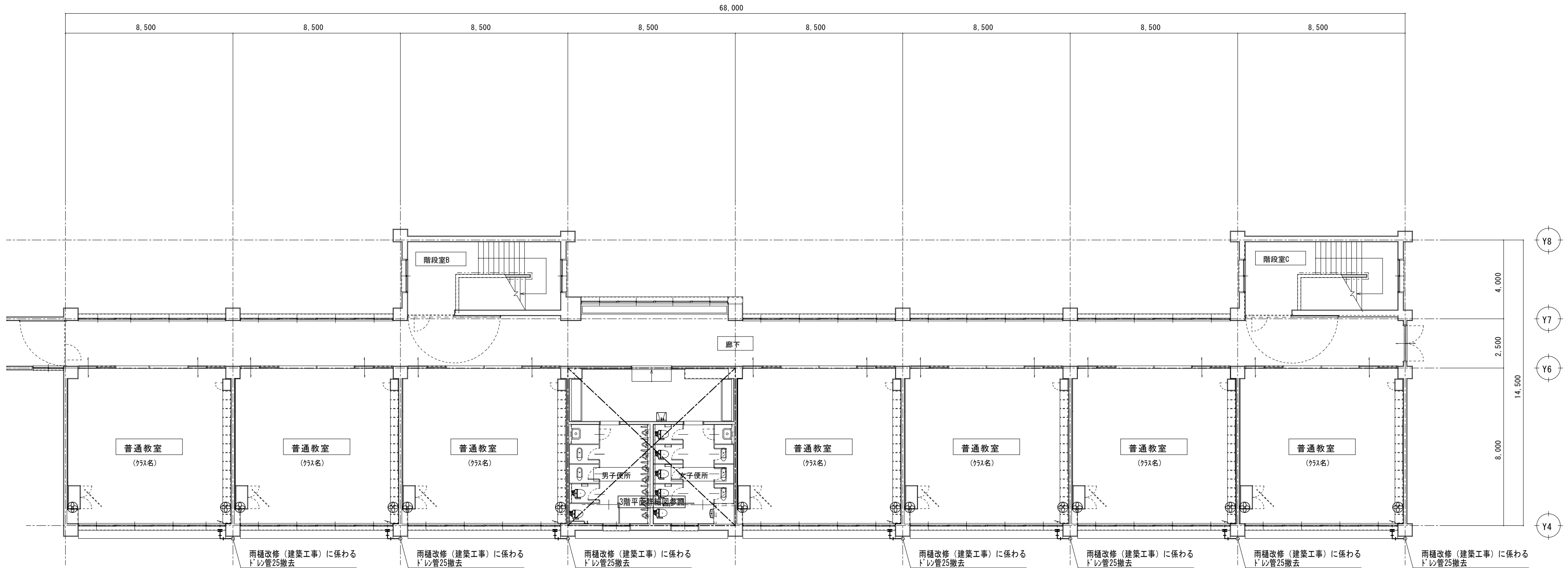
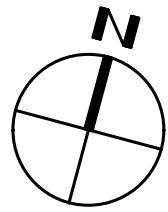
2階平面図 (改修後) S=1/150

■ : NOTE	

NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社  
三重県知事登録第1-518号

<u>Job Title</u>			
津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事			
<u>Drawing Title</u>			
2階平面図（改修後）			
		設 計 担 当	
多湖 弘樹			
一級建築士 第382361号			

M-07



3階平面図（改修前） S=1/150

凡例	
既設配管を示す（撤去）	——
既設配管を示す（残置）	.....
既設配管切断箇所を示す	=

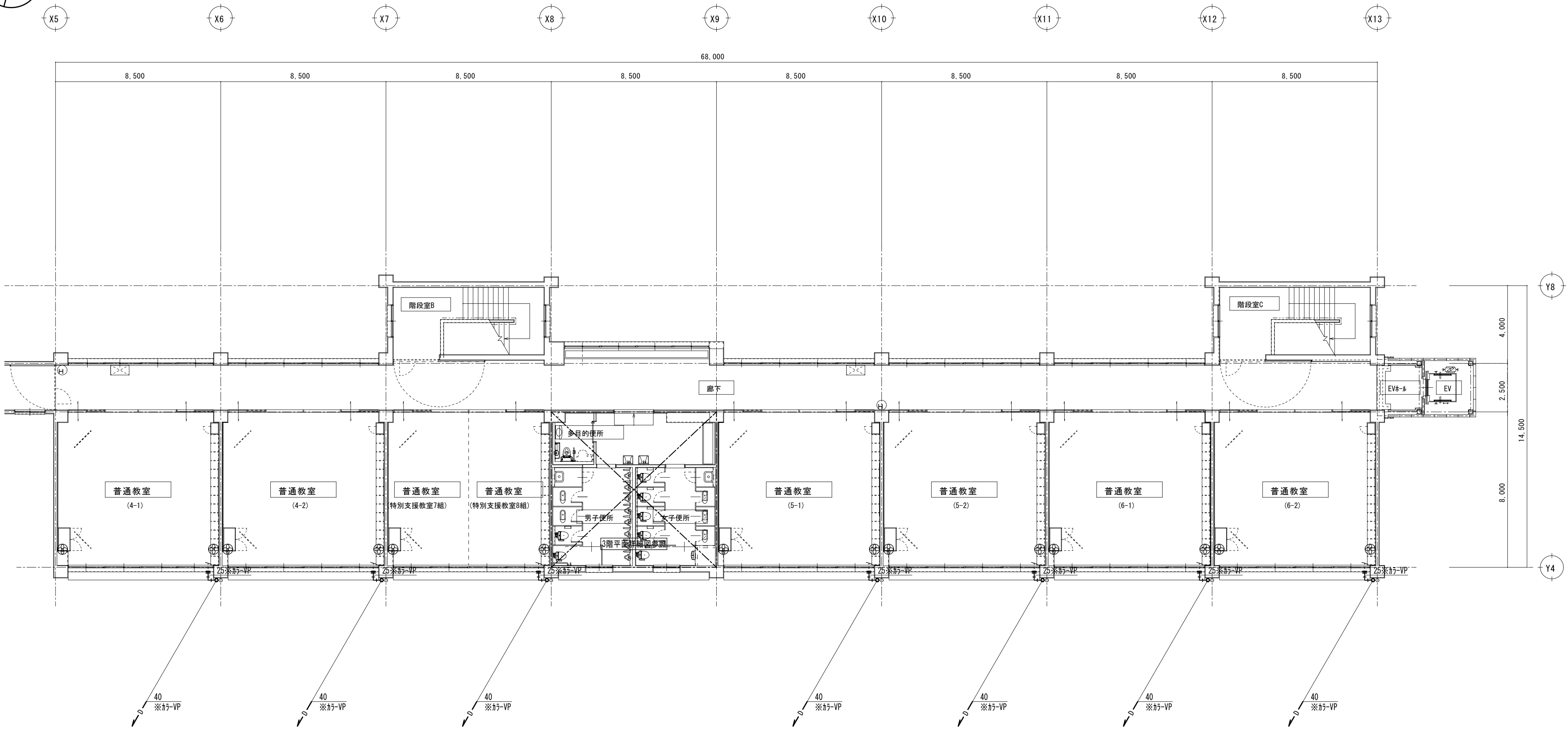
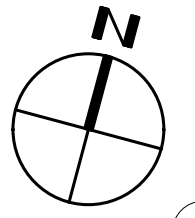
⊕ 扇風機：取外しを示す

〔原図A2〕

■：NOTE

NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社  
三重県知事登録第1-518号

Job Title		津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		DATE	
Drawing Title		3階平面図（改修前）		2025 - Jan	
設計担当		多湖 弘樹		SCALE	
一級建築士 第382361号				A2:1/150 A3:1/210	
				M-08	



3階平面図（改修後） S=1/150

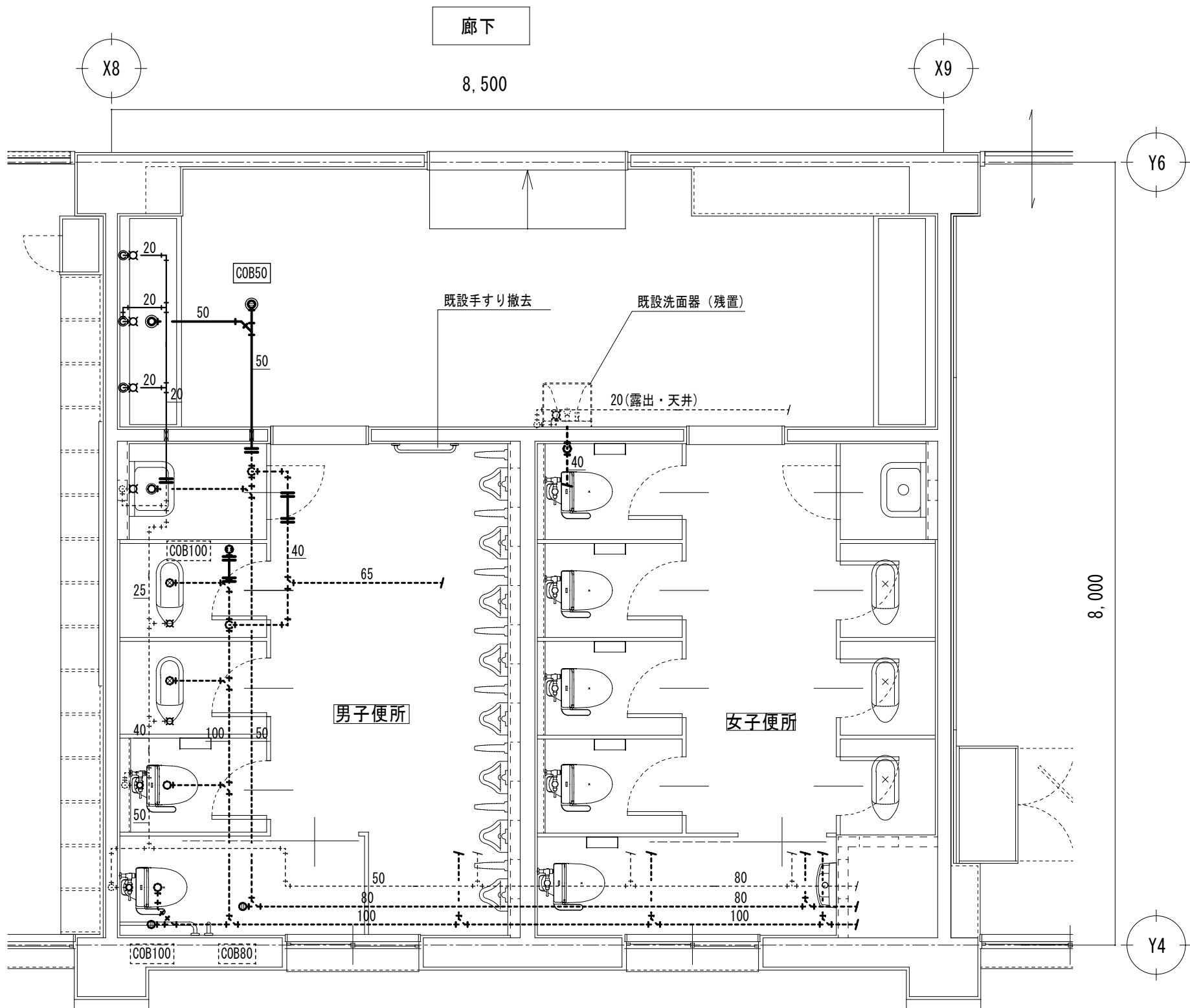
凡例	
新設配管を示す	——
既設配管を示す	-----
既設配管接続箇所を示す	=

⊕ 扇風機：再取付を示す

■ : NOTE	

NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社  
三重県知事登録第1-518号

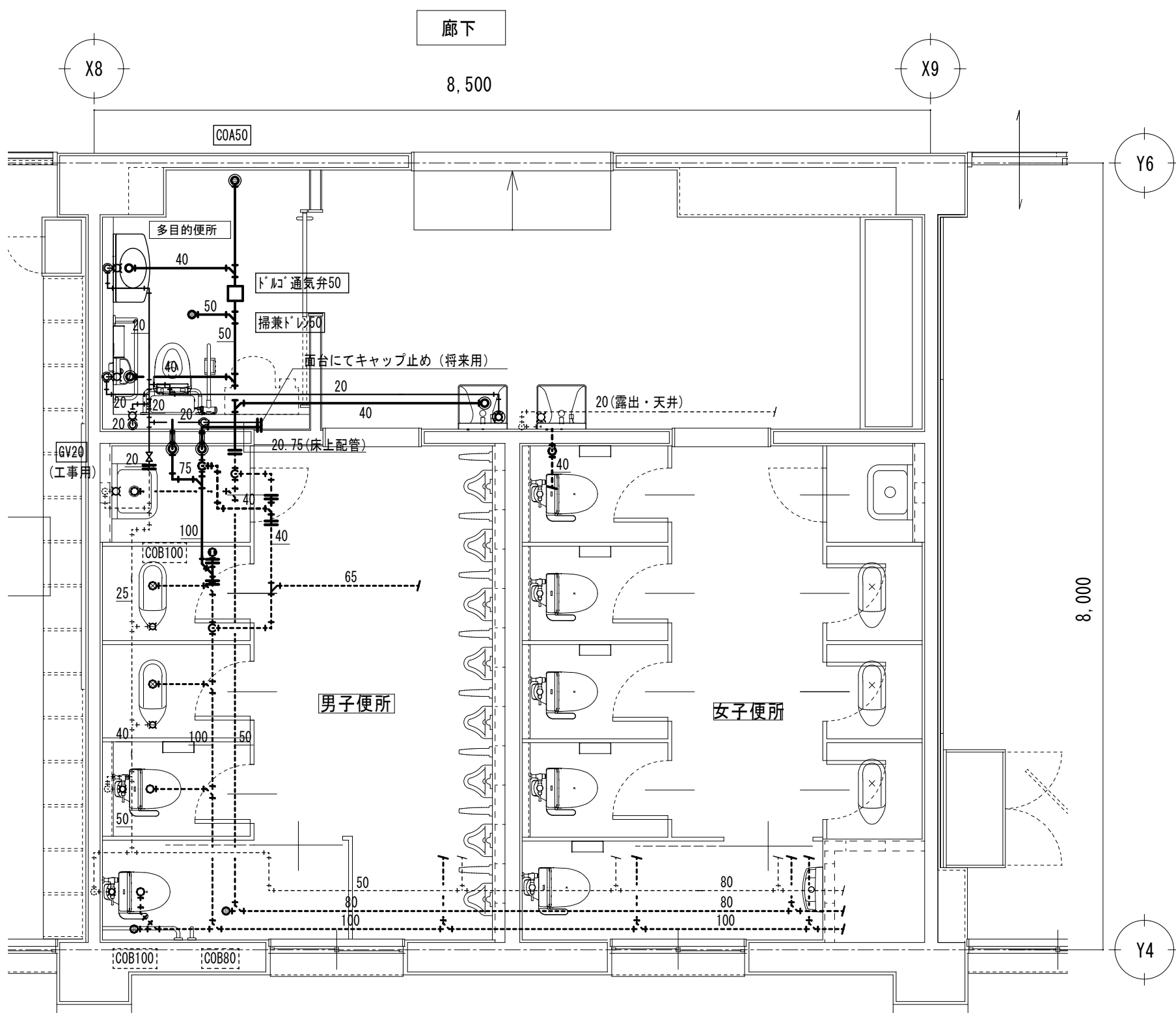
Job Title		津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		DATE	
Drawing Title		3階平面図（改修後）		2025 - Jan	
				SCALE	
				A2:1/150 A3:1/210	
多湖 弘樹		設計担当		M-09	
一級建築士 第382361号					



便所前室		既存機器表	
手洗い	※建築工事	1	撤去
化粧鏡		3	撤去
水栓		3	撤去
洗面器		1	残置

凡例	
既設配管を示す（撤去）	——
既設配管を示す（残置）	-----
既設配管切断箇所を示す	=
手はつり箇所を示す	○ ☒

※既設給排水配管は銅管  
※建築工事にて解体の無い壁内の配管は残置とする（壁面まで配管撤去）



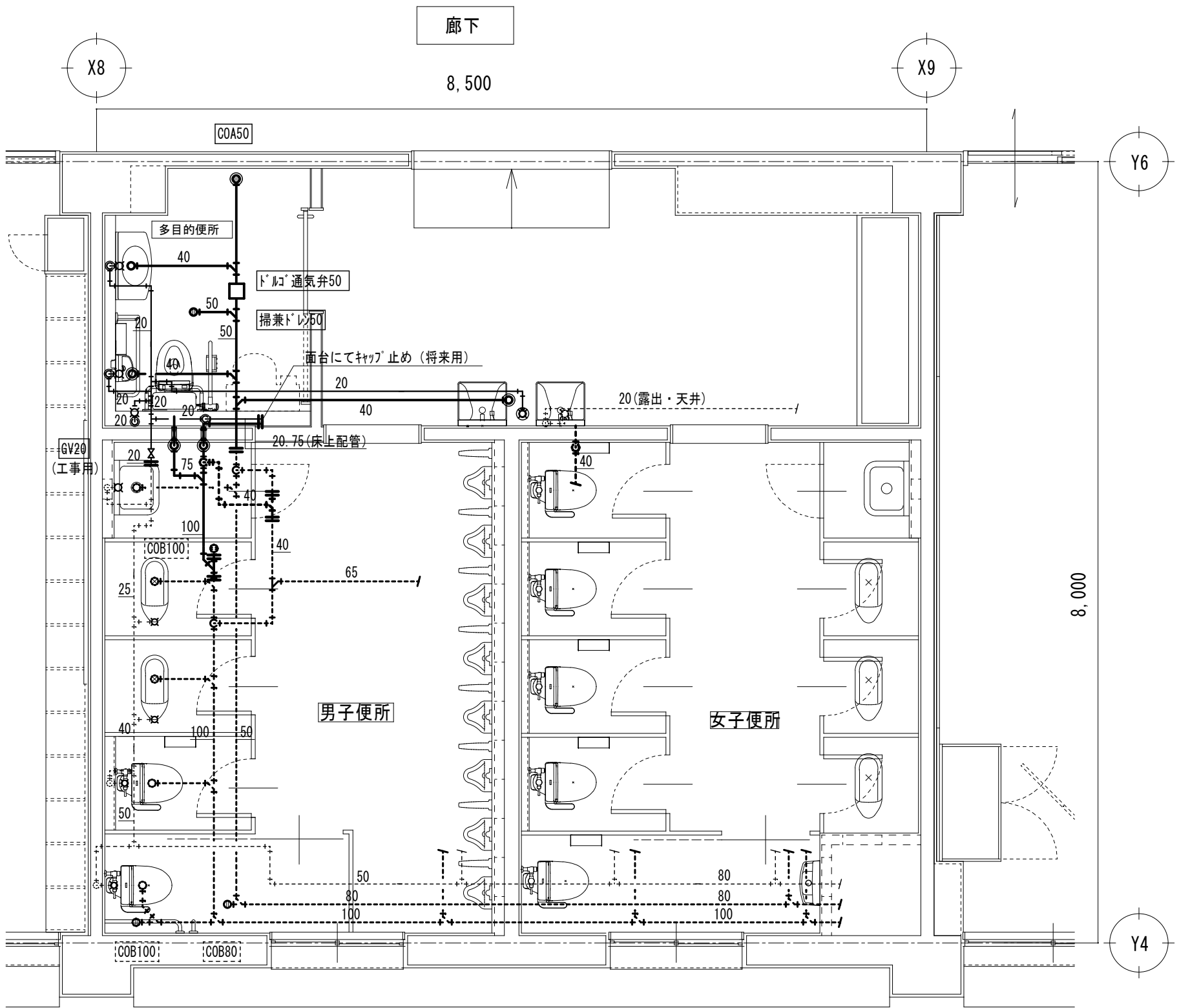
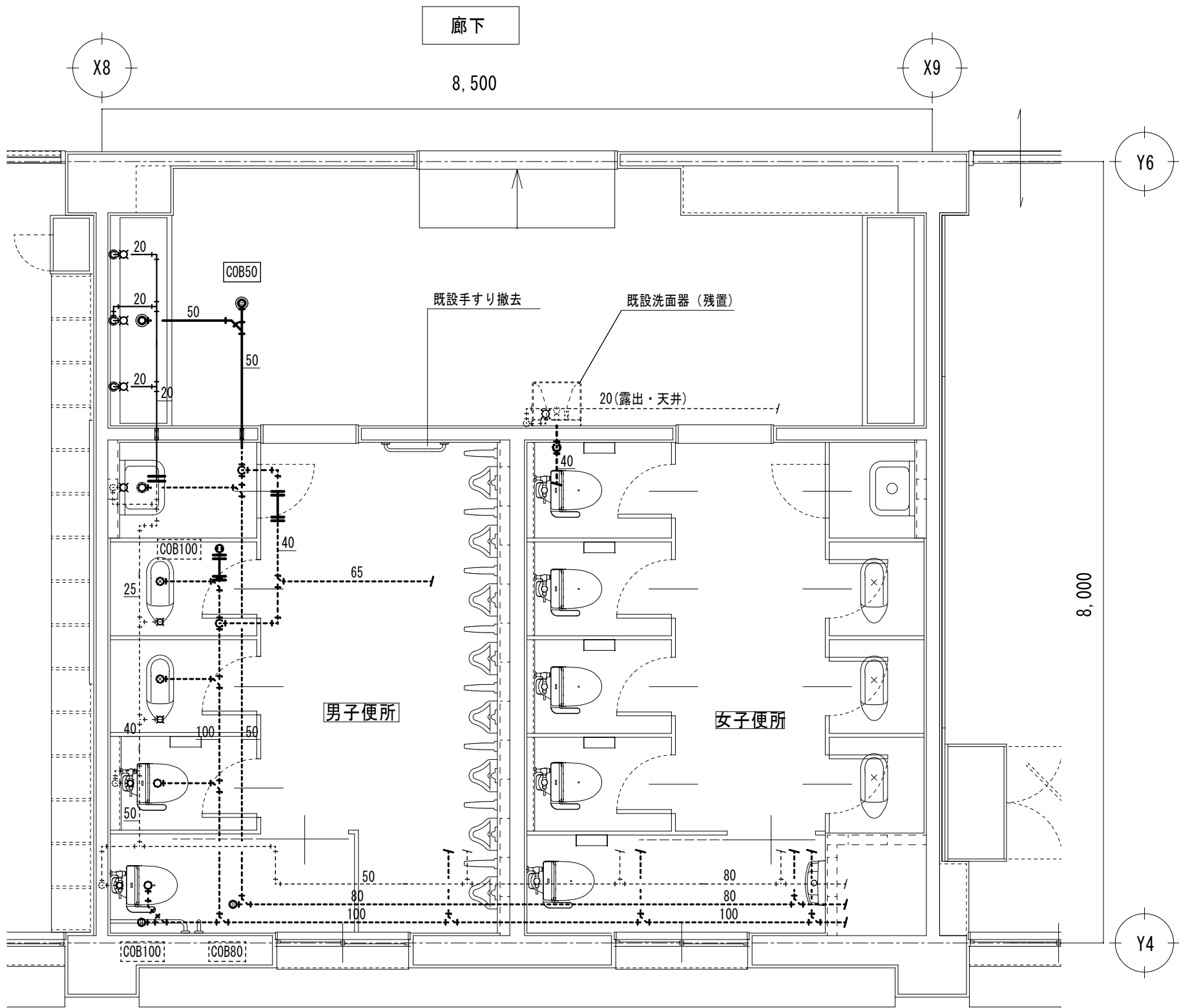
凡例	
新設配管を示す	——
既設配管を示す	-----
既設配管接続箇所を示す	=
コア抜き箇所を示す	○ ☒

〔原図A2〕

■：NOTE

NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社  
三重県知事登録第1-518号

Job Title		DATE	
津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		2025 - Jan	
Drawing Title		SCALE	
2階平面詳細図（給排水衛生設備）		A2:1/50 A3:1/70	
設計担当		M - 1 0	
多湖 弘樹			
一級建築士 第382361号			



便所前室 既存機器表

手洗い	※建築工事	1	撤去
化粧鏡		3	撤去
水栓		3	撤去
洗面器		1	残置

凡例	
既設配管を示す（撤去）	——
既設配管を示す（残置）	-----
既設配管切断箇所を示す	=
手はつり箇所を示す	○ ☒

※既設給排水配管は銅管  
※建築工事にて解体の無い壁内の  
配管は残置とする（壁面まで配管撤去）

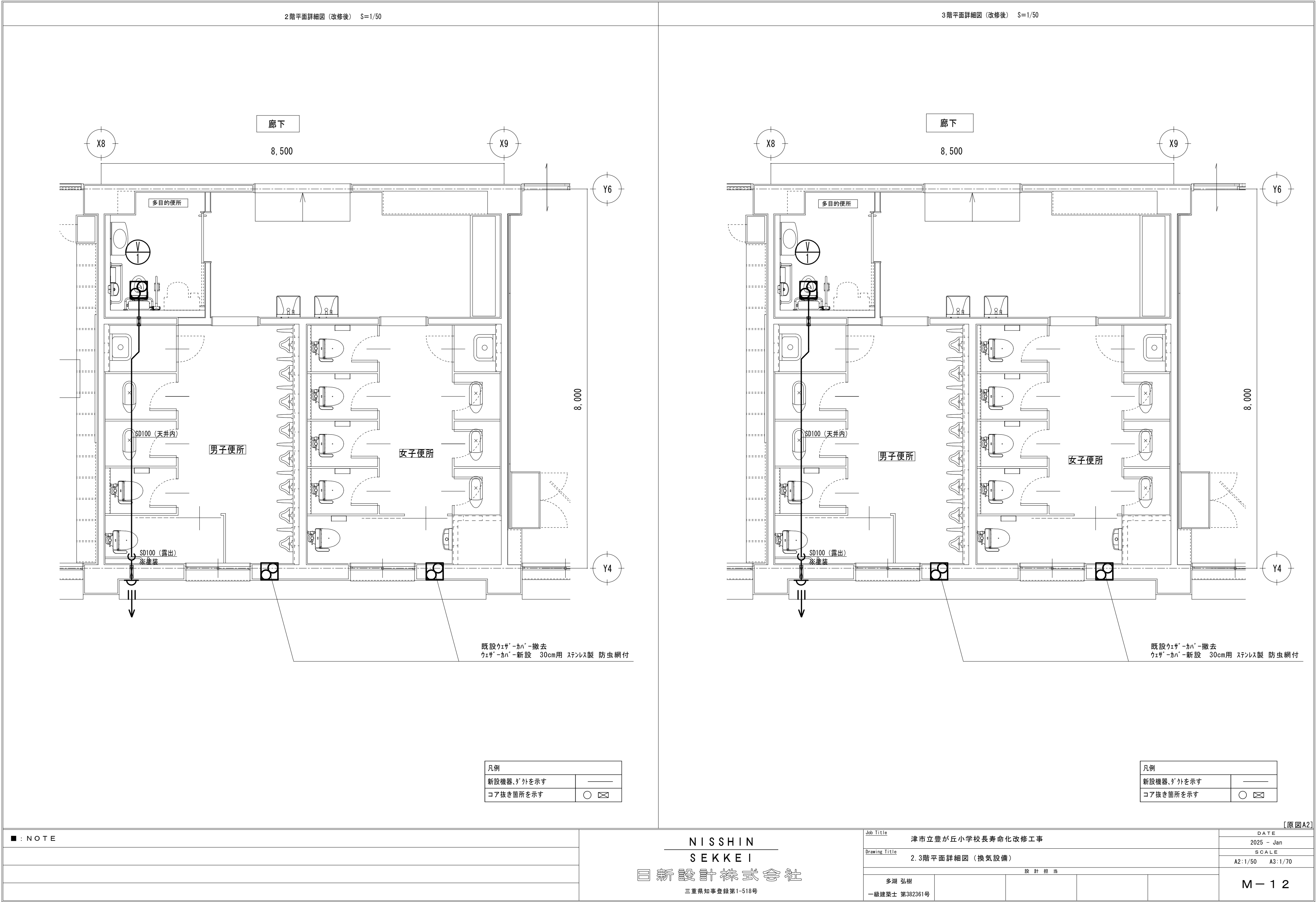
凡例	
新設配管を示す	——
既設配管を示す	-----
既設配管接続箇所を示す	=
コア抜き箇所を示す	○ ☒

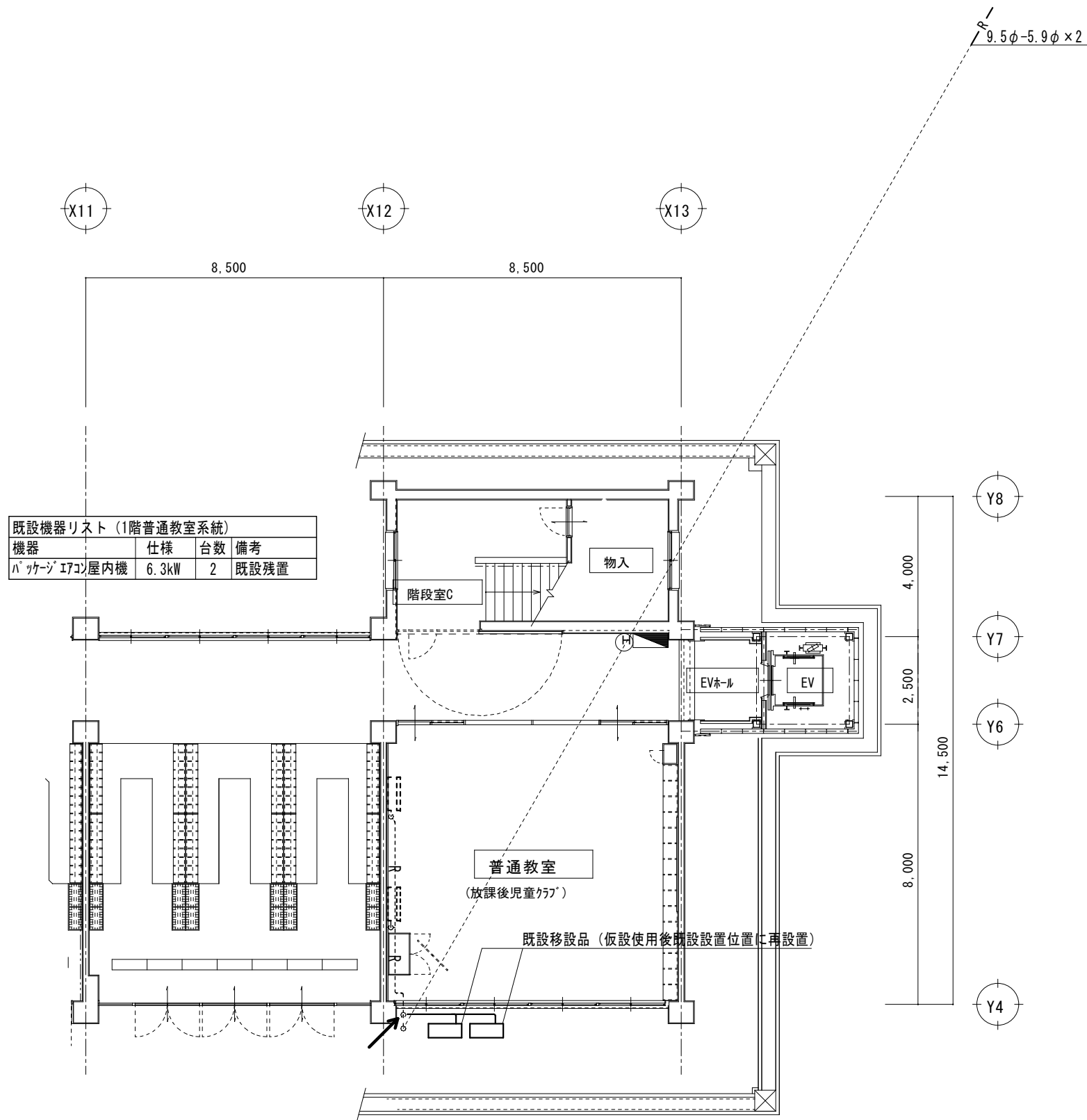
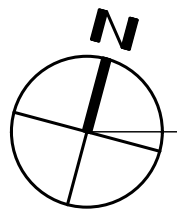
■ : NOTE

NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社  
三重県知事登録第1-518号

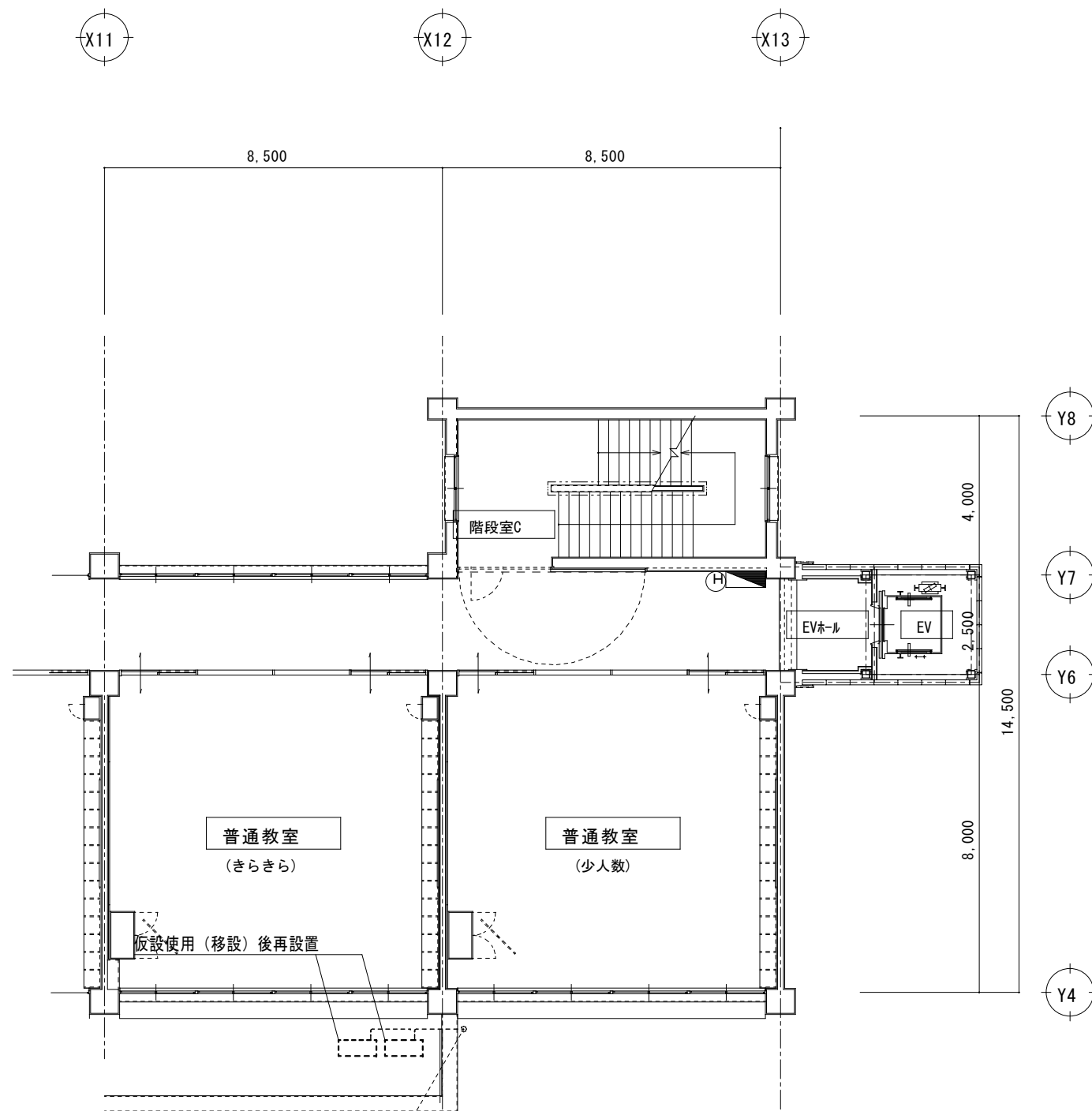
Job Title		津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事			DATE	
Drawing Title		3階平面詳細図（給排水衛生設備）			2025 - Jan	
					SCALE	
		設 計 担 当			A2:1/50 A3:1/70	
多湖 弘樹					M - 1 1	
一級建築士 第382361号						







1階平面図 S=1/150



2階平面図 S=1/150

凡例	
仮設配管、機器を示す	——
既設配管、機器を示す	-----
既設配管、配線接続箇所を示す	<—

※仮設使用後仮設配管、配線は撤去する事  
※仮設配管、配線撤去後、既設屋外機設置位置系統の既設配管へ接続する事

[原図A2]

■ : NOTE

NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社  
三重県知事登録第1-518号

Job Title 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事

Drawing Title 仮設計画図 (空調設備)

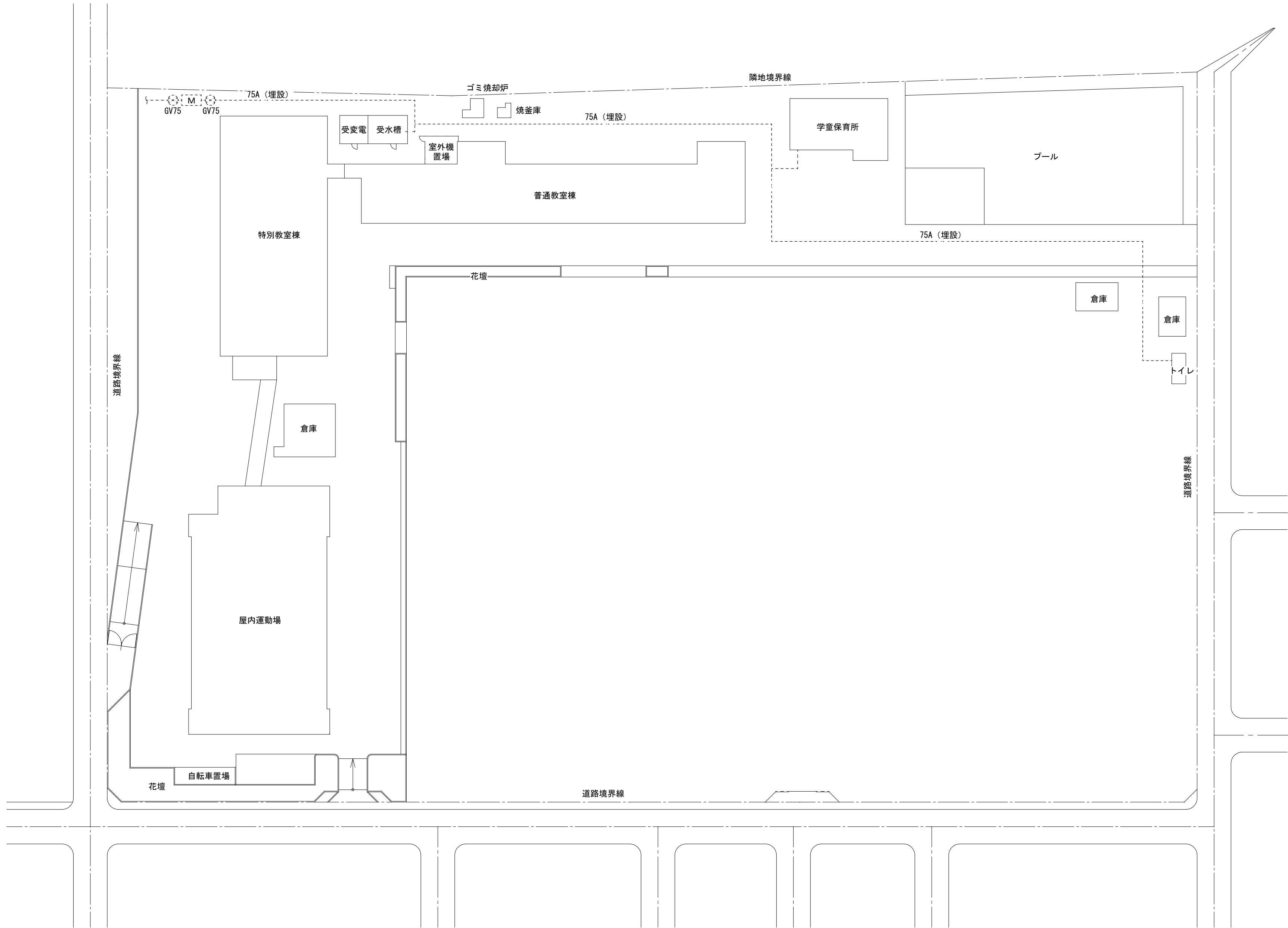
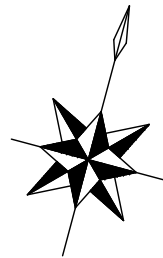
多湖 弘樹  
一級建築士 第382361号

設計担当

DATE  
2025 - Jan

SCALE  
A2:1/150 A3:1/210

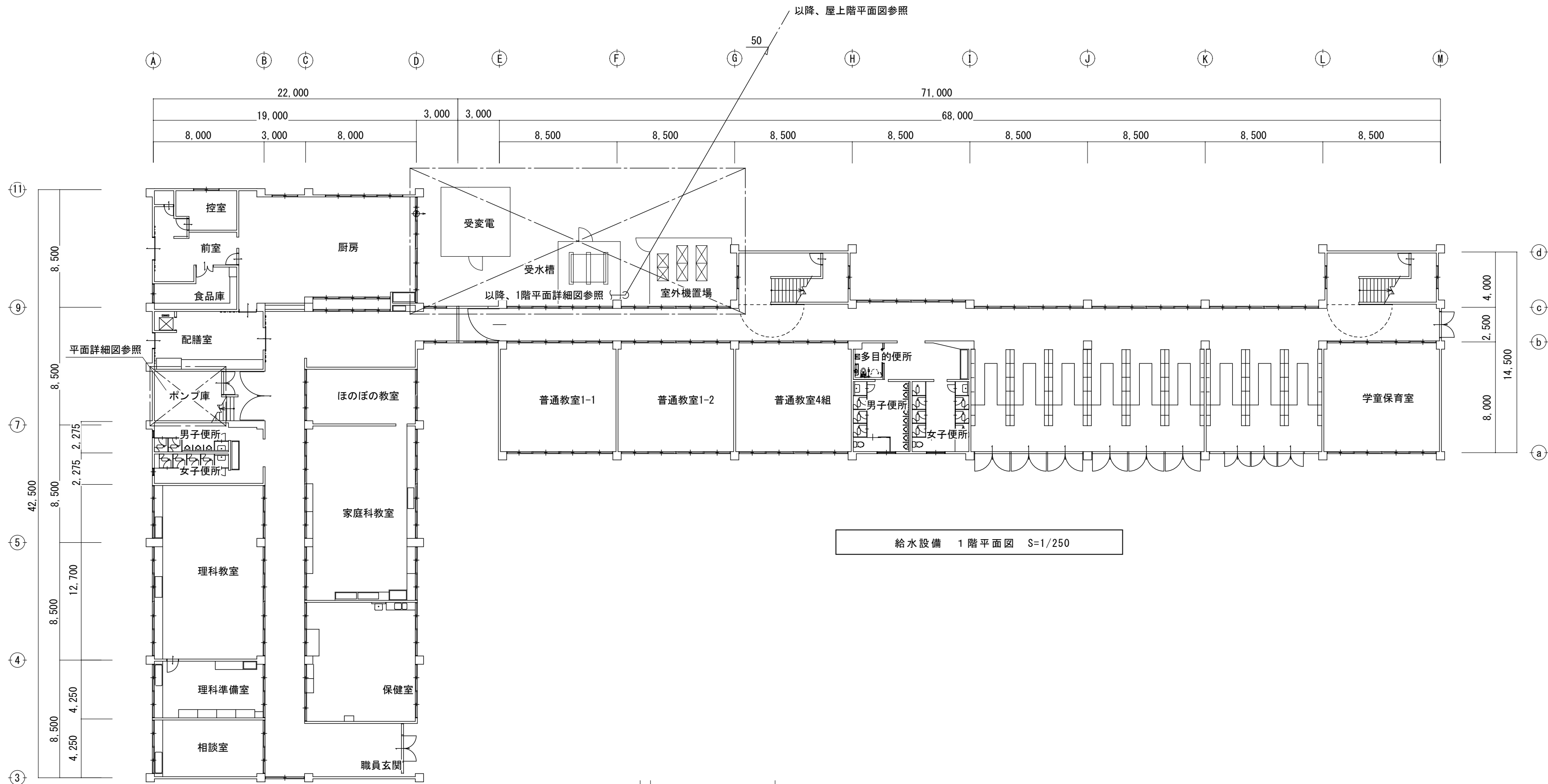
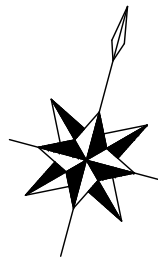
M - 1 3



給水設備 配置図 S=1/500

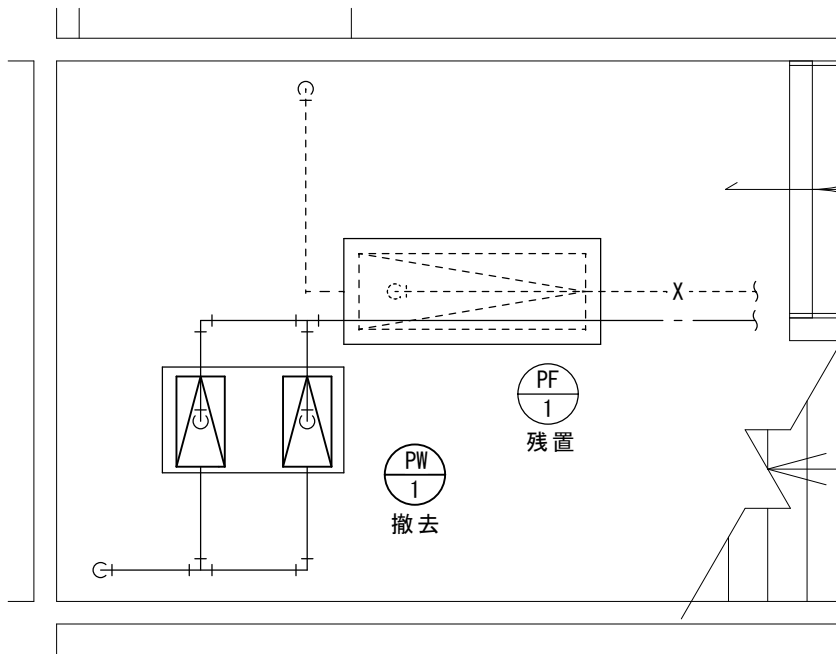
凡例	
図示記号	名称
-----	既設配管
— — — —	給水管
⊗	弁類
M	水道メーター

津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		縮尺 1/500
図面名称	給水設備 配置図	原図：A 2
津市建設部営繕課		No. M-14



給水設備 1階平面図 S=1/250

凡例	
図示記号	名称
	撤去・新設配管
	既設配管
	既設配管切断接続
	給水管
	消火管
	弁類



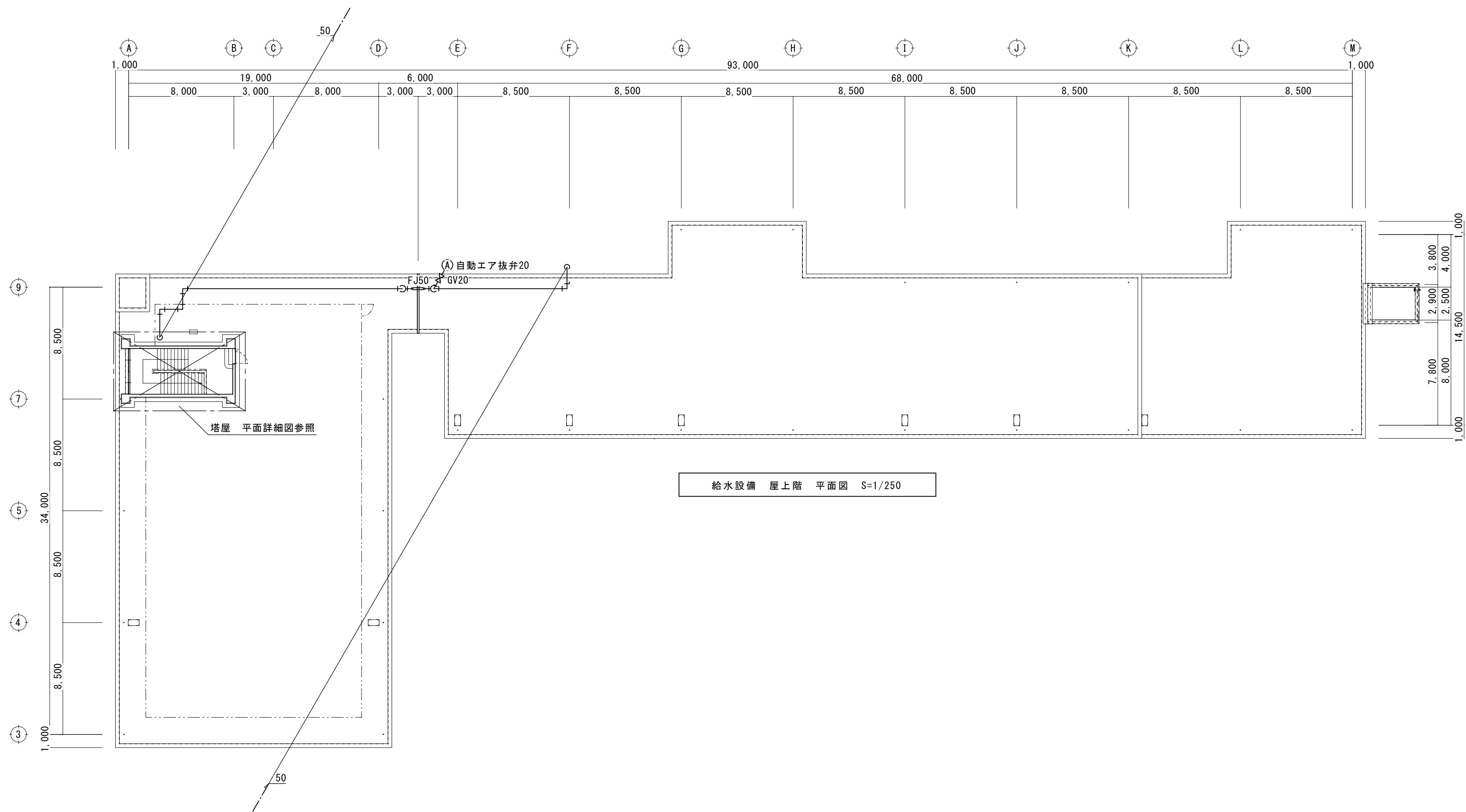
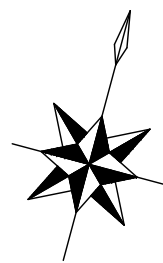
給水設備 ポンプ庫平面詳細図 S=1/50

既設機器表		
図示記号	備考	台数
	揚水ポンプ 65φ×280L/min×33.5m×3.7kW 3相200V	2
	消火ポンプ 80φ×750L/min×48m×11kW 3相200V	1

揚水ポンプ（撤去）	
吸込管	GV80
吐出管	GV80×2, CV80×2, FJ80×500L×2

※配管保温材のIL部に石綿が含有しているとみなし、適切に除去および処分すること。

津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		縮尺 1/250 1/50
図面名称	給水設備 1階平面図・ポンプ庫平面詳細図	原図：A 2
津市建設部営繕課		No. M-15

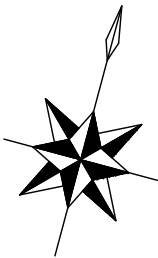


凡例	
図示記号	名称
	撤去・新設配管
	既設配管
	既設配管切断接続
	給水管
	消火管
	弁類

※配管架台は、溶融垂鉛メッキ製とすること。

津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		縮尺 1/250
図面名称	給水設備 屋上階平面図	原図：A 2
津市建設部営繕課		No. M-16



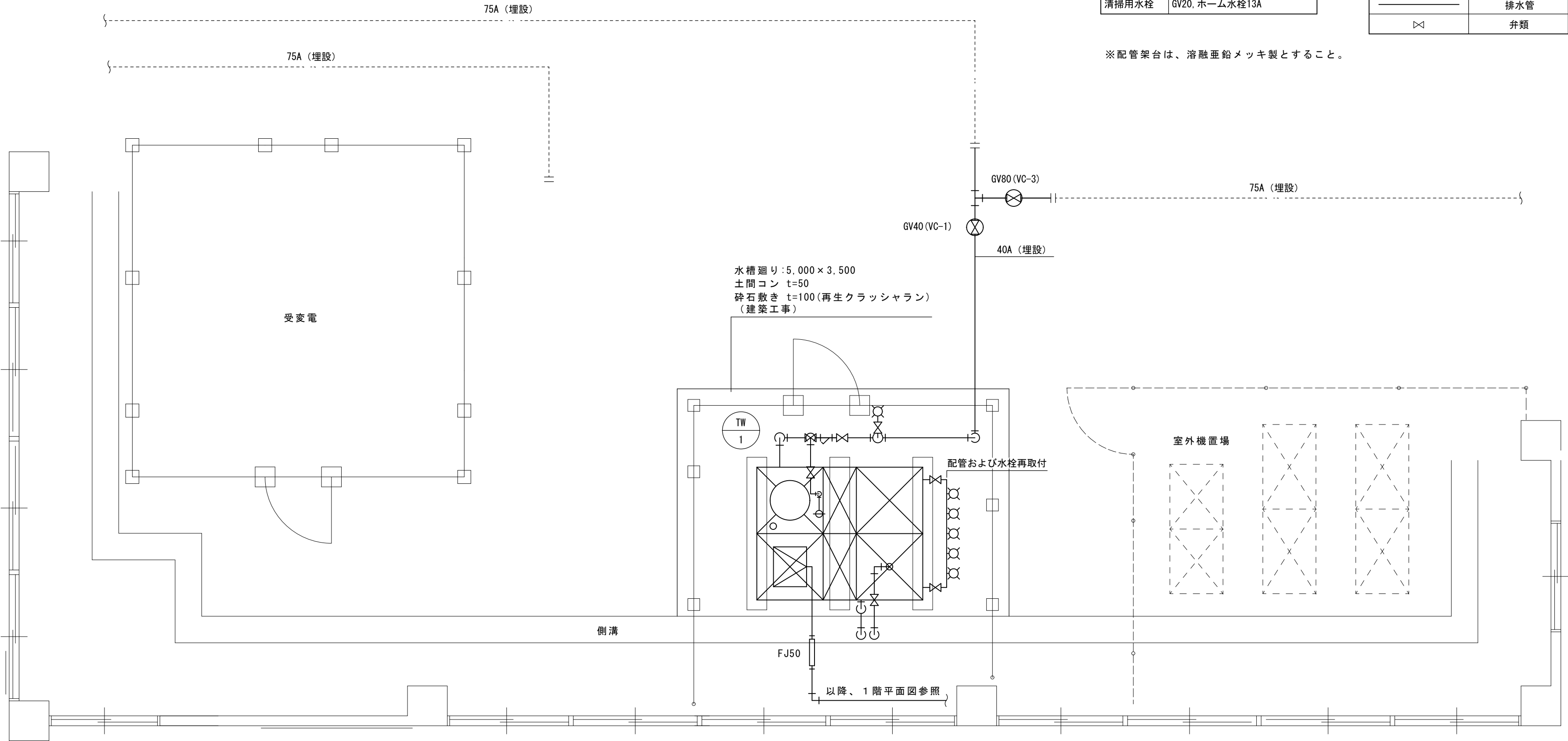


機器表（新設）	
図示記号	能力・仕様
TW 1	名称：受水槽付揚水ポンプユニット（参考型番：KW2TM9-406AE1.5）
	形式：SUS444製パネルタンク（単板） Kh=1.5G
	仕様：2000×2500×H2000
	ポンプ仕様：Φ40×φ32×100L/min×23m×1.5kW×2台（自動交互運転）
	付属品：制御盤、電極、内外はしご、点検扉付カバー、南京錠

受水槽付揚水ポンプユニット	
給水口	GV40, 定水位弁40, YST40, FJ40, FJ20, BT20, GV20
排水口	GV40
溢れ管	SUS製防虫網65
緊急用水栓	GV40×2, 13A×5（再取付）
清掃用水栓	GV20, ホーム水栓13A

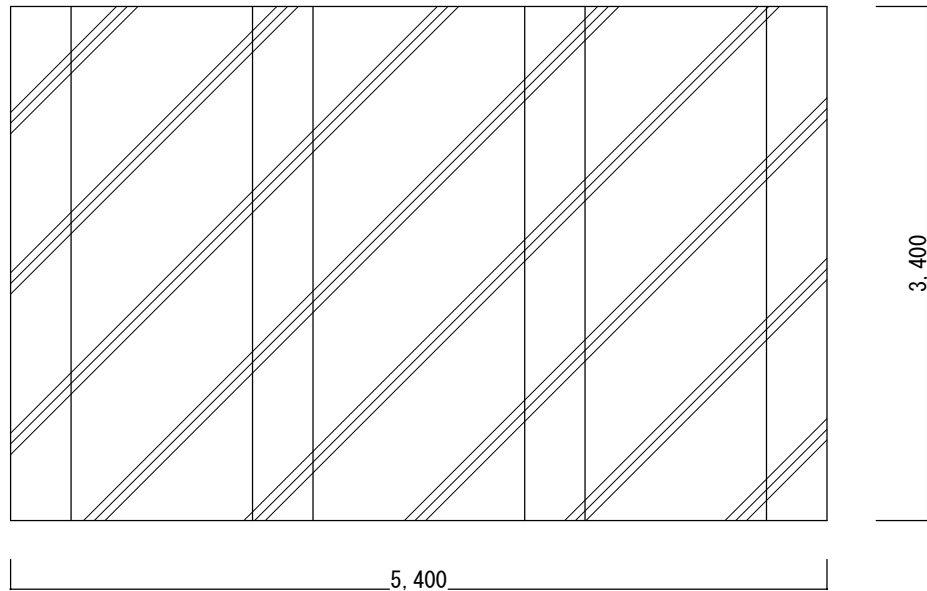
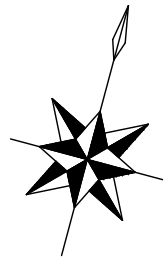
凡例	
図示記号	名称
	新設配管
	既設配管
	既設配管接続
	給水管
	排水管
	弁類

※配管架台は、溶融亜鉛メッキ製とすること。



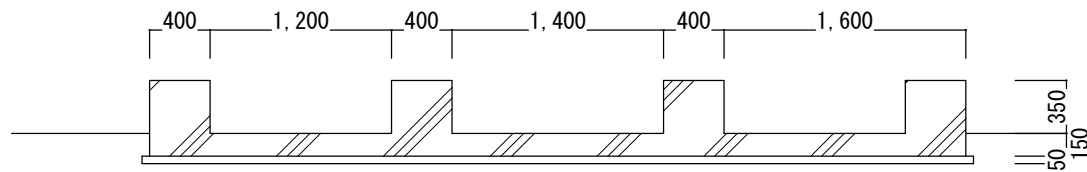
給水設備 1階平面詳細図（改修後） S=1/50

津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		縮尺 1/30 1/50
図面名称	給水設備 1階平面詳細図（改修後）	原図：A 2
津市建設部営繕課		No. M-17



基礎平面図 S=1/50

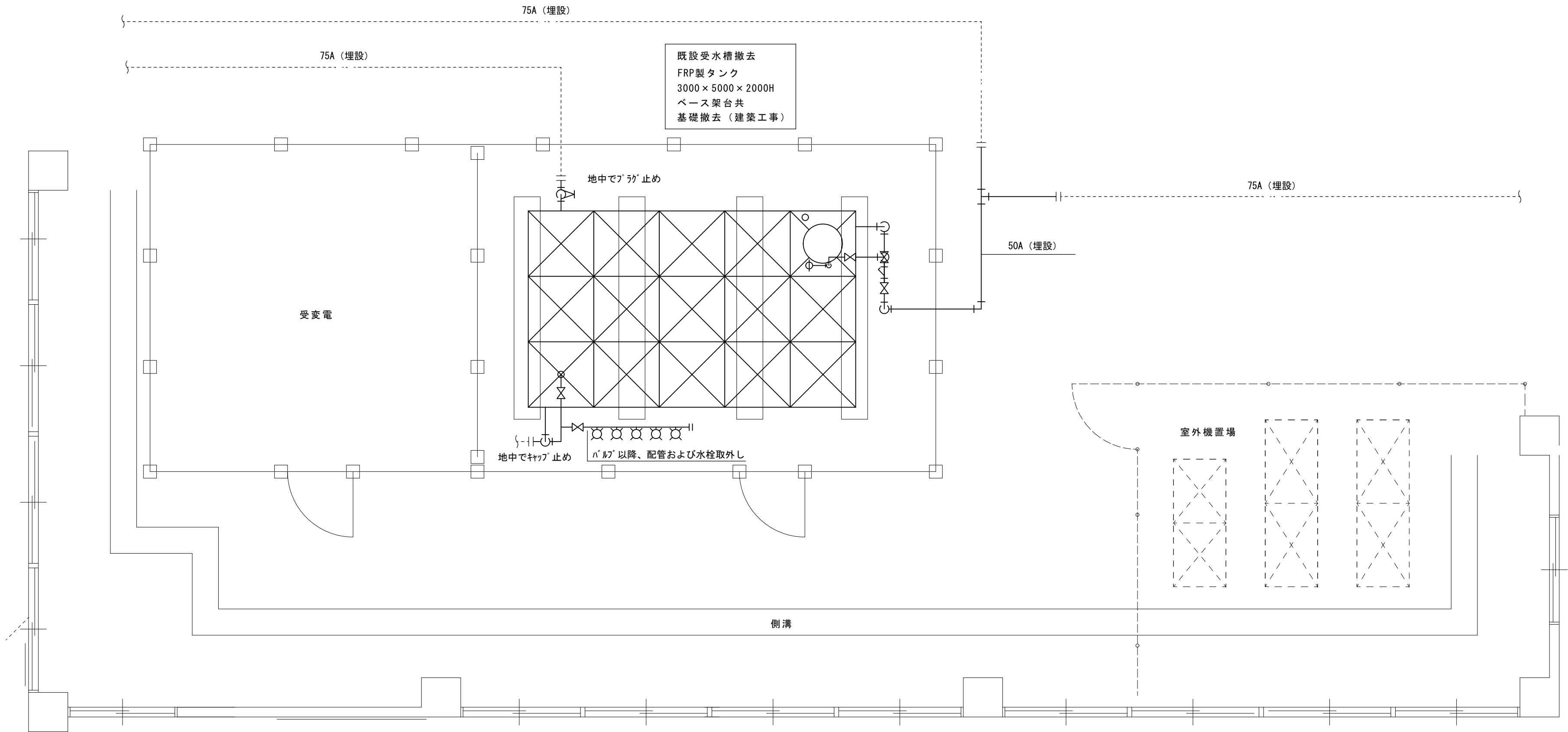
※既設基礎の撤去は建築工事とする。



基礎断面図 S=1/50

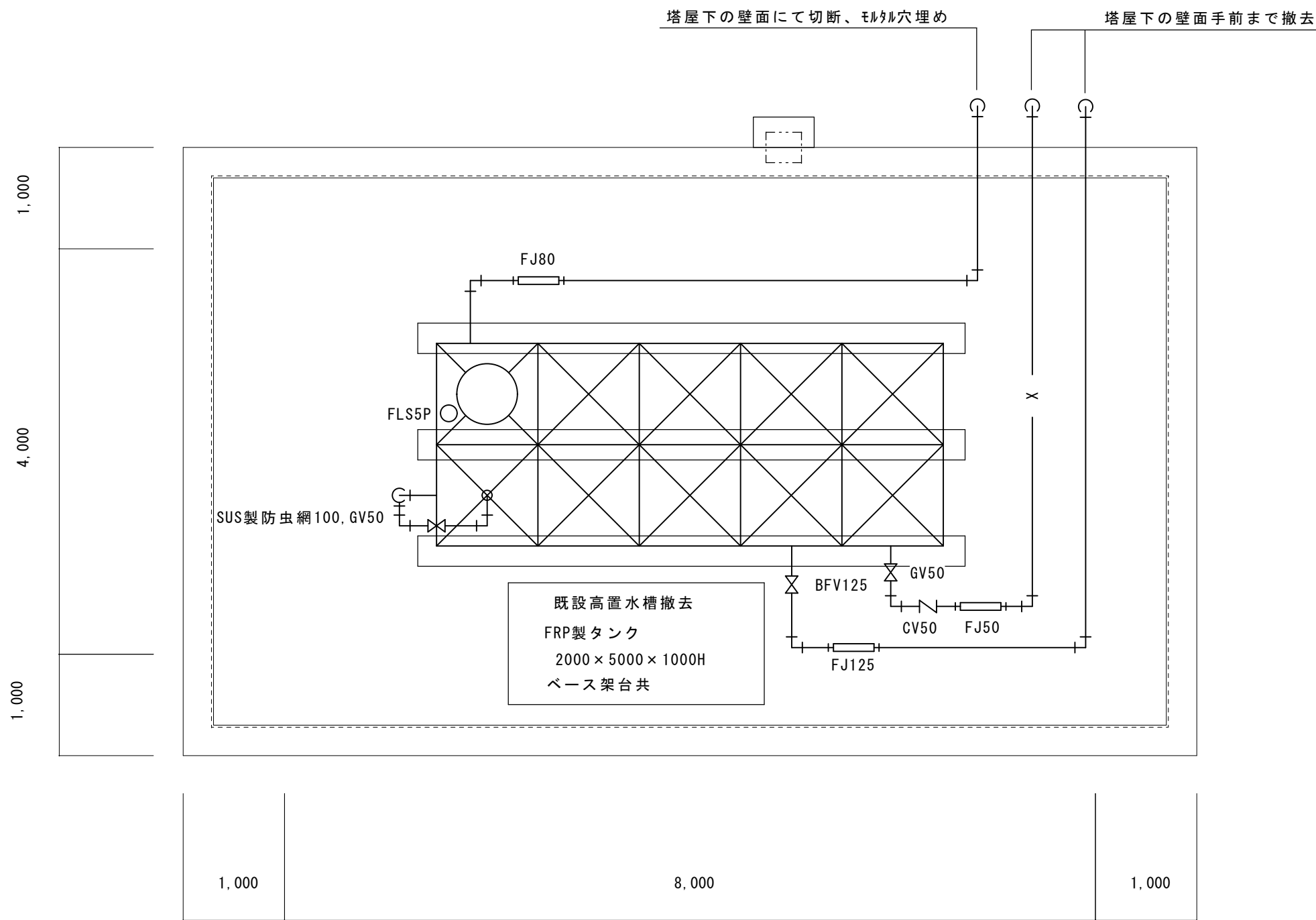
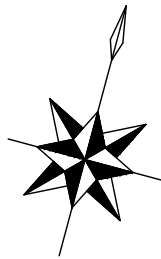
受水槽（撤去）	
給水管	GV50, 定水位弁50, YST50 BT20, GV20×2
排水管	GV50
溢れ管	SUS製防虫網125
電極	FLS4P
給水管	GV80, FJ80
ホーム水栓	13A×5（取外し）

凡例	
図示記号	名称
	撤去配管
	既設配管
	既設配管切断
	給水管
	排水管
	弁類



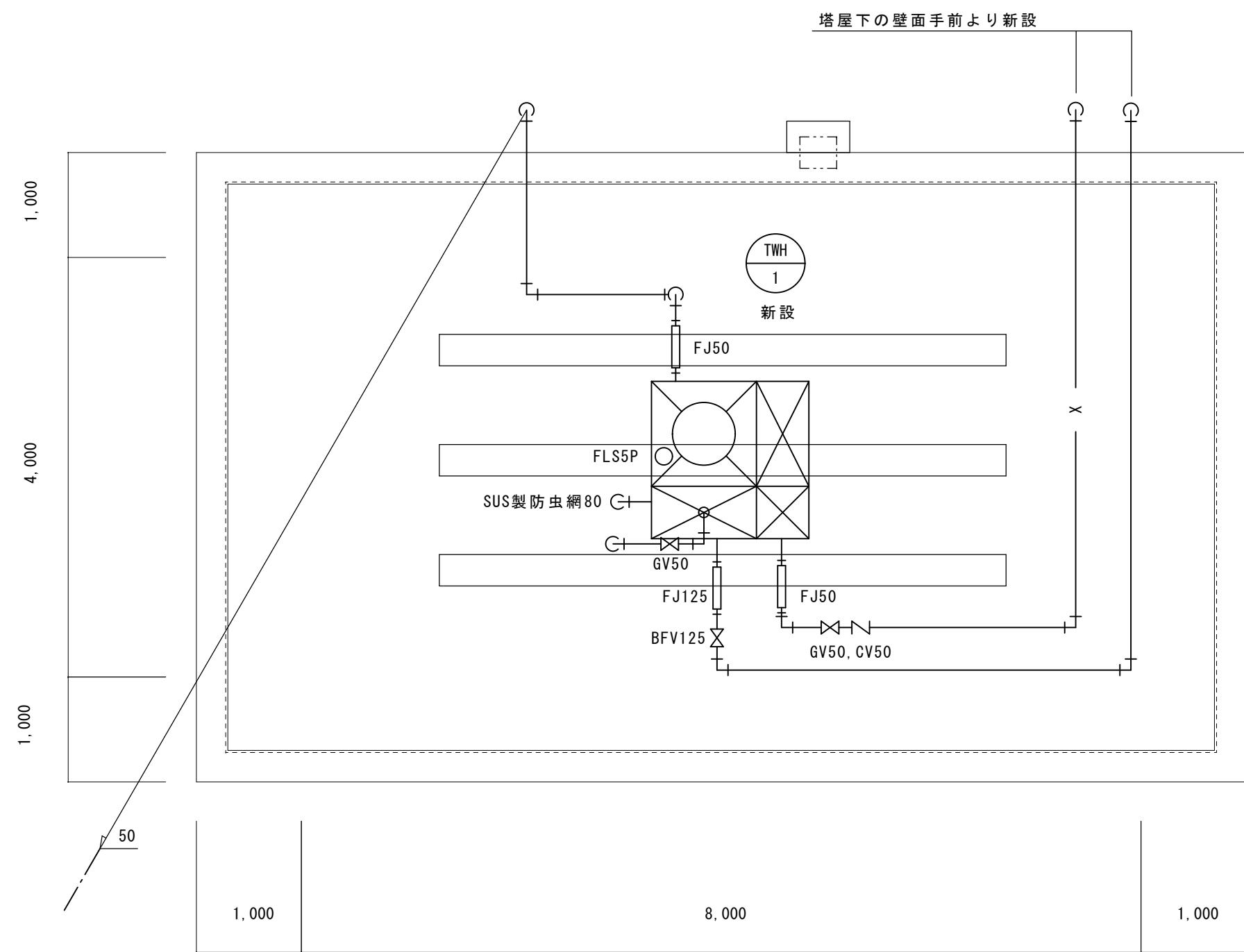
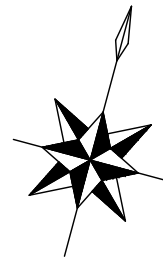
給水設備 1階平面詳細図（改修前） S=1/50

津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		縮尺 1/50
図面名称	給水設備 1階平面詳細図（改修前）	原図：A 2
津市建設部営繕課		No. M-18



給水設備 塔屋 平面図（改修前） S=1/50

凡例	
図示記号	名称
————	撤去配管
-----	既設配管
-----+ -----	既設配管切断接続
—— - ——	給水管
—— X ——	消火管
⊗	弁類



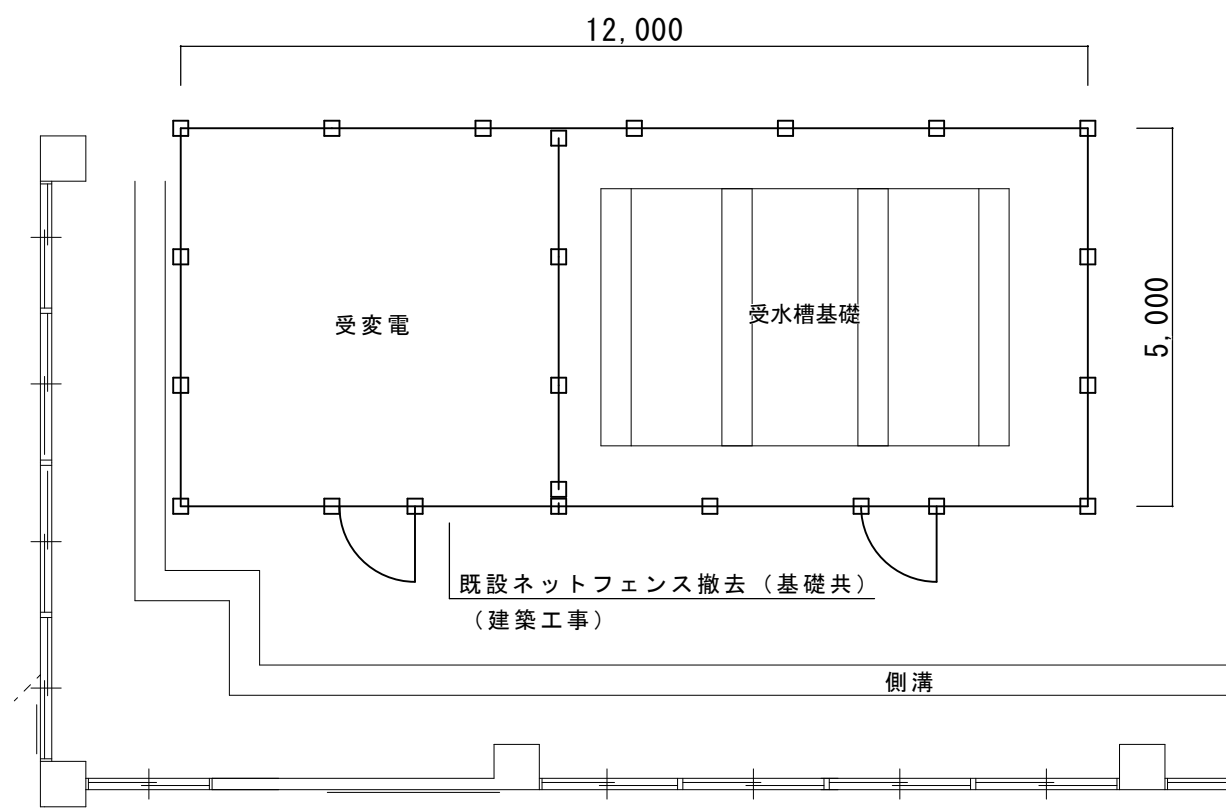
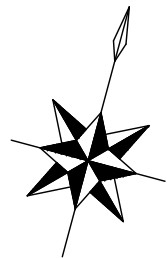
給水設備 塔屋 平面図（改修後） S=1/50

機器表	
図示記号	備考
	形式 : SUS444製パネルタンク（単板） Kh=2.0G 仕様 : 1500×1500×2000H（溶融亜鉛メッキ平架台共） 付属品：通気口（防虫網付）、電極座（防雨カバー付）、マンホール（内蓋付）、南京錠

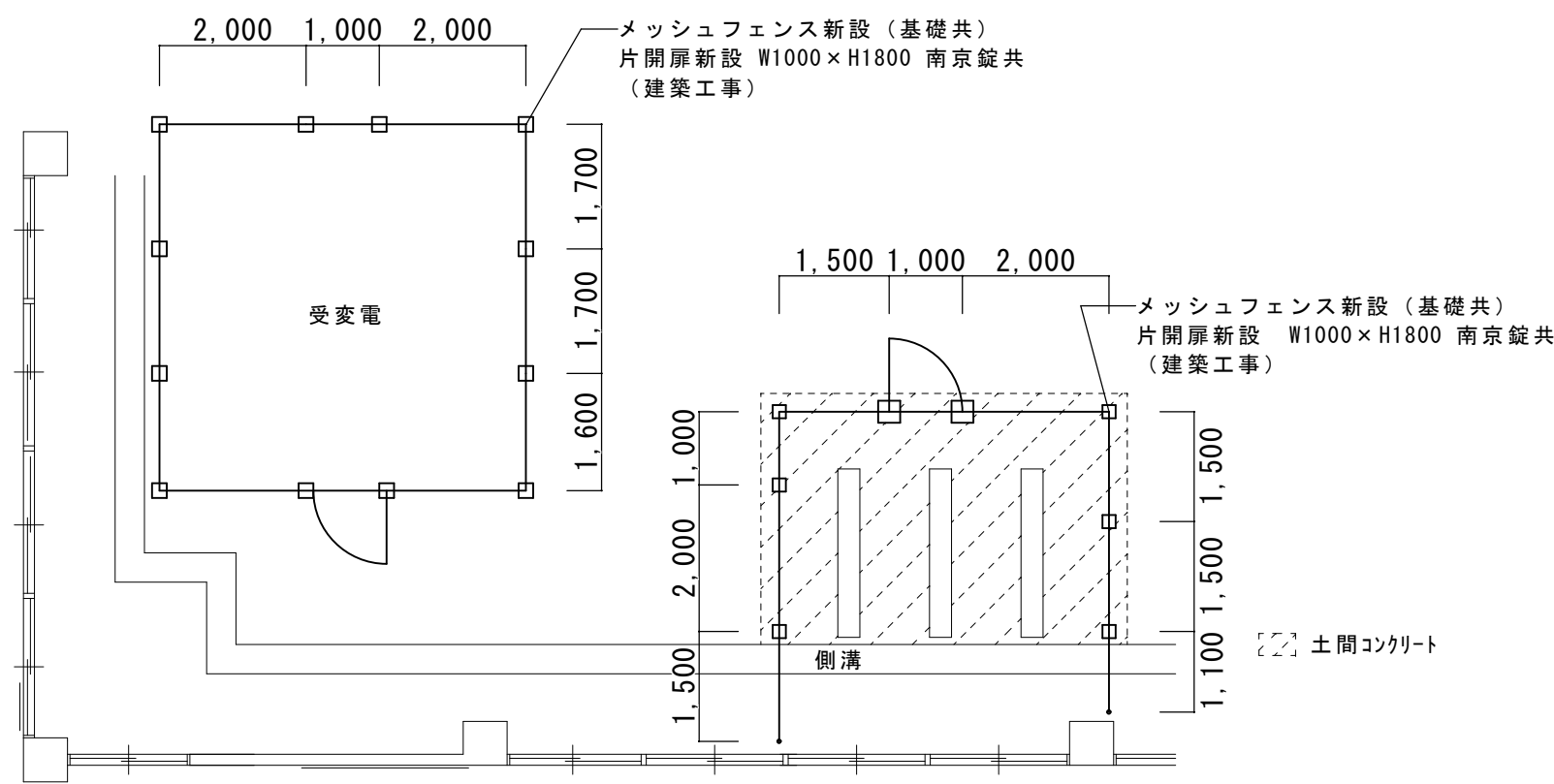
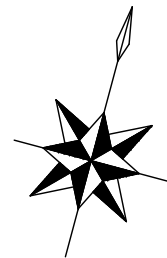
※配管架台は、溶融亜鉛メッキ製とすること。

凡例	
図示記号	名称
————	新設配管
-----	既設配管
-----+ -----	既設配管切断接続
—— - ——	給水管
—— X ——	消火管
⊗	弁類

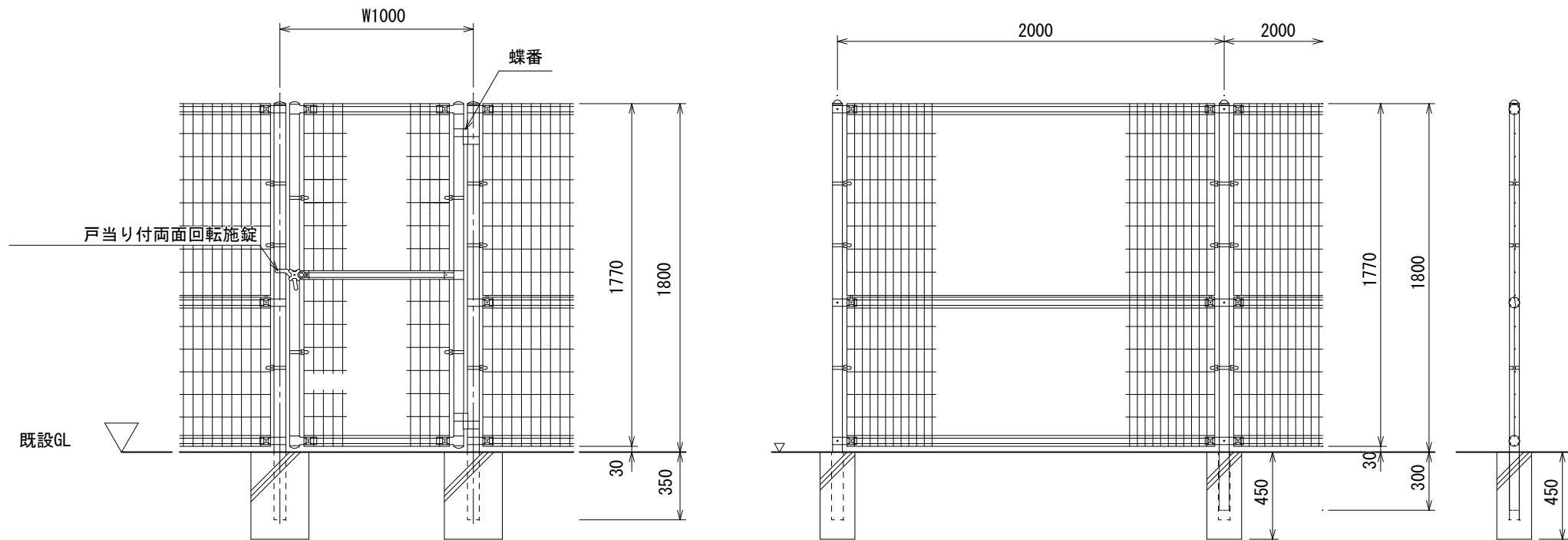
津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		縮尺 1/50
図面名称	給水設備 塔屋平面詳細図	原図：A 2
津 市 建 設 部 営 繕 課		No. M-19



給水設備 外構図（改修前） S=1/100



給水設備 外構図（改修後） S=1/100

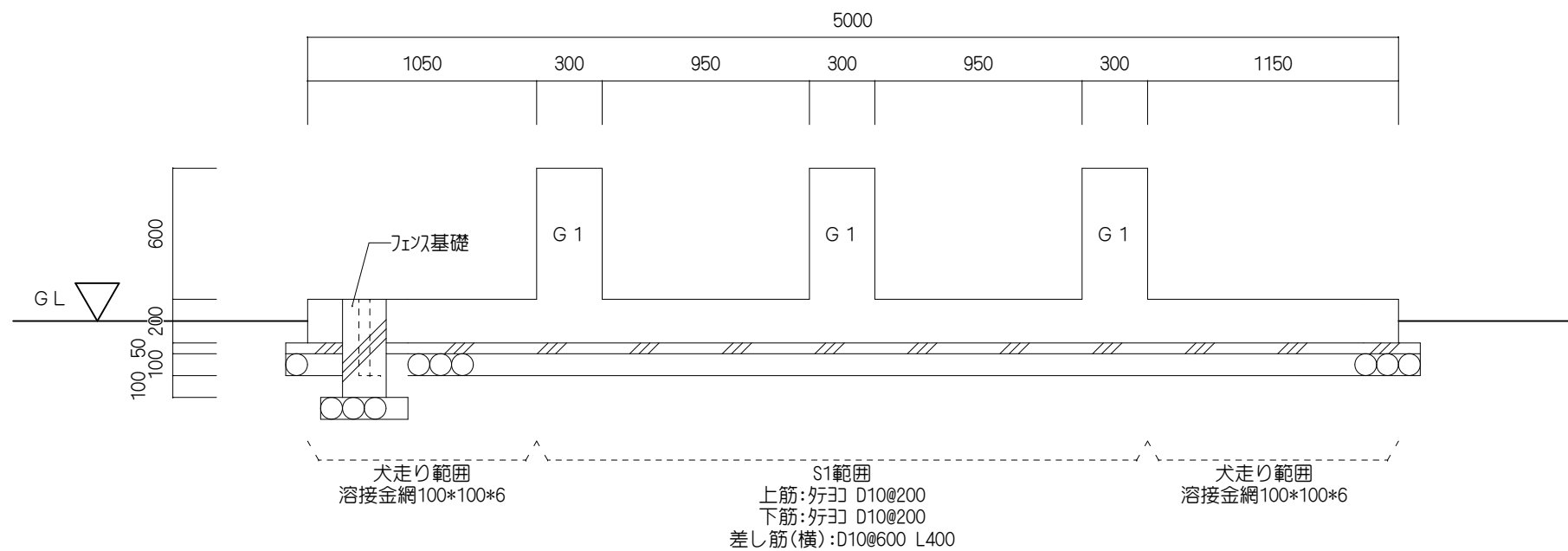


※メッシュフェンス：朝日UN(エ)フェンス同等品

メッシュフェンス詳細図、基礎断面図 S=1/30

	BxD	上筋	下筋	STP	腰筋	巾止筋
G 1	300x600	3-D16	3-D16	2-D10@200	2-D10	D10@1000以内

ステンレスカーボネート (SUS304) : 6-M20 L260



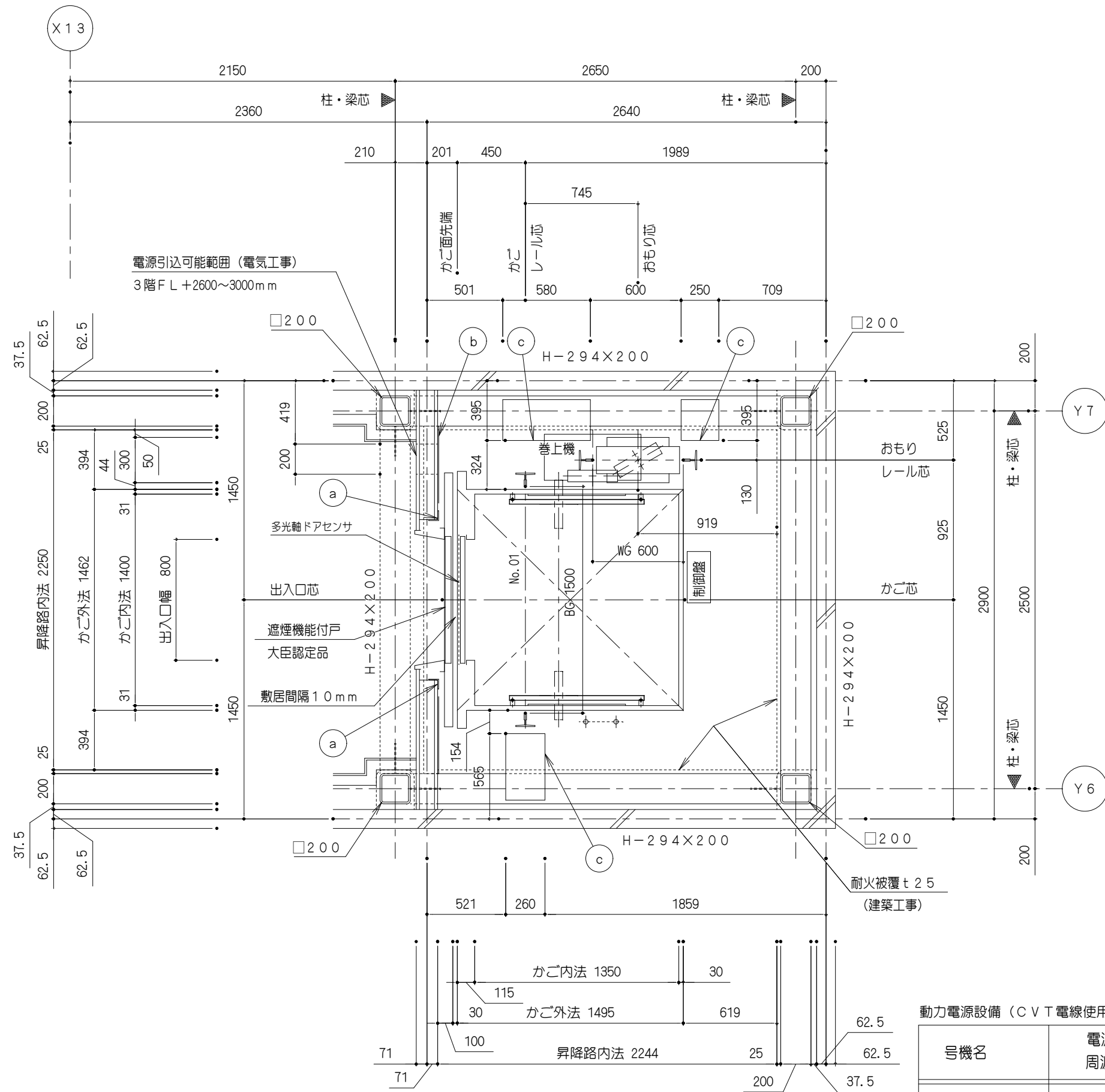
給水設備基礎断面図 S=1/30

※基礎工事は建築工事とする。

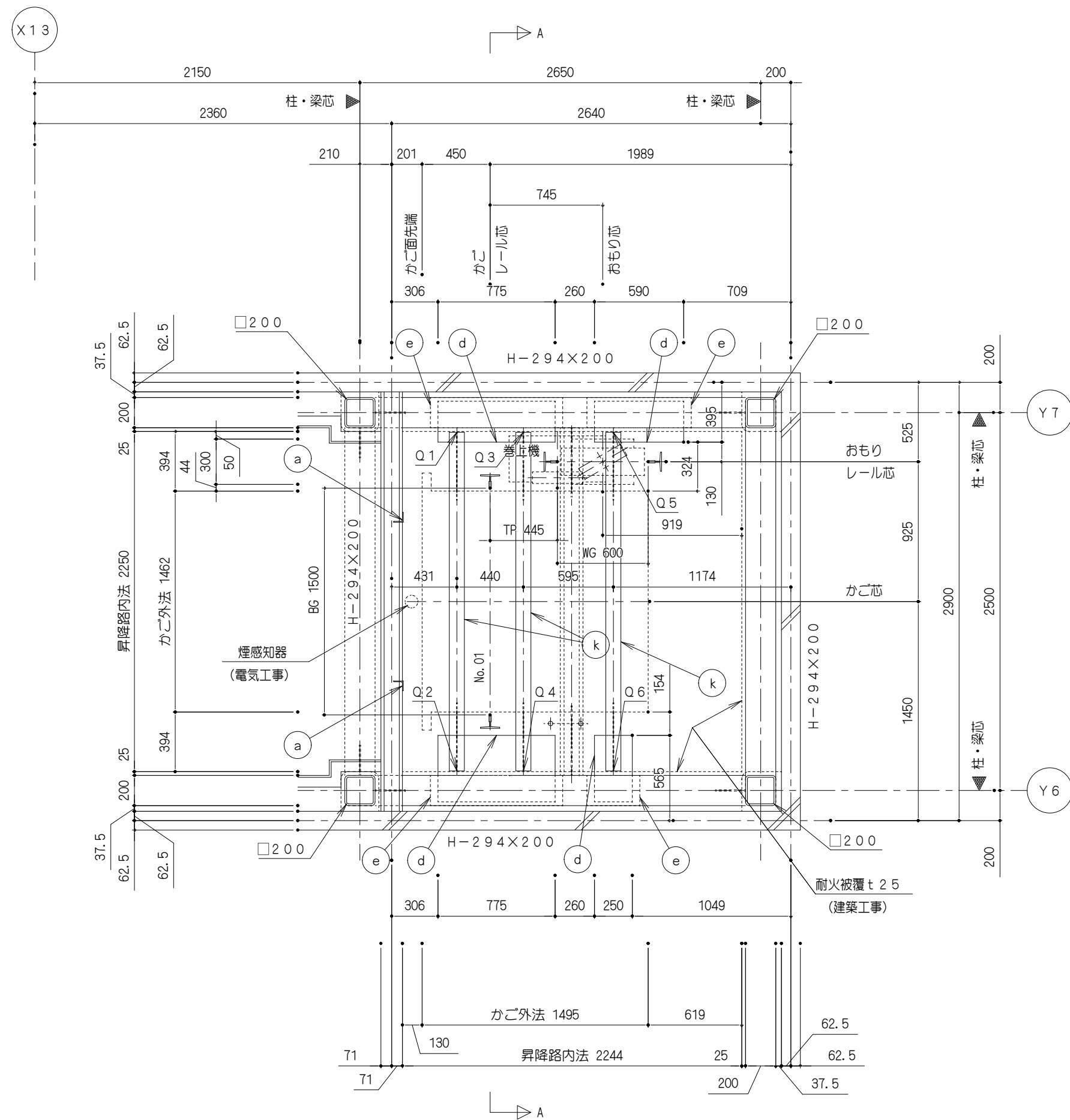
津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事		縮尺
		1/100 1/30
図面名称	給水設備 外構図、フェンス詳細図	原図：A 2
津市建設部営繕課		No. M-20

エレベーター仕様要項			エレベーター仕様要項			No. 01号機		
分類			分類			除外工事事項		
基本仕様	仕様項目	01号機	その他基本仕様	仕様項目	01号機	注意事項		
	機種名称	機械室レスエレベーター		乗場仕様	クラスA14	<div>1. 昇降路開口・実行方法は、昇降路全端（ビット底部から昇降路底部まで）にわたり確保のこと</div> <div>2. コンクリート強度は21N/mm<sup>2</sup>以上のこと</div> <div>3. 電源電圧の変動は+5%～-10%以内、電圧不平衡率5%以内のこと</div> <div>4. 本エレベーター所定の性能維持のため下記条件とすること</div> <div>(1) 昇降路内の温度は-5℃～4℃以内、湿度は月平均90%・日平均95%未満かつ急激な温度変化等により氷結・結露しないこと</div> <div>(2) 金属を消耗または腐食したり電気接点の接触障害の原因となるような塵及び化学的有害ガス及び爆発性ガスのないこと</div> <div>①腐食性ガス：硫化水素ガス、亜硫酸ガス、塩素ガス、過酸化水素ガス、アンモニアガスおよび海岸地区における潮風</div> <div>※昇降路標準環境の基準例</div> <div>硫化水素ガス…H2S=0.005 [ppm] 以下</div> <div>亜硫酸ガス…SO2=0.01 [ppm] 以下</div> <div>塩化水素ガス…HCl=0.05 [ppm] 以下</div> <div>塩素ガス…Cl2=0.005 [ppm] 以下</div> <div>アンモニアガス…NH3=0.1 [ppm] 以下</div> <div>海岸地区における潮風・海岸より2km以上の地区（ブルサイドの場合は上記濃度ガスC12基準値以下）</div> <div>※海岸より2km未満、ブルサイドの場合は昇降路内に潮風・ブル方向からの風が入らず、乗場が屋外に露出しないようなレイアウトとすること</div> <div>②電気接点の接触障害となるもの：鉄粉、炭塵、化学工場における粉塵</div> <div>③爆発性ガス、又は、粉塵：メタン、石灰灰、ブタン、ガソリン、アセチレン、氷素、エーテル、炭塵、穀粉</div> <div>(3) エレベーターの電気信号に影響を及ぼす電磁波がないこと</div> <div>電磁波の電界強度が10V/m以下の環境とすること</div> <div>(4) 原則、昇降路の設置場所は標高1000m以下の高さとすること</div> <div>5. (1) 屋上等直接外気と接する乗場における雨水より設備により外部から風雨が侵入しないこと</div> <div>(2) センサ誤動作防止、及び乗場戸熱変形防止のため、屋外又は、屋内ガラス越しから乗場及び駆動・制御装置（制御盤、秤装置等）に直射日光が当たらない対策を実施のこと</div> <div>6. 昇降路壁には電気・水道管の配管・器具を埋め込まないこと</div> <div>7. 昇降路内には他の用途の配管・ダクト等が露出しないようにすること</div> <div>(建築基準法施行令第129条の2の4第1項第三号)</div> <div>8. 遮断器はインバータ回路対応のものを使用すること</div> <div>9. 輸送可能な適温配重量や台車などの重量物は250kg以下とすること</div> <div>10. 換気設備を設置する場合は昇降路外部より保守可能な位置とし、設置環境により雨水或いは、防水対策を実施のこと</div> <div>11. エレベーターの保守・点検ならびに緊急対応のため、外部階段などから最上階および最下階エレベーターホールへアクセスできる経路を確保すること（個人宅など占有部を経由しないこと）</div> <div>12. エレベーターから発生する高周波漏洩電流と高周波ノイズにより、他の設備に影響を受ける恐れがあります</div> <div>次の対策をお勧めします</div> <div>(1) エレベーター動力と通信機器・OA機器等弱電機器の電源線・通信線を1m以上分離する</div> <div>(2) エレベーターを含む動力の電源トランスと通信機器・OA機器等弱電機器の電源トランスを分離する</div> <div>(エレベーター照明用電源は弱電機器のトランスと分離不要)</div> <div>(3) エレベーターを含む機器アース線と通信機器・OA機器等弱電機器のアース線の分離配線と接地極の分離をする</div> <div>13. 乗場壁へフレタン吹付けを行う場合は、乗場機器取付け後に施工する必要があります。乗場機器取付け前にフレタン吹付けを行うと、乗場機器取付け時の溶接の火花に引火する恐れがあります</div> <div>昇降路内は不燃材料もしくは難燃材料（平12建告1402号で定められた材料又は国土交通大臣の認定を受けたもの）とする必要があります</div> <div>※法定のオーバーヘッド寸法確保やドア装置取付けに支障がないことを確認ください</div> <div>14. 乗場に向かつて強風が吹く場合には、防風対策（建築工事）を行うこと、風圧により乗場の戸が閉まらない恐れがあります</div> <div>15. 製品の検査は各規格に準じた社内基準で行います</div> <div>電動機（巻上機・駆動機）：JEC-2110、2130、JIS C-4034-1</div> <div>制御盤：JEM1021、1460</div> <div>尚、電動機の温度上昇試験・負荷特性試験は型式試験結果です</div> <div>16. カゴの内装デザイン等が別途工事の場合、品質保証（変色、はがれ、劣化等の外観変化）対象外となります</div> <div>また、昇降路保守対象外となります材質、構造等は以下を厳守のこと</div> <div>材質：不燃又は難燃認定品</div> <div>構造：鉄筋部（縦等含む）には、エレベーター非常止め作動時または地震発生時又は4G（縦方向）、地震時は1G（横方向）相当の加速度が発生する可能性があるためそれに耐え、かつ揺動固定による劣化を考慮した取付構造とすること</div> <div>照度：カゴの床面で50ルクス（乗用、渡台用以外にあっては25ルクス）以上の照度とすること</div> <div>建築用途と使用環境の違いにより、早期に寿命を迎えることがあります</div> <div>・カゴ照明の自動停止機能により、照明のON/OFF回数が多い</div> <div>・カゴの昇降による振動がある</div>		
	機種形式	P11-CO			令和4年版			
	用途	乗用			10mm			
	制御方式	可変電圧可変周波数制御（回生なし）			制御機能付			
	操作方式	乗合全自動方式（1C-2BC）			あり			
	積載量	750kg			3枚			
	定員	11名			P波+S波センサ付3段設定（普通級）			
	定格速度	45m/min			あり			
	戸開方式	2枚戸両引き（CO）			あり			
	出入口幅	800mm			大枠末広幕板なし 130mm～350mm ステンレスヘアライン（1～3階）			
	出入口高さ	2100mm			鋼板塗装（メーカー標準色）（1～3階）			
乗場仕様	カゴ室サイズ（内法開口）	1400mm	乗場仕様	乗場戸	アルミ製（1～3階）			
	カゴ室サイズ（内法奥行）	1350mm		乗場敷居	一体セグメントLED（橙色） ステンレスヘアライン（1～3階）			
	カゴ室内法高さ	2300mm		乗場インジケータ	ステンレスクリックボタン（φ33・凸文字・黄橙色LED）			
	出入口方式	一方向出入口		乗場インジケータ形ボタン	ステンレスクリックボタン（φ33・凸文字・黄橙色LED）			
	正面側停止数	3停止（1～3階）		乗場インジ運行表示灯1	休止表示			
	動力用電源	AC3φ-210V-60Hz		車いす専用乗場ボタンプレート	一般用乗場ボタン+体形 ステンレスヘアライン（1～3階）			
	照明用電源	AC1φ-100V-60Hz		車いす専用乗場ボタン	ステンレスクリックボタン（φ33・凸文字・黄橙色LED）			
	EV177認定番号: CAS-0519			乗場休止スイッチ	あり			
	乗場遮煙ドア設置上の条件			乗場休止スイッチ取付位置	乗場インジ絡込			
	・乗場遮煙ドアを設置するためには、自動火災報知設備の設置義務の無い建物であっても、同設備を設けること。			カゴ室仕様	天井	スタンダード：フラット（白色） 天井素材：鋼板塗装（メーカー標準色）		
	・自動火災報知設備の設置義務の無い建物の場合には、乗場遮煙ドア設置階のエレベーターホールに必ず煙感知器などの火災感知器を設置し、火災感知信号を自動火災警報盤を介してエレベーター制御盤に供給すること。（無電圧α接点、接点電圧DC24V）				正面壁	化粧鋼板		
					側面壁	化粧鋼板		
					袖壁材質	ステンレスヘアライン		
					出入口上板	化粧鋼板		
					カゴ室戸	化粧鋼板		
					巾木	アルミ製		
					カゴ床	樹脂タイル2mm（メーカー標準タイル）		
					カゴ室敷居	アルミ製 2枚戸両引き用		
					カゴ操作盤タイプ	袖壁操作盤		
					カゴ操作盤プレート	ステンレスヘアライン		
					カゴボタン	ステンレスクリックボタン（φ33・凸文字・黄橙色LED）		
					インターホンボタン乱用防止カバー	あり		
その他仕様					正操作盤インジケータタイプ	カゴ内液晶インジケータ（10.1インチ）		
					カゴ操作盤液晶インジケータ表示言語	2ヵ国語表示（日本語、英語）		
					車いす専用カゴ操作盤	両側面 ステンレスヘアライン		
					車いす専用正カゴ操作盤インジケータタイプ	ドットLED（橙色）		
					車いす専用カゴボタン	ステンレスクリックボタン（φ33・凸文字・黄橙色LED）		
					車いす専用インターホンボタン乱用防止カバー	あり		
					カゴ室換気	ファン		
					カゴ室手すり	丸形ステンレス 二面取付（両側面）		
					カゴ室鏡	ステンレス鏡面フルハイト（巾500）		
					キックプレート	板厚2.0ステンレスヘアライン（ビスなし）高さ：床面より350mm		
					壁保護帯	磁石式（保護帯高さ標準：床面より上端まで1895mm）		
					床保護マット	あり		
					挟まれ防止ドアセンサ	あり		
					セーフティシュー	片側（多光軸ドアセンサ付き）		
					遮煙機能	大臣認定品 2枚戸両引き用（1～3階）		
			点字名板取付方法	接着				
			インターホン呼び出しボタン応答灯（聴覚障がい者対応仕様）	あり				
			おもり非常止め	なし				
			火災時管制運転方式	火報信号連動式				
			インターホン型式	6V1局				
			カゴ内アナウンス	カゴ内音声合成アナウンス				
			カゴ室スピーカー	あり				
			高調波対策種類	DCリアクトル（Ki=1.8）				
			フェッシャプレート	エレベーター手配（標準品）（2～3階）				
			レール支持方式	1フロア1ブラケット				
			煙感知路点検口スイッチ	正面側上部取付 【標準】				
			揚重ビーム手配	建築手配				
			仮設動力電源	1式				









昇降路平面図 (1/30)

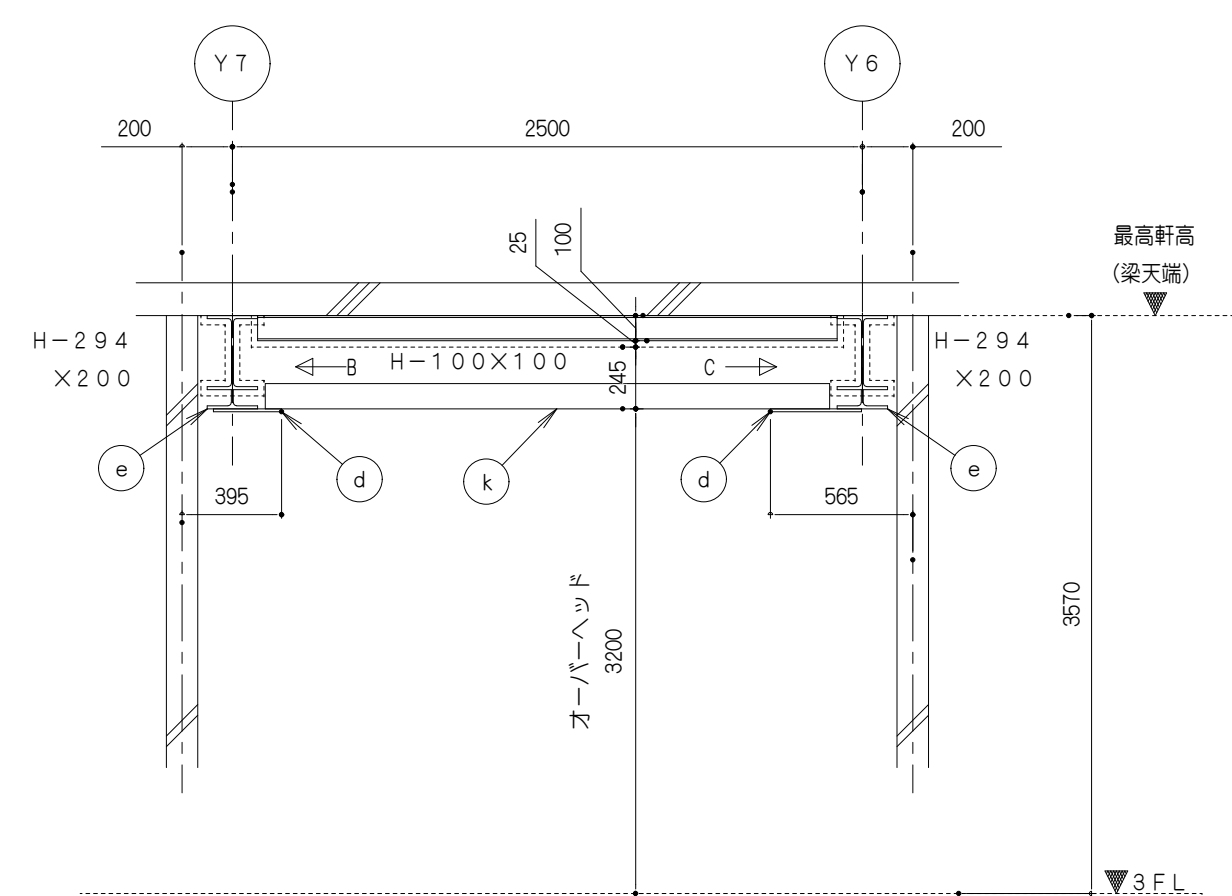
(頂部)

揚重ビームに掛かる荷重 No. 01

Q1 (kN)	Q2 (kN)	Q3 (kN)	Q4 (kN)	Q5 (kN)	Q6 (kN)
6. 0	2. 0	8. 0	10. 0	16. 0	11. 0

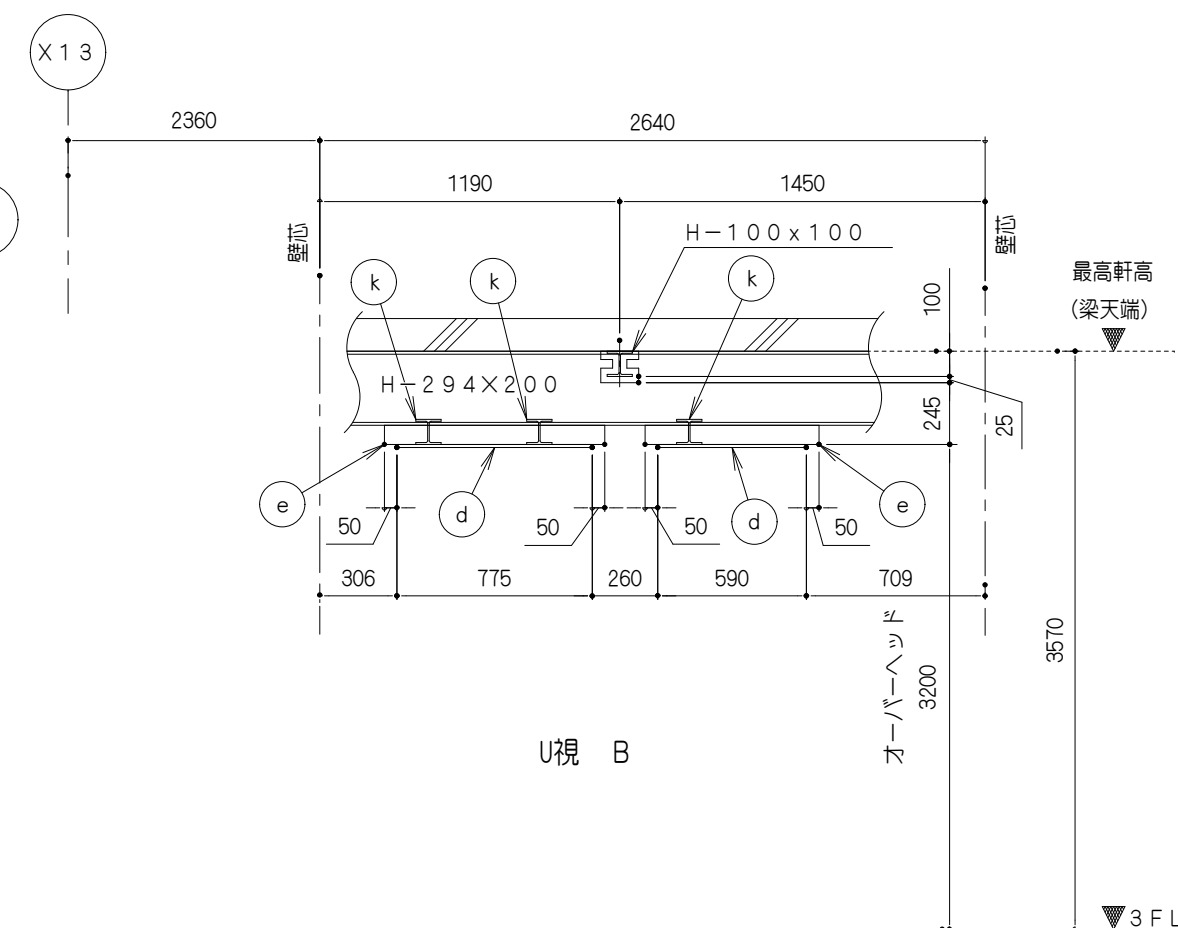
Q1～Q6はE V据付時に作用する

部材 記号	名 称	部 材	工事区分
a	三方枠取付鋼材	L-75×75×6	建築工事
d	レールブラケット取付用ファスナー兼 揚重ビーム取付用ファスナー	PL-t12	建築工事
e	かさ下げ材	CT-294×200	建築工事
k	揚重ビーム(据付後残置)	H-100×100×6×8	建築工事

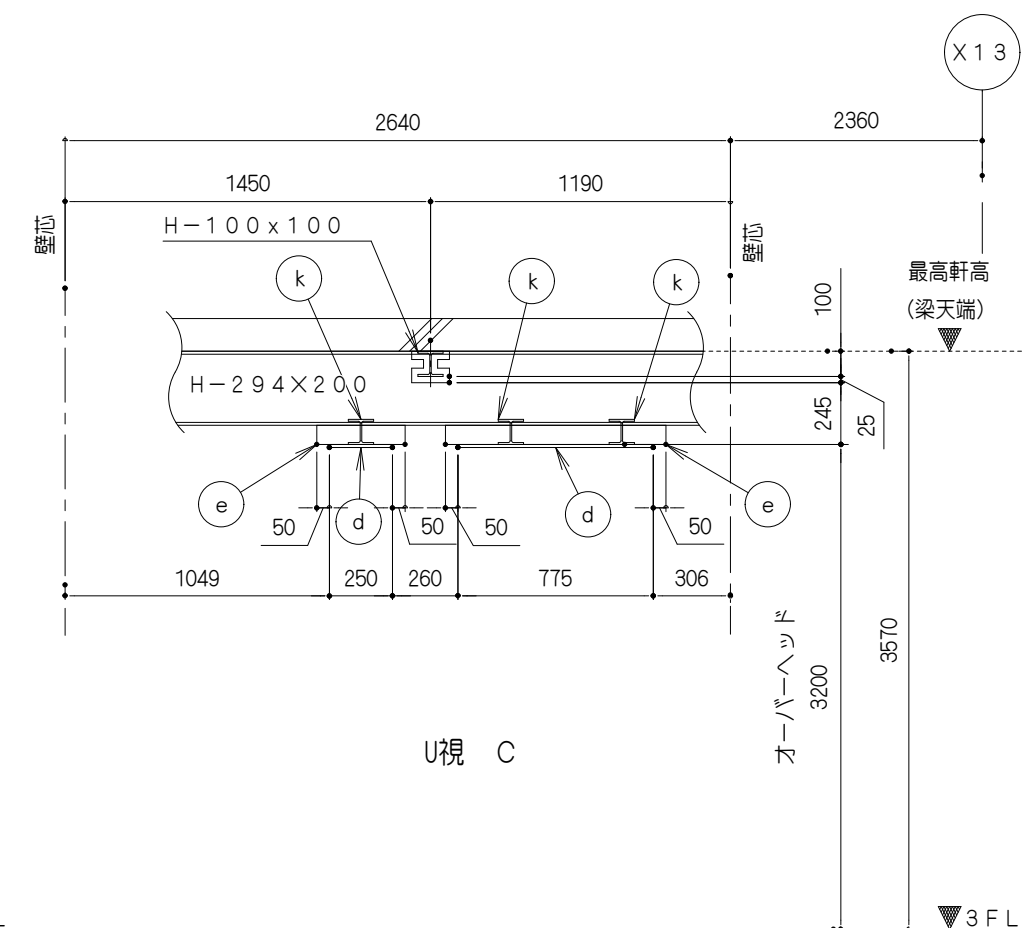


升降路頂部断面図 (1/30)

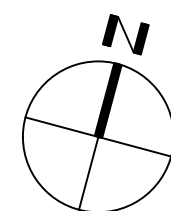
断面 A-A



U視 B

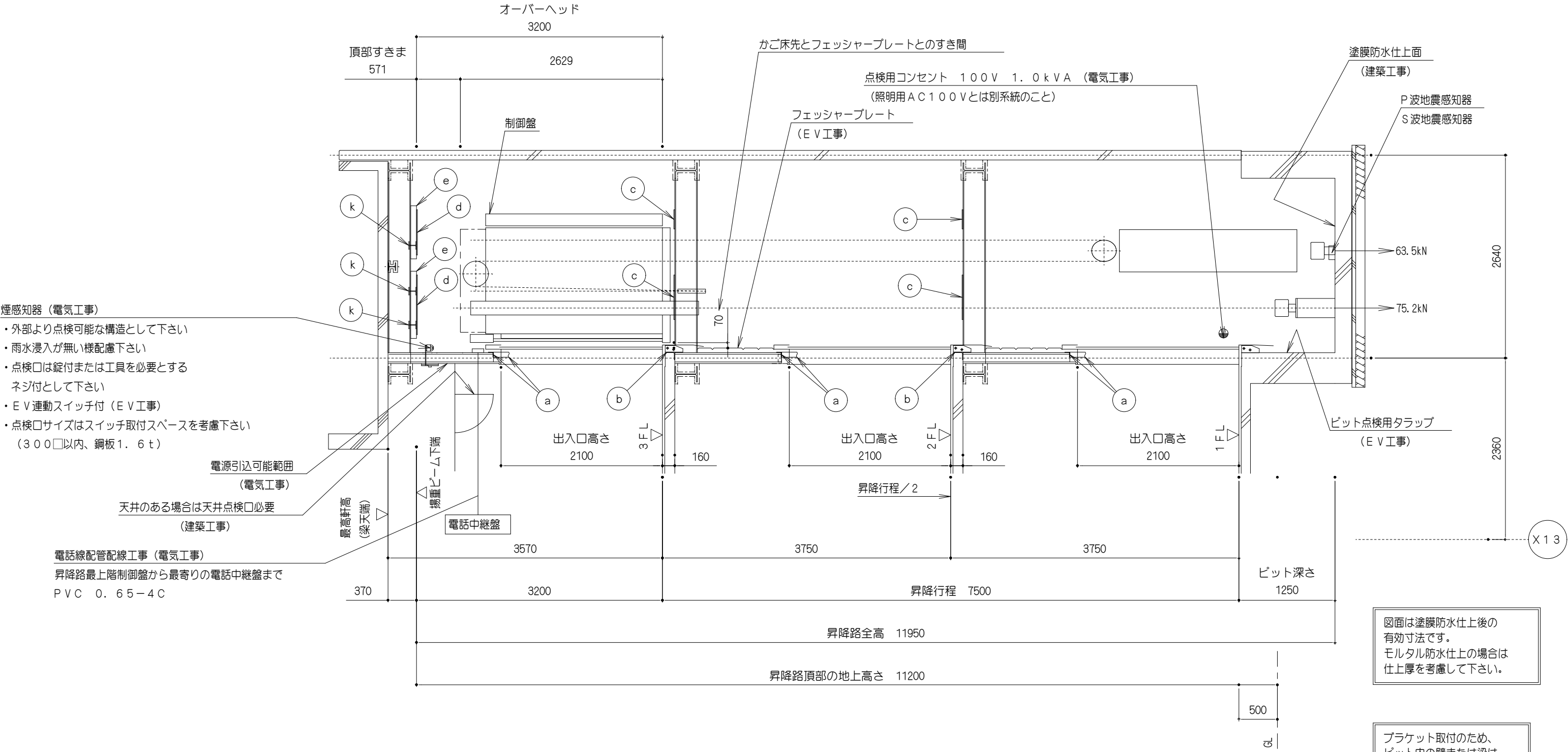


U視 C



[原函A2]

■ : NOTE	<div>NISSHIN SEKKEI 目新設計株式会社 三重県知事登録第1-518号</div>	<div>Job Title</div> 津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事				<div>DATE</div> 2024 - Jan	
		<div>Drawing Title</div> 1/A*~9-詳細図04				<div>SCALE</div> A2:1/30 A3:1/42	
		設計担当				E V - 0 4	
		多湖 弘樹					
		一般建築士 第382361号					



煙感知器（電気工事）

- ・外部より点検可能な構造として下さい
- ・雨水浸入が無い様配慮下さい
- ・点検口は錠付または工具を必要とするネジ付として下さい
- ・E V 連動スイッチ付（E V 工事）
- ・点検口サイズはスイッチ取付スペースを考慮下さい（300□以内、鋼板1.6t）

電源引込可能範囲（電気工事）

天井のある場合は天井点検口必要（建築工事）

電話線配管配線工事（電気工事）

昇降路最上階制御盤から最寄りの電話中継盤まで

PVC 0.65-4C

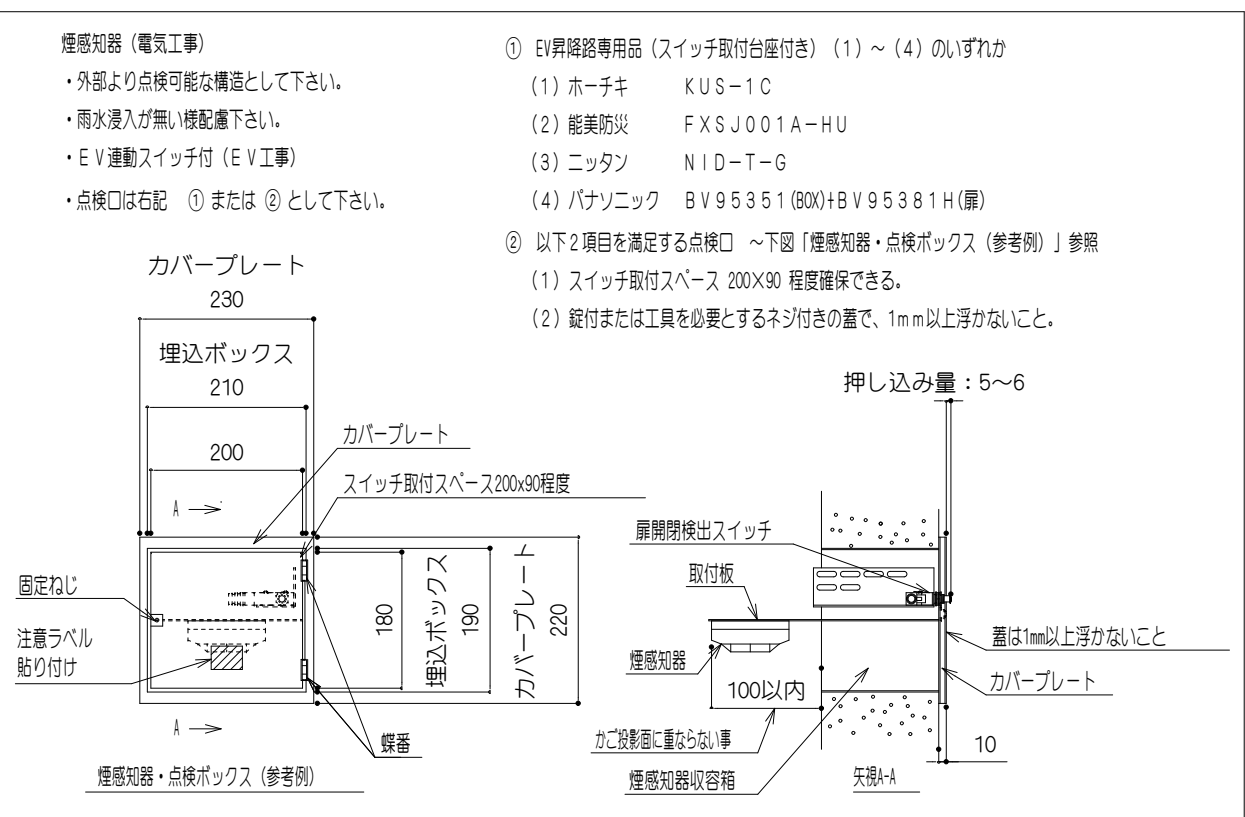
図面は塗膜防水仕上後の有効寸法です。モルタル防水仕上の場合は仕上厚を考慮して下さい。

ブラケット取付のため、ビット内の壁または梁は最下階FL面まで立ち上げて下さい（建築工事）

昇降路内の温度は40℃以下とする

昇降路断面図 (1/50)

煙感知器施工例



部材 記号	名 称	部 材	工事区分
a	三方棒取付鋼材	L-75×75×6	建築工事
b	敷居取付材	L-100×100×7	建築工事
c	レールブラケット取付用ファスナー	PL-t12	建築工事
d	レールブラケット取付用ファスナー兼 揚重ビーム取付用ファスナー	PL-t12	建築工事
e	かさ下げ材	CT-294×200	建築工事
k	揚重ビーム（据付後残置）	H-100×100×6×8	建築工事

〔原図A2〕

■：NOTE

NISSHIN  
SEKKEI  
日新設計株式会社

三重県知事登録第1-518号

Job Title	津市立豊が丘小学校長寿命化改修工事	DATE	2024 - Jan
Drawing Title	エレベーター詳細図05	SCALE	A2:1/50 A3:1/70
多湖 弘樹	設計担当		
一級建築士 第382361号			

EV-05

